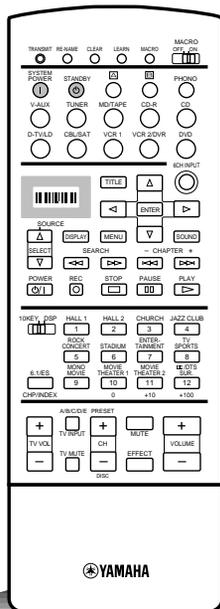
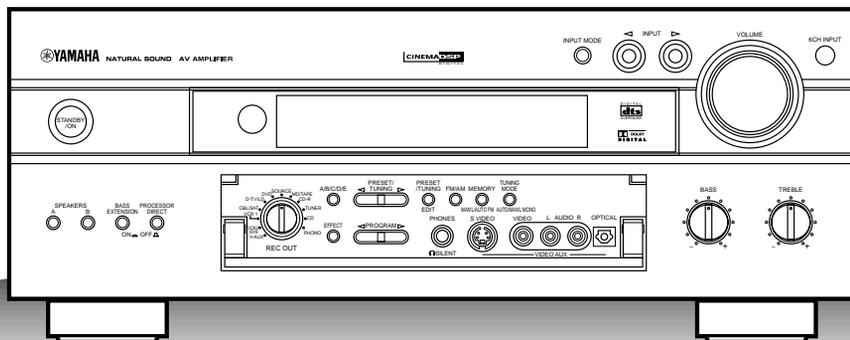


NATURAL SOUND AV AMPLIFIER

DSP-AX10

取扱説明書



このたびは、YAMAHA AVアンプDSP-AX10をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

DSP-AX10の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくためにも、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に保管してください。

保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、販売店名、購入日などがありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、充分ご注意ください。

ご使用前に必ずお読みください

本機の特長

ご使用前に

基本操作

応用操作

解説

参考

安全上のご注意（安全に正しくお使いいただくために）

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この「安全上のご注意」に書かれている内容には、お客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。

絵表示の例



記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。



分解禁止

⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。



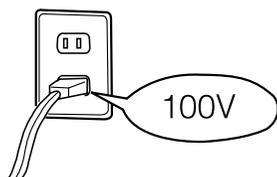
記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。



警告

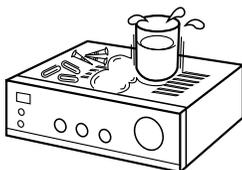
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- ⊘ 電源電圧交流100V以外の電圧で使用しない



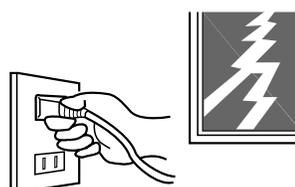
火災・感電の原因となります。本機を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。

- ⊘ 水や金属類を入れたり、ぬらさない



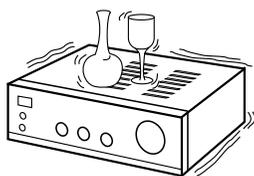
火災・感電の原因となります。本機の上に水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。また、本機を水滴などが落ちる場所に設置しないでください。

- ⊘ 雷が鳴っているときは、アンテナ線や電源プラグに触れない



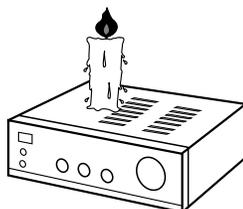
感電の原因となります。

- ⊘ 陶器やガラス類などを置かない



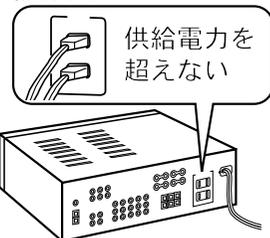
振動により落ちたり、倒れたり、割れたりするとケガをする恐れがあります。

- ⊘ 火のついたローソクなどを置かない



火災・感電の原因となったり、火傷をする恐れがあります。

- ⊘ 供給電力を超える消費電力の機器を、電源供給コンセントに接続しない



火災の原因となります。接続機器の消費電力の合計が本機背面上に表示されている供給電力を超えないようにしてください。また、供給電力内であっても電源を入れたときに大電流の流れる機器（電熱器具、ヘアドライヤー、電子レンジなど）は接続しないでください。



警告

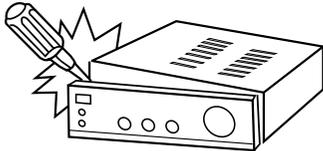
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



分解・改造を絶対しない

分解禁止

(キャビネットをはずすことも含む)

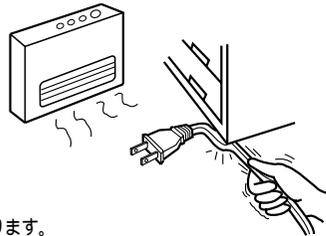


火災・感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。



電源コード・プラグを破損するようなことをしない

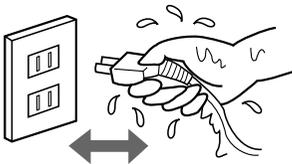
(傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる・ねじる、引っばる、束ねる、重いものをのせるなどしない)



火災・感電の原因となります。
コードやプラグの修理は販売店にご相談ください。



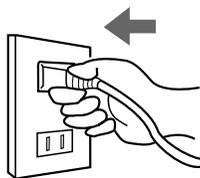
濡れた手で電源プラグの抜き差しをしない



感電の原因となります。



電源プラグは根元まで確実に差し込む



差し込みが不完全だと、感電や発熱による火災の原因となります。
抜くときは必ずプラグを持ち、コードを引っばらないでください。
傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使わないでください。



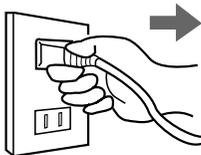
電源プラグのほこりなどは定期的に取り除く



プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因となります。
電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。



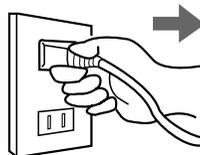
機器の内部に水や異物が入った場合は、まず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く



販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



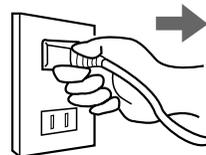
煙が出たり変なおいや音がしたら、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグを抜く



そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。



落としたりして本機を損傷した場合は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜く



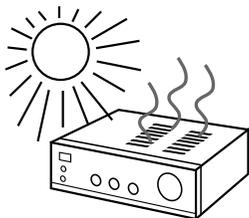
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。



注意

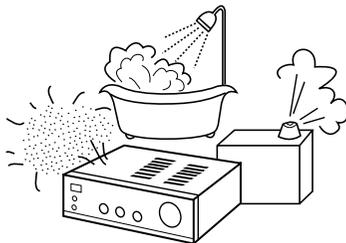
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

- ⊘ 直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に置かない



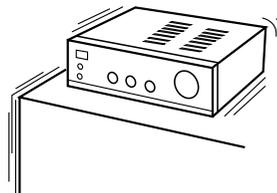
キャビネットや部品に悪い影響を与えたり、内部の温度が上昇し、火災の原因となることがあります。

- ⊘ 湿気やほこりの多い場所に置かない



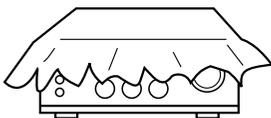
加湿器を使用する場合は、本機との間に十分なスペースをとり、加湿しすぎないようにしてください。本機内部に結露が生じると故障するだけでなく、火災・感電の原因となることがあります。

- ⊘ 振動のある場所、ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない



落ちたり、倒れたりしてケガの原因となることがあります。

- ⊘ 通風孔をふさがない



通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがありますので、次の点に注意してください。

テーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや、布団の上に置かないでください。本機を押し入れ、本箱など風通しの悪い狭い所に押し込まないでください。

- ⚠ 放熱をよくするために他の機器との間は少し離して置く



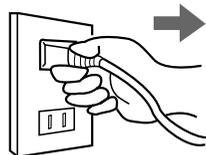
火災・故障の原因となることがあります。ラックなどに入れるときは、本機の天面から30cm以上、左右から20cm以上および背面から10cm以上のすきまを開けてください。

- 🔌 各機器を接続する場合は電源プラグを抜き、説明に従って接続する



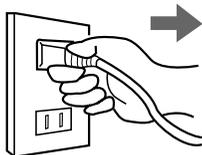
各々の機器の取扱説明書をよく読み、接続には指定のコードを使用してください。

- 🔌 移動するときは電源スイッチを切り、必ず電源プラグを抜き、外部の接続コードを外す



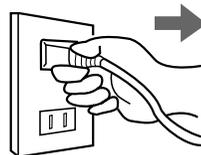
コードが傷つくと火災・感電の原因となることがあります。

- 🔌 お手入れの際は、安全のため電源プラグを抜く



感電の原因となることがあります。

- 🔌 長期間使わないときは、必ず電源プラグを抜く



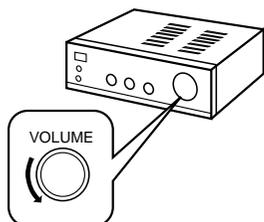
火災の原因となることがあります。



注意

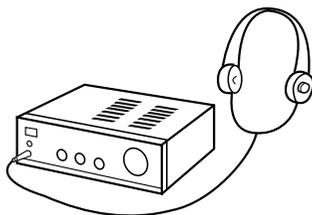
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

- ⚠ 電源を切る前には音量を最小にする



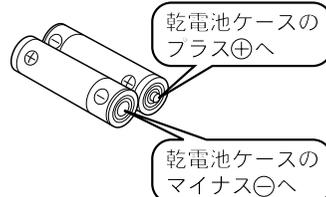
電源を入れたとき、突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

- ⊘ ヘッドホンを使うときは、音量を上げすぎない



大きな音で聞くと、聴力障害などの原因となることがあります。

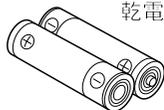
- ⚠ 付属のリモコンに電池を挿入する場合、極性表示 プラス \oplus とマイナス \ominus 通りに入れる



間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

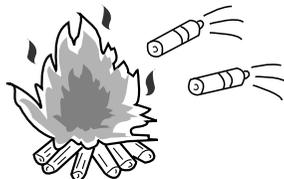
- ⊘ 指定以外の乾電池は使用しない

取扱説明書に記載されている乾電池を使用する



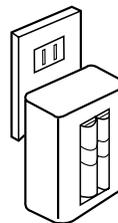
また、種類の違う乾電池、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- ⊘ 乾電池はショート、分解、加熱、火に入れるなどしない



発熱、液もれ、破裂などを起こし、けが、やけどの原因となることがあります。

- ⊘ 乾電池は充電しない



液もれ、破損などを起こし、けが、やけどの原因となることがあります。

- ⚠ アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。

- ⚠ 1年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご相談ください。

本機の内部にほこりがたまったまま長い間掃除しないと、火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行くと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。

目次

本機の特長

特長	2
ご確認ください	3
付属品	3
リモコンの電池の入れ方	3
各部の名称とはたらき	4
フロントパネル	4
リモコン	6
リモコンの使用範囲	8
ディスプレイ	9
リアパネル	10

ご使用の前に

スピーカーの設置	11
使用するスピーカー	11
スピーカーの設置場所	11
接続のしかた	12
正しい接続のために	12
オーディオ機器の接続	12
ビデオ機器の接続	14
スピーカーの接続	16
他のアンプとの接続	18
外部デコーダーの接続	18
電源コードの接続	19
オンスクリーン表示	20
表示の種類	20
表示の切り換え	20
スピーカーモードの設定	21
SPEAKER SET 1A ~ 1Fの設定内容	21
スピーカーのレベル調節	22
調節の前に行うこと	22
テストトーン (TEST DOLBY SUR.)	23

基本操作

再生	24
入力モードと表示	26
音場プログラムの選択	28
通常のステレオ再生	29
FM/AM放送を聴く	30
アンテナの接続	30
選局する	31
放送局のプリセット	32
プリセット選局のしかた	33
プリセット局の入れかえ	34
録音と録画	35

応用操作

セットメニュー	36
セットメニューの操作手順	36
1 SPEAKER SET(スピーカーモードの 設定)	37
2 LOW FRQ TEST(ローフリクエンシー テスト)	40
3 L/R BALANCE(メインスピーカー バランス)	41
4 HP TONE CTRL(ヘッドホントーン コントロール)	41
5 CENTER GEQ(センターグラフィック イコライザー)	41
6 INPUT RENAME(インプットリネーム)	41
7 I/O ASSIGNMENT(入出力アサイン)	41
8 INPUT MODE(初期インプットモード)	42
9 PARAM. IN(パラメーター イニシャライズ)	42
10 DOLBY D. SET(ドルビーデジタル セット)	42
11 DTS LFE LEVEL(DTS LFEレベル)	43
12 6.1/ES AUTO(6.1/ESオート)	43
13 SP DELAY TIME(スピーカーディレイ タイム)	43
14 DISPLAY SET(ディスプレイセット)	44
15 MEMORY GUARD(メモリーガード)	44
エフェクトスピーカーのレベル調節	45
スリープタイマー	46
スリープタイマーの設定	46
スリープタイマーを解除する	46
リモコンで操作する	47
操作エリアについて	47
各機器を操作する	49
メーカーコードセットアップのしかた	54
ラーニングのしかた	55
マクロ機能を使う	57
リモコンに表示される機器名を変更する	59
学習内容とマクロの消去	59
すべてのキーを消去するには	60

解説

音場プログラム	61
Hi-Fi DSPプログラム	61
CINEMA DSPプログラム	62
MOVIE THEATERプログラム	65
音場プログラムパラメーターを変更する	66
音場とは	66
音場プログラムパラメーター	66
パラメーター値を変える	67
パラメーターを初期設定値に戻すには	67
デジタル音場パラメーターガイド	68

参考

故障かな?と思ったら	72
仕様	76

本機の特長

ご使用の前に

基本操作

応用操作

解説

参考

特長

各チャンネルの特性をそろえた高音質ハイパワー5chアンプを搭載

バランスの良い5chハイパワーアンプ
定格出力
(20Hz ~ 20kHz、歪率 0.04%、6)
メインチャンネル(L、R) 100W + 100W
センターチャンネル: 100W
リアチャンネル(L、R) 100W + 100W

音場処理の心臓部をワンチップ化した「シネマDSPエンジン」内蔵のマルチモードDSP

各種のデコーダーやDSPによる効果的な音場再生を実現
デジタルサラウンドフィールドプロセッサ
(41音場プログラムのDSP)
ドルビープロロジックデコーダー、ドルビーデジタル、ドルビーデジタルマトリックス6.1デコーダー
DTS、DTS ESデコーダー
シネマDSP(ヤマハが誇るDSPをドルビープロロジック、ドルビーデジタルおよびDTSにそれぞれ融合させて音場効果を向上させています)
バーチャルCINEMA DSP
サイレントCINEMA DSP

高性能FM / AM チューナー

使いやすい多機能チューナー
オートプリセット選局
プリセットされた放送局のエディット機能内蔵

☞は操作上のアドバイスなど補足的な説明です。

本書では本体とリモコンのどちらでも操作できるが、本体とリモコンのボタン名が異なる場合はリモコンのボタン名を括弧内に表記しています。

AVアンプにふさわしい多機能構成

ホームシアターを演出するための機能をフル装備
先進の96kHz/24bit D/Aコンバーター
音場効果を最大限に引き出すための設定ができる15項目のセットメニュー
調整や設定を分かりやすくするオンスクリーン表示
マルチスピーカーのレベル設定を容易にするトーンジェネレーター
DVDオーディオやその他の音場再生デコーダーにも対応できる6CH INPUT端子
より充実した低音特性が得られるBASS EXTENSIONスイッチ
鮮明な画像が得られるSビデオ端子(IN/OUT)とコンポーネントビデオ端子(IN/OUT)
デジタル音声信号をダイレクトに接続できるOPTICAL(光端子(IN/OUT))とCOAXIAL(同軸端子(IN))
音楽をお聴きになりながらおやすみいただけるスリープタイマー
ラーニング(学習)機能やマクロ機能を内蔵した多機能システムリモコン



これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。



ドルビーラボラトリーズライセンスングコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。ドルビー、DOLBY、AC-3、ドルビーデジタル、PRO LOGIC、サラウンドEX、およびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。非公開機密著作物。著作権1992~1997年ドルビーラボラトリーズ。不許複製。



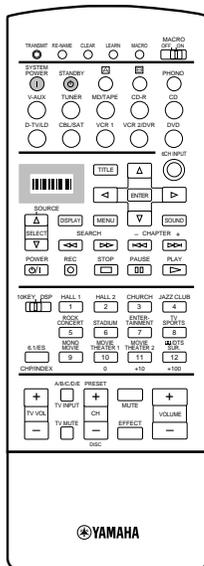
DTS Technology LLCからのライセンスに基づき製造されています。さらに、以下のPCT(特許協力条約)/US95/0059に由来する米国特許5,451,942および米国国内特許出願によるライセンスを受けています。米国特許および外国特許を追加出願中です。“DTS”はDTS Technology LLCの商標です。なお、これらの一部または全部を許可なしに複製することはできません。

ご確認ください

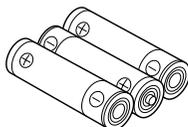
付属品

同梱されている付属品を確認してください。

リモコン



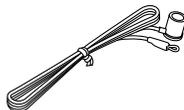
マンガン単3乾電池
(R6) (3本)



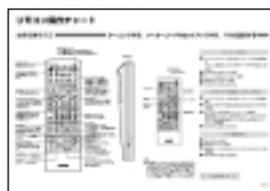
AMループアンテナ



FM簡易アンテナ



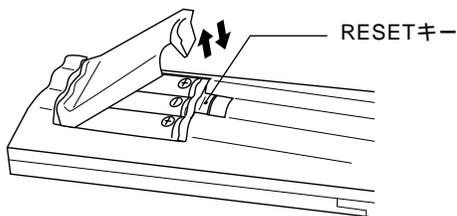
リモコン操作チャート



本機の特長

リモコンの電池の入れ方

リモコンの裏蓋を開けます。付属の単3乾電池(3本)を、リモコンの電池ケース内の表示に従って、プラス(+)とマイナス(-)の向きを間違えないように、正しく入れます。裏蓋を閉めます。(カチッと音がするまで押してください。)



■ 乾電池についてのご注意

消耗した乾電池は早めに交換してください。
新しい乾電池と、一度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
種類の異なる乾電池(アルカリとマンガンなど)を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも性能の異なるものがあります。

■ 乾電池の交換

乾電池が消耗すると、リモコンの操作可能距離が極端に短くなったり、キーを押してもTRANSMITインジケータが点滅しなくなったり、インジケータが暗くなります。このような場合は全て新しい乾電池に交換してください。

交換したらリモコンを使用する前にボールペンなど先の細いもので電池ケース内にあるRESETキーを押します。(RESETキーを押してもメモリーは消えません。)

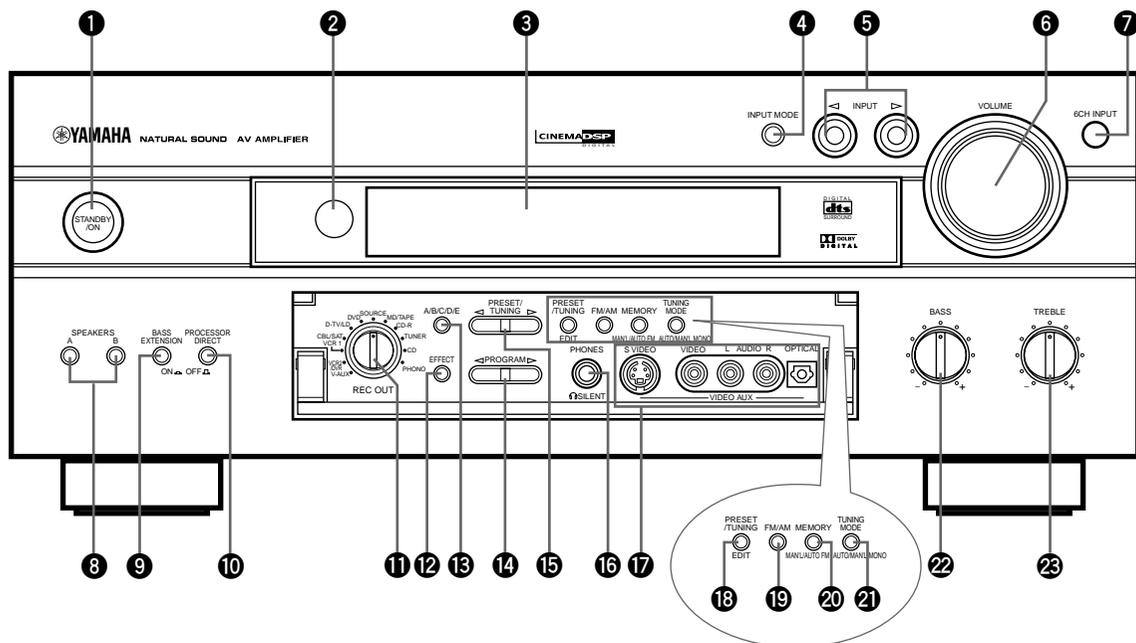
電池を外したまましばらく(3分以上)放置したり、消耗した乾電池をリモコンにそのまま入れておくと、メモリー内容が消えてしまうことがあります。このような場合は、乾電池を新しいものに交換して、メーカーコードをセットアップし再度学習させてください。

ご注意

乾電池が液漏れをした場合はただちに破棄してください。漏れた液にふれたり衣類などに付着しないようにしてください。新しい乾電池を入れる前に電池ケース内をきれいにふいてください。

各部の名称とはたらき

フロントパネル



① STANDBY/ONスイッチ

本機の電源をオン/オフします。電源を入れてから数秒間は音が出ません。

② リモコン受光窓

付属リモコンのコントロール信号を受光します。

③ ディスプレイ

プログラムの名称や、パラメーターなどの動作状況を表示します(P9参照)。

④ INPUT MODEキー

本機に2種類以上の信号を同時に入力する時に入力信号のモードを選択します(P26参照)。6CH INPUT端子の入力信号のモードは選択できません。

⑤ INPUT </> キー

再生するソース(DVD、D-TV/LD、CBL/SAT、VCR 1、VCR 2/DVR、V-AUX、PHONO、CD、TUNER、CD-R、MD/TAPE)を選択します。

⑥ VOLUMEコントロール

全体の音量を調節します。REC OUTレベルには影響しません。

⑦ 6CH INPUTキー

6CH INPUT端子に接続したディスクリット信号を再生します。このキーで選択されたソースはINPUT</>キーで選択されたものより優先されます。

⑧ SPEAKERS A/Bスイッチ

メインスピーカーA、Bを選びます。

⑨ BASS EXTENSION ON/OFFスイッチ

スイッチを押してONにすると、メインL、Rの低域を全体のトーンバランスを保持したまま+6dB(60Hz)強調することができます。サブウーファーを使用しない場合に効果的です。但し、セットメニュー「1B MAIN SP」がSMALLに、「1E LFE/BASS OUT」がSWFRに設定されている場合はあまり効果はありません。

⑩ PROCESSOR DIRECT ON/OFFスイッチ

スイッチを押してONにするとBASSコントロール、TREBLEコントロールおよびBASS EXTENSIONスイッチがバイパスされ、よりソースに忠実な再生が可能になります。

⑪ REC OUTセクター

録音や録画するソースを選択します。また、SOURCE位置にすると、入力ソースは全てのREC端子に出力されます。

⑫ EFFECTキー

エフェクトスピーカー(センター、リアとリアセンター(P17参照))をオン/オフします。EFFECTキーでこれらのスピーカーをオフにすると、ドルビーデジタルやDTS再生では、LFEを除くすべてのチャンネルをメインL、Rにミックスします。ドルビーデジタルやDTS信号がミックスされると、メインL、Rのレベルが調和しないことがあります。

⑬ A/B/C/D/Eキー

FM/AM放送を聴くとき、プリセットグループ(A、B、C、D、E)を選びます。

⑭ PROGRAM </> キー

音場プログラムを選択します(P28参照)。

⑮ PRESET/TUNING </> キー

バンド(FMまたはAM)表示の隣にコロンの()が点灯しているときは、1~8番のプリセット局番号を選べます。コロンの()が点灯していないときは選局できます。

⑯ PHONES端子

ヘッドホンを接続します。深夜のプライベートリスニングの際は、ヘッドホンのご使用をお勧めします。ヘッドホンを接続すると、信号はPRE OUT端子に出力されません。また、すべてのスピーカーから音は出ません。

⑰ VIDEO AUX端子

ゲーム機などを接続する予備入力端子です。REC OUTセクターをV-AUXにすれば、V-AUXの入力信号をVCR 1で録画できます。

⑱ PRESET/TUNING (EDIT) キー

PRESET/TUNING </> キーの機能(プリセット番号の選択か選局)を切りかえます。(コロンの()の点灯・消灯)プリセット局の入れかえをするときもこのキーを押します。

⑲ FM/AMキー

FM放送、AM放送を切り換えます。

⑳ MEMORY (MAN 'L/AUTO FM) キー

受信した放送局をプリセットします。3秒以上キーを押すと、オートプリセットができます。

㉑ TUNING MODE (AUTO/MAN 'L MONO) キー

マニュアルチューニング(手動選局)またはオートチューニング(自動選局)を選びます。オートチューニングにする場合は、このキーを押してAUTOインジケータを点灯させます。マニュアルチューニングにする場合は、AUTOインジケータを消します。

㉒ BASSコントロール

メインL、Rの低音域を調節します。右(+)に回すと低音域が強調され、左(-)に回すと減衰されます。

㉓ TREBLEコントロール

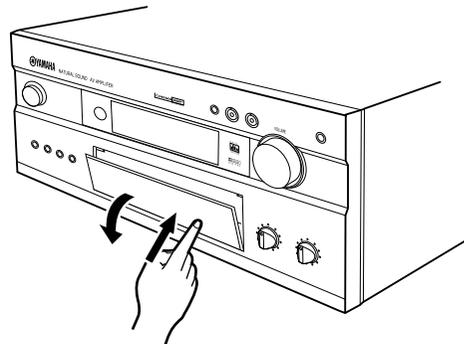
メインL、Rの高音域を調節します。右(+)に回すと高音域が強調され、左(-)に回すと減衰されます。

ご注意

トーンコントロールにより、メインチャンネルを極端にブースト(増強)またはカット(減衰)した場合、フロントとリア(エフェクト)との音のつながりが悪くなる場合があります。

■ フロントパネルドア

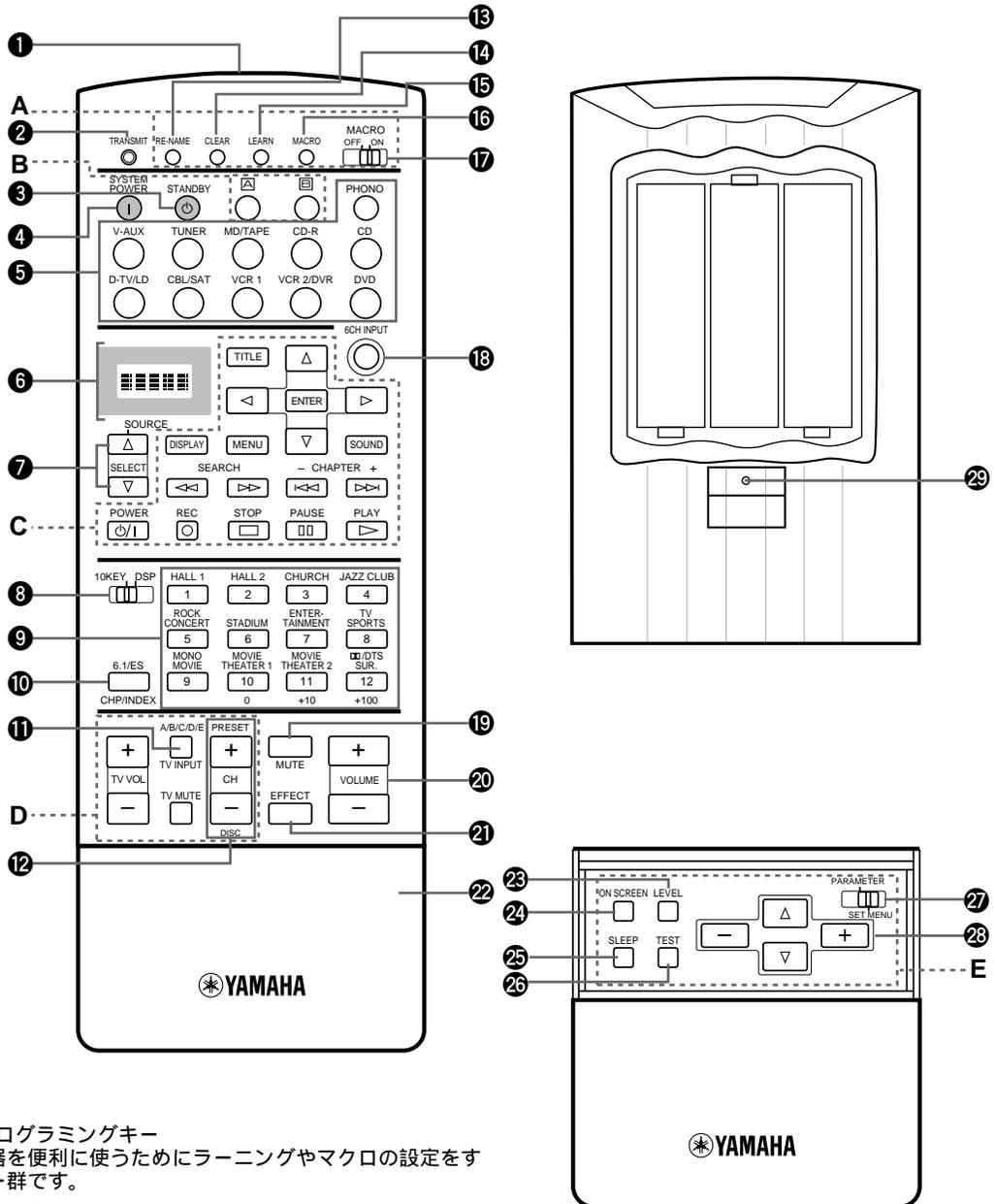
フロントパネルドア内のコントローラーを使用しないときは、ドアを閉めておきます。



ドアの下部を押すとドアが開きます。閉めるときはドアを持ち上げるようにして閉めてください。

リモコン

基本操作について説明しています。詳細は47ページから60ページの「リモコンで操作する」を参照してください。



A プログラミングキー

各機器を便利に使うためにラーニングやマクロの設定をするキー群です。

B A、Bキー

P47参照。

C 機器操作キー

インプットセレクターで選んだ機器の基本操作を行うキー群です。

D その他

メーカーコードの設定によって、各機器の操作機能が変わります。

E セットアップキー

スピーカーレベル、セットメニュー、音場パラメーターなどを設定するキー群です。

手前にスライドした状態

① 送受信窓

リモコンのコントロール信号を送信・受信します。操作したい機器向けます。

② TRANSMITインジケーター

リモコン操作時に点灯します。

③ STANDBYキー

電源を切るときに押します。

④ SYSTEM POWERキー

本機の電源を入れるときに押します。

⑤ インプットセクター

再生するソースを選択します。

⑥ 表示窓

入力や操作状態を表示します。

⑦ SOURCE SELECT Δ / ∇ キー

インプットセクターの代わりにこのキーを押しても操作できる機器が選べます。但しインプットの切り換えにはなりません。

⑧ 10KEY/DSPスイッチ

本機を操作するときには「DSP」の位置にします。他の機器を操作するときには「10KEY」の位置にします。

⑨ 音場プログラムキー/数字キー

音場プログラムを選びます。サブプログラムを選ぶ場合は同じボタンを繰り返し押します。10KEY/DSPスイッチを10KEYの位置にすると、機器操作キーの1～12数字キーとして使えます。

⑩ 6.1/ESキー

ドルビーデジタルサラウンドEXまたはDTS ESを再生するときには押します。このキーを使うときは10KEY/DSPスイッチを「DSP」にしてください。

⑪ A/B/C/D/Eキー

FM/AM放送を聴くとき、プリセットグループ(A、B、C、D、E)を選びます。

⑫ PRESET +/- キー

FM/AM放送を聴くとき、1～8番のプリセット局番号を選びます。

⑬ RE-NAMEボタン

表示窓に表示される入力の名前を付けかえるときに押します(P59参照)。

⑭ CLEARボタン

ラーニング、マクロ、メーカーコードなどの内容を消去するときに押します(P59、60参照)。

⑮ LEARNボタン

メーカーコードをセットアップするときとラーニングするときに押します(P54～56参照)。

⑯ MACROボタン

マクロ設定するときには押します(P58参照)。

⑰ MACRO ON/OFFスイッチ

マクロ機能を使うときは「ON」の位置にします。マクロ機能を使わないときは「OFF」の位置にします。

⑱ 6CH INPUTキー

6CH INPUT端子に接続したディスクリート信号を再生します。

⑲ MUTEキー

押すと消音されます(-dB)。もう一度押すと、もとの音量に戻ります。

⑳ VOLUME +/- キー

スピーカースystem全体の音量を調整します。

㉑ EFFECTキー

エフェクトスピーカー(センター、リアとリアセンター(P17参照))をオン/オフします。EFFECTキーでこれらのスピーカーをオフにすると、ドルビーデジタルやDTS再生では、LFEを除くすべてのチャンネルをメインL、Rにミックスします。ドルビーデジタルやDTS信号がミックスされるとメインL、Rのレベルが調和しないことがあります。

㉒ スライドぶた

リモコンの上部を片手で持ち、手前にスライドするとセットアップキーが出ます。

㉓ LEVELキー

エフェクトスピーカー(センター、リア、リアセンター(P17参照)とサブウーファー)レベルの調節モードに入ります。

㉔ ON SCREENキー

モニター(テレビ)画面に本機の状態や音場プログラムのパラメーター内容などを表示することができます。押すたびに表示モードが切り換わります。

㉕ SLEEPキー

スリープタイマーを設定します。

㉖ TESTキー

テストトーンを出力します。

㉗ PARAMETER/SET MENUスイッチ

パラメーターモードとセットメニューモードを切り換えます。

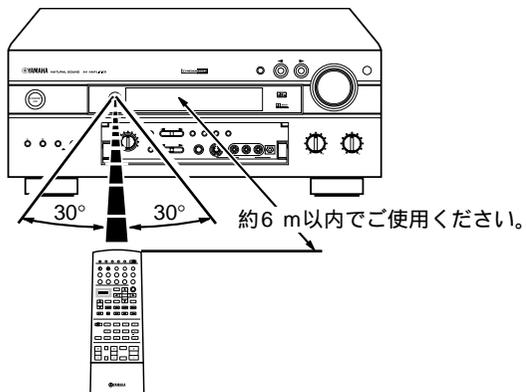
㉘ カーソルキー (Δ / ∇ / - / +)

パラメーターやセットメニューの選択・設定に使います。

㉙ RESETキー

リモコンの電池を交換したとき、またはリモコンが正常に働かないときに押します(RESETキーを押してもメモリーした内容は消えません)。

リモコンの使用範囲

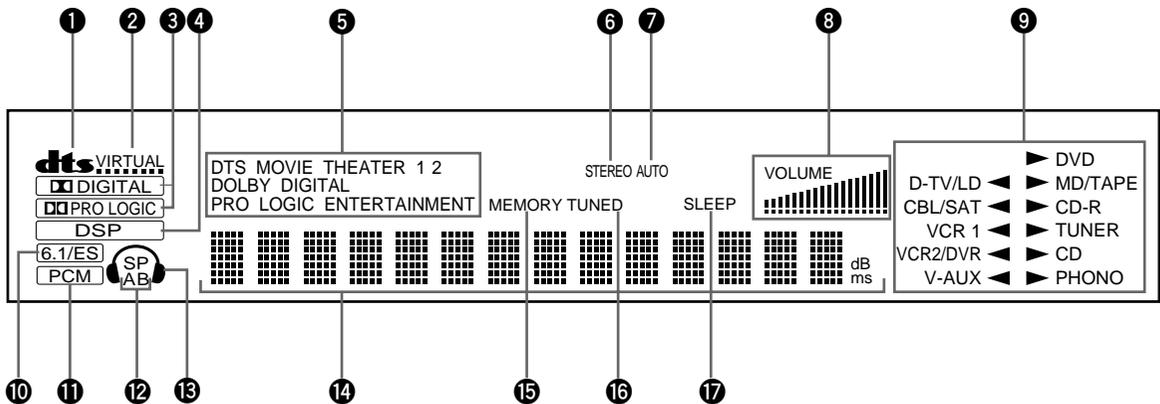


リモコンは直進性の強い赤外線を使っています。本体の受光部に向けて正しく操作してください。

■ リモコンの取り扱い

- 水やお茶をこぼしたり、落としたりしないでください。
下記のような場所には置かないよう、ご注意ください。
- ストープのそばや風呂場など、温度・湿度の高いところ。
 - ほこりの多いところ。
 - 極端に寒いところ。

ディスプレイ

**① dts** インジケータ

DTSデコーダーが動作すると点灯します。

② VIRTUALインジケータ

バーチャルCINEMA DSP時に点灯します(P29参照)。

③ **DIGITAL**、**PRO LOGIC** インジケータ

本機に入力されたドルビーデジタル信号によって点灯します。ドルビーデジタルデコーダーが動作すると“**DIGITAL**”が、ドルビープロロジックデコーダーが動作すると“**PRO LOGIC**”が点灯します。

④ **DSP** インジケータ

DSP音場プログラムを選択すると点灯します。

⑤ 音場プログラムインジケータ

音場プログラムのENTERTAINMENT、MOVIE THEATER 1、MOVIE THEATER 2、およびDOLBY/DTS SURROUNDを選択したとき各々のインジケータが点灯します。

⑥ **STEREO**インジケータ

AUTOインジケータが点灯しているときに、電波の強いFMステレオ放送を受信すると点灯します。

⑦ **AUTO**インジケータ

チューナーの選局モードをオートにすると点灯します。

⑧ **VOLUME**インジケータ

音量レベルを表示します。音量が大きくなるにつれて右側に表示が増えて行きます。

⑨ 入力ソースインジケータ

インプットセレクターで選んだソースの◀または▶インジケータが点灯します。

⑩ **6.1/ES** インジケータ

ドルビーデジタルマトリックス6.1デコーダーまたはDTS ESデコーダーが動作すると点灯します。

⑪ **PCM** インジケータ

PCM信号を入力すると点灯します。

⑫ **SP A/B**インジケータ

SPEAKERS A/Bスイッチで選んだメインスピーカーを表示します。

⑬ **ヘッドホン**インジケータ

PHONES端子にヘッドホンを接続すると点灯します。

⑭ 音場プログラム名/設定値表示/周波数表示

通常は選択した音場プログラム名が表示されています。また、スピーカーレベルやパラメータ、セットメニューなどのさまざまな設定値を、各々の操作に応じて表示します。なお、FM/AM放送を受信するときには放送局の周波数やプリセット番号を表示します。

⑮ **MEMORY**インジケータ

FM/AM放送の放送局をプリセットするときMEMORYキーを押すと点滅します。

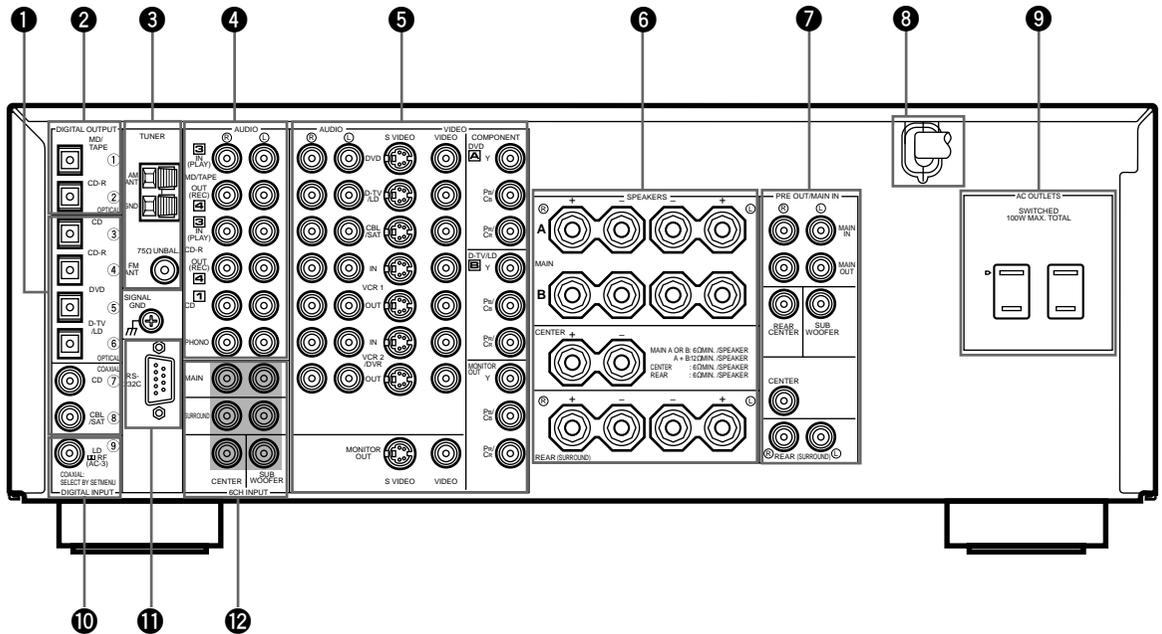
⑯ **TUNED**インジケータ

FM/AM放送が選局されたとき点灯します。

⑰ **SLEEP**インジケータ

スリープタイマーの動作中に点灯します。

リアパネル



① デジタル入力端子

② デジタル出力端子

③ アンテナ端子

接続については30ページを参照してください。

④ オーディオ機器 入・出力端子

接続については12と13ページを参照してください。

⑤ ビデオ機器 入・出力端子

接続については14と15ページを参照してください。

⑥ スピーカー端子

接続については16と17ページを参照してください。

⑦ PRE OUT/MAIN IN端子

接続については18ページを参照してください。

⑧ 電源コード

壁面などのしっかりしたコンセントにつないでください。

⑨ 予備電源コンセント

電源スイッチ連動の電源コンセントです(P19参照)。

⑩ RF (AC-3)入力端子

14ページを参照してください。

⑪ RS-232Cコネクター

業務用に使われる端子です。

詳しくは、ヤマハの販売店にご相談ください。

⑫ 6CH INPUT端子

外部デコーダーの出力をつなぎます。

接続については13と18ページを参照してください。

スピーカーの設置

使用するスピーカー

本機はメインスピーカー-L、R(2本)、センタースピーカー(1本)、リアスピーカー-L、R(2本)の5スピーカーシステムを使って最良の音場効果が得られるよう設計されています。各スピーカーの再生音色が異なると、移動する人物の声など(音色)が不自然に変化することがあります。できるだけ、メーカーや音色の揃ったスピーカーの使用をお勧めします。

メインスピーカーはメインの音声と効果音を出力し、リアスピーカーはサラウンドと効果音を、センタースピーカーは会話やボーカルなど画面中央に定位する音を出力します。センタースピーカーを使用しなくても十分な効果は得られますが、5スピーカーシステムにおいて、最も良い音響効果が得られます。

さらに、リアセンタースピーカーを加えて6スピーカーシステムにすることによりドルビーデジタルサラウンドEXやDTS ESの再生を可能にします。

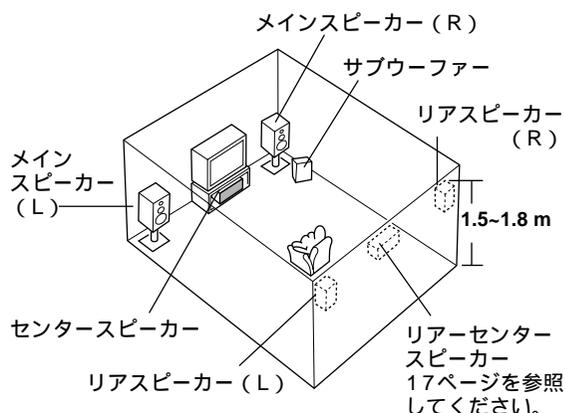
メインスピーカーはできるだけオーディオ機器からの最大出力に対応できるものをお使いください。その他のスピーカーはメインスピーカーと同等である必要はありませんが、再生するソフトを効果的に表現するためには、高性能のスピーカーシステムをご使用ください。

■ サブウーファーの設置

サブウーファーをご使用になると、さらに音響効果を向上させることができます。サブウーファーは低音を強調するだけでなく、ドルビーデジタルやDTS信号を正確に再現することができます。臨場感の優れた低音出力にはヤマハ アクティブサーボ スーパーウーファーシステムのご使用をお勧めします。

スピーカーの設置場所

下図を参考の上、スピーカーを設置してください。



■ メインスピーカー

ステレオ再生と同様に、左右のスピーカーをリスニングポジションから等距離に設置します。モニター(テレビ)を設置している場合は、左右のスピーカーとモニター(テレビ)の距離を等しく設置します。

■ リアスピーカー

後方斜め、スピーカーをリスニングポジションに向けて設置します。フロアに直接座って聴く場合は、床から約1.5m、椅子に座って聴く場合は、床から約1.8mの高さが適当です。

■ センタースピーカー

メインスピーカーの中間に設置します。モニター(テレビ)を設置している場合は、モニター(テレビ)画面とスピーカーの前面を揃え、モニター(テレビ)の上や下など、できるだけモニター(テレビ)画面に近いところの中央に設置します。

ご注意

センタースピーカーをご使用にならないときは、センターチャンネルからの音声はメインスピーカー-L、Rに振り分けられます。この場合、セットメニューの「1A CENTER SP」をNONEに設定してください(P38参照)。

■ サブウーファー

左右どちらかの外側で、壁の反射を防ぐために少し内振りに設置します。低音の聴こえ方は、スピーカーを置く位置と聴く位置の両方に影響されるので、設置する位置を変えてお試ください。

注意!

スピーカーによっては、モニター(テレビ)の画面が乱れる場合があります。(画面が乱れた場合は、モニター(テレビ)とスピーカーを離してください。)画面近くに設置するセンタースピーカーやサブウーファーには、防磁型スピーカーの使用をお勧めします。

接続のしかた

正しい接続のために

注意!

接続の際は、必ず本機および接続する機器の電源を切ってください。

右チャンネル(R)左チャンネル(L)入力(IN)出力(OUT)を確認して正しく接続してください。接続する機器によっては接続方法や端子名が異なることがあります。接続する機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

ヤマハCDプレーヤー、テープデッキなどとシステム接続する場合は、各機器と本機と同じ番号(①、③、④など)のついた端子を接続してください。端子番号は今後発売されるヤマハオーディオ機器にも表示される予定です。

接続が終わったら正しく配線されているか、もう一度お確かめください。

オーディオ機器の接続

■ デジタル端子の接続

本機は、アナログ端子の他にデジタル信号をダイレクトに接続できるデジタル端子(COAXIAL[同軸]/OPTICAL[光])を装備しています。(デジタル端子はPCM/ドルビーデジタル/DTS兼用です。)COAXIAL端子とOPTICAL端子から同時にデジタル信号が入力されると、COAXIAL端子からの入力信号を優先します。本機のデジタル入力端子は、サンプリング周波数32kHzの衛星放送AモードからCDやMDディスクの44.1kHz、衛星放送BモードとDVDディスクの48kHzに対応しています。また、DVDディスクの96kHzにも対応しています(P25参照)。



デジタル入力端子の入力機器の設定をセットメニュー「7 I/O ASSIGNMENT」で変更することもできます(P41参照)。

防塵キャップについて

光ファイバーケーブルを接続する場合は、OPTICAL端子に付いているキャップを抜いてから接続してください。また、抜いたキャップは大切に保管し、端子を使用しない場合は必ずキャップを差し込んでください。(ほこりなどの侵入を防ぎます。)



ご注意

本機のOPTICAL端子は、EIAJ規格に基づいて設計されています。EIAJ規格を満たさない光ファイバーケーブルを使用すると、正常に動作しないことがあります。

■ レコードプレーヤーの接続

MMカートリッジ、または高出力型MCカートリッジ付のレコードプレーヤーを接続します。低出力型MCカートリッジ付のレコードプレーヤーを接続する場合は、昇圧トランス、またはMCヘッドアンプを使用してPHONO端子に接続してください。



SIGNAL GND端子は、安全アースではありません。アナログプレーヤーなどを接続した場合の雑音を低減するものです。(レコードプレーヤーによっては、まれにアース線をSIGNAL GND端子に接続しない方がハムノイズが減少することがあります。)

■ CDプレーヤーの接続



CDプレーヤーにOPTICALデジタル出力端子がある場合は、本機のOPTICAL CD端子とつなぎます。COAXIALデジタル出力端子がある場合は、本機のCOAXIAL CD端子とつなぎます。CDのCOAXIAL端子とOPTICAL端子に同時に信号が入るとCOAXIAL端子の入力信号が優先されます。

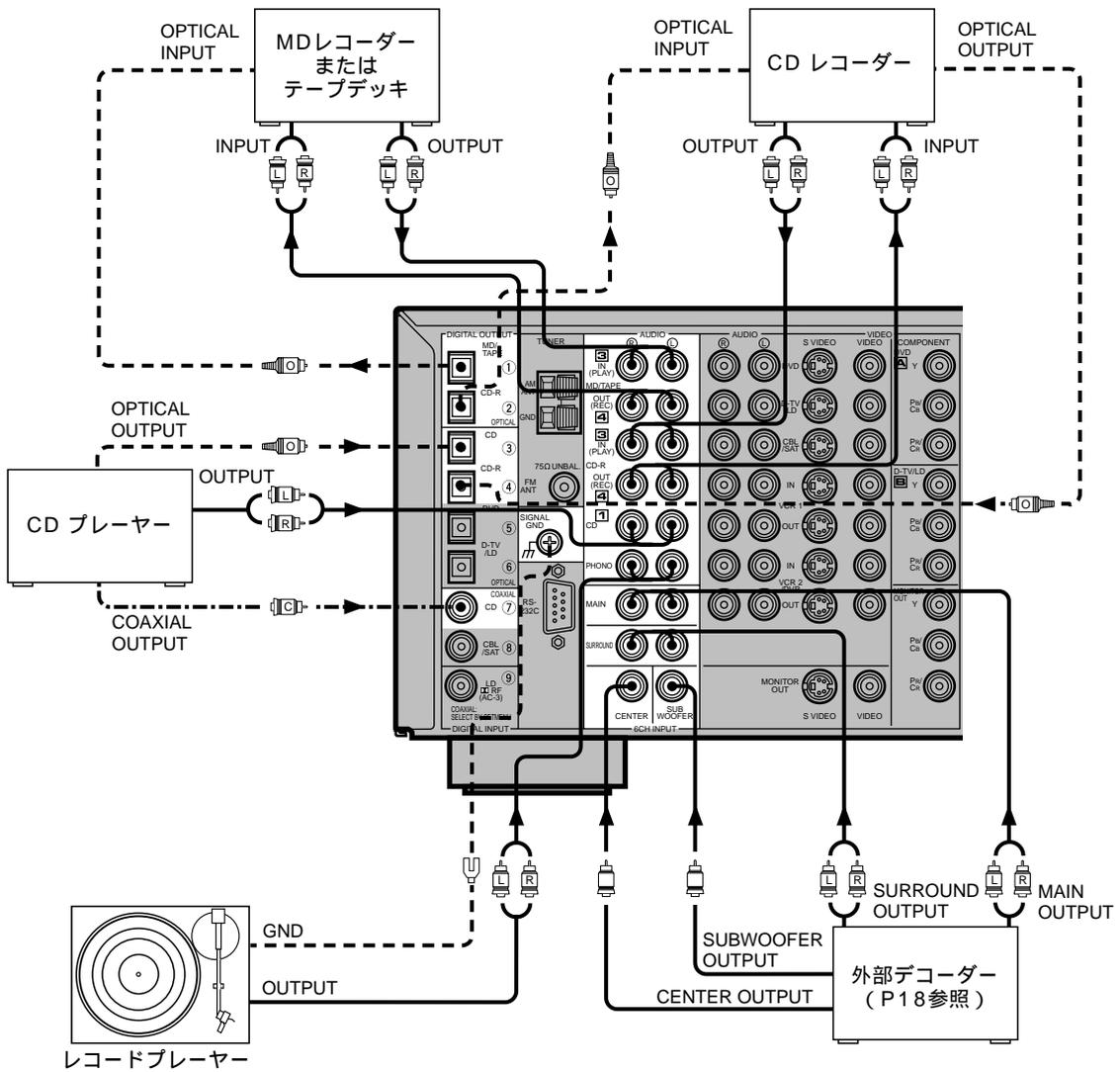
■ MDレコーダー、テープデッキまたはCDレコーダーの接続



CDまたはDVDなどのデジタル信号だけがDIGITAL OUTPUT端子から出力されます。録音機器をアナログとデジタルの入出力端子に接続した場合は、デジタル信号が優先されます。MDレコーダーは、セットメニューの「7 I/O ASSIGNMENT」(P41参照)を用いてデジタル入力端子に接続することができます。

ご注意

本機の使用中に録音機器が接続してあるときは、録音機器の電源を入れたままにしてください。録音機器の電源が切れていると、本機の音が歪むことがあります。本機の電源が切れているときに、本機に接続されている再生機器から録音すると、録音された音に歪みが生じることがあります。本機の電源を入れた状態でご使用ください。



- ▶— 信号の流れ
- (L)— アナログ音声左 (L) 接続コード
- (R)— アナログ音声右 (R) 接続コード
- - - (O) 光デジタル接続コード
- · - · (C) 同軸デジタル接続コード

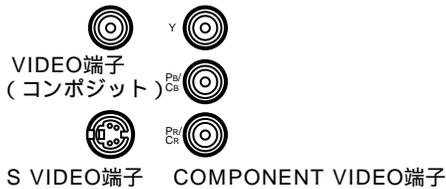
1) 使用の前に

ビデオ機器の接続

■ ビデオ端子について

本機には3種類のビデオ端子が備えられています。VIDEO端子はコンポジット信号を伝送します。S VIDEO信号は、ビデオ信号(コンポジット信号)の輝度を表す信号(Y信号)と、色を表す信号(C信号)に分けて伝送する方式です。S VIDEO端子を利用すると映像信号をロスなく伝え、より美しい映像で録画・再生が行えます。COMPONENT VIDEO端子はビデオ信号を、輝度を表す信号(Y信号)と色を表す信号(Pb/CbおよびPr/Cr信号)の3系統に分けて伝送します。それぞれが独立しているため、色をより忠実に再現します。COMPONENT VIDEO端子の表記には、「Y、Pb、Pr」「Y、Cb、Cr」や「Y、B-Y、R-Y」などがあります。本機には端子名にかかわらず接続できます。これらの信号を正しくモニターに表示するためにはモニターおよび再生機器の取扱説明書を参照してください。

お使いのビデオ機器のSビデオ出力、コンポーネントビデオ出力を本機に接続できます。Sビデオ出力をS VIDEO端子に、コンポーネントビデオ出力をCOMPONENT VIDEO端子に接続してください。



本機では、COMPONENT VIDEO端子、S VIDEO端子とピンジャックのVIDEO端子間は独立しています。ピンジャックから入った信号はピンジャックに、S VIDEO端子から入った信号はS VIDEO端子に、COMPONENT VIDEO端子から入った信号はCOMPONENT VIDEO端子に出力されます。

S VIDEO端子に接続している場合、VIDEO端子に接続する必要はありません。両方に接続している場合はSビデオ信号が優先されます。

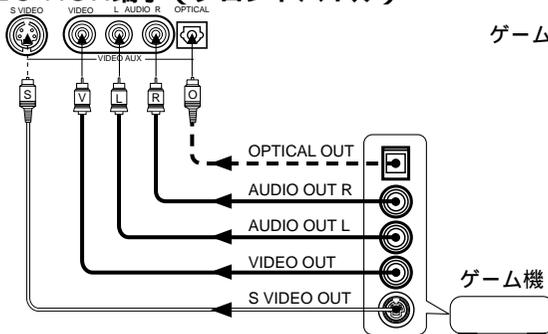
COMPONENT VIDEO A、B端子の入力機器の設定をセットメニュー「7 I/O ASSIGNMENT」で変更することもできます(P41参照)。

本機のS VIDEO端子はS1、S2規格には対応していません。

ご注意

S VIDEOおよびCOMPONENT VIDEO端子の接続にはそれぞれ専用のビデオケーブル(市販)を用意してください。COMPONENT VIDEO端子に接続した機器の操作については、その機器の取扱説明書をご覧ください。

■ VIDEO AUX端子(フロントパネル)



ゲーム機などを接続する予備入力端子です。

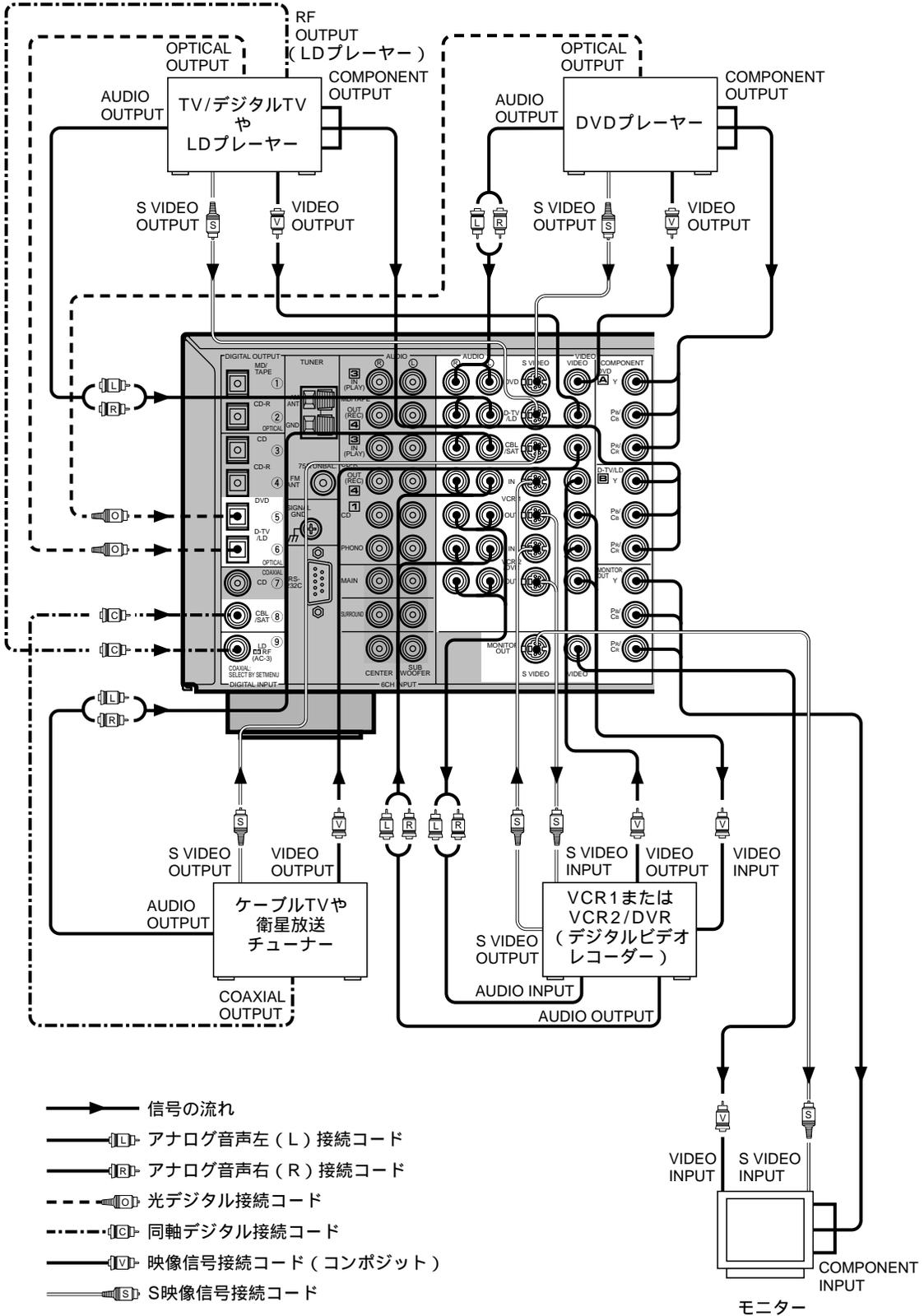
■ RF (AC-3) 入力端子

本機に接続するLDプレーヤーに、ドルビーデジタルRF出力端子がある場合は、本機のRF (AC-3) 入力端子と接続します。ドルビーデジタルRF信号とアナログ信号を同時に入力した場合、ドルビーデジタルRF信号が最優先されます。ドルビーデジタルRF信号を再生する場合は、INPUT MODEキーを押して入力モードを「D.D. RF(固定)」に設定してください(P26参照)。

ご注意

ドルビーデジタルRF信号はREC OUT出力されません。LDを録音/録画する場合は、LDのDIGITAL OPTICAL端子またはアナログ端子も同時に接続してください。ドルビーデジタルRF出力端子付のLDプレーヤーを本機に接続しても、通常のディスク(ソフト)ではドルビーデジタル再生になりません。ドルビーデジタル対応のディスク(ソフト)を再生してください。





スピーカーの接続

接続する際に、右チャンネル(R)左チャンネル(L)“+(赤)”-(黒)を確認して正しく接続してください。極性(+、-)を間違えて接続した場合、不自然な再生音になります。

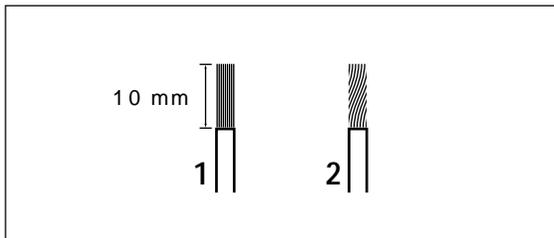
注意!

スピーカーコードを接続する場合、ショートしないように注意してください。ショートした状態で電源を入れると、保護回路が働いて自動的に電源が切れますが、故障の原因になる恐れがあります。

接続するスピーカーのインピーダンスは6Ω以上のものを使用してください。メインスピーカーA、Bを同時に鳴らす場合は、1台につき12Ω以上のものを使用してください。それ以下のインピーダンスのスピーカーを使用すると、保護回路が働いたり、故障する恐れがあります。

接続後、必要ならばご使用になるスピーカーの数や性能に応じてセットメニューのスピーカーモードを設定してください。

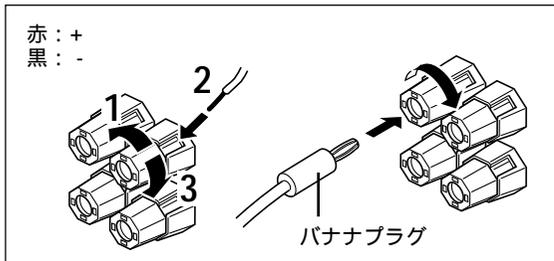
■ スピーカーコード



一般的にスピーカーコードは、平行した2本の絶縁ケーブルです。ケーブルのうちの1本は極正を判別するために異なった色またはラインが入っています。

- 1** スピーカーコード先端の絶縁部(被覆)を10mm位はがします。
- 2** ショートを防ぐために、芯線をしっかりとよじります。

■ スピーカー端子の接続



- 1** スピーカー端子を左に回してゆるめます。
- 2** スピーカー端子のわきの穴にスピーカーコードの芯線を差し込みます。
- 3** スピーカー端子を右に回して締め付けてください。



市販のバナナプラグを使用する場合は、端子を強く締めてから差し込んでください。

■ MAIN SPEAKERS端子

2組のスピーカーまで接続することができます。1組のスピーカーをご使用の場合は、MAIN AまたはB端子のどちらかに接続してください。

■ REAR SPEAKERS端子

リアスピーカーシステムを接続します。

■ CENTER SPEAKER端子

センタースピーカーを接続します。

■ リアセンタースピーカーの使用

5スピーカーシステムにリアセンタースピーカーを追加して、ドルビーデジタルサラウンドEXやDTS ESソフトをお楽しみいただけます。

リアセンタースピーカーの設置

リアセンタースピーカーはリアスピーカーL、Rの中間で同じ高さには設置してください。

リアセンタースピーカーの接続

1 本機のPRE OUT REAR CENTER端子と別途用意したパワーアンプの入力端子をつなぎます。

2 パワーアンプのスピーカー端子にリアセンタースピーカーを接続します。

ご注意

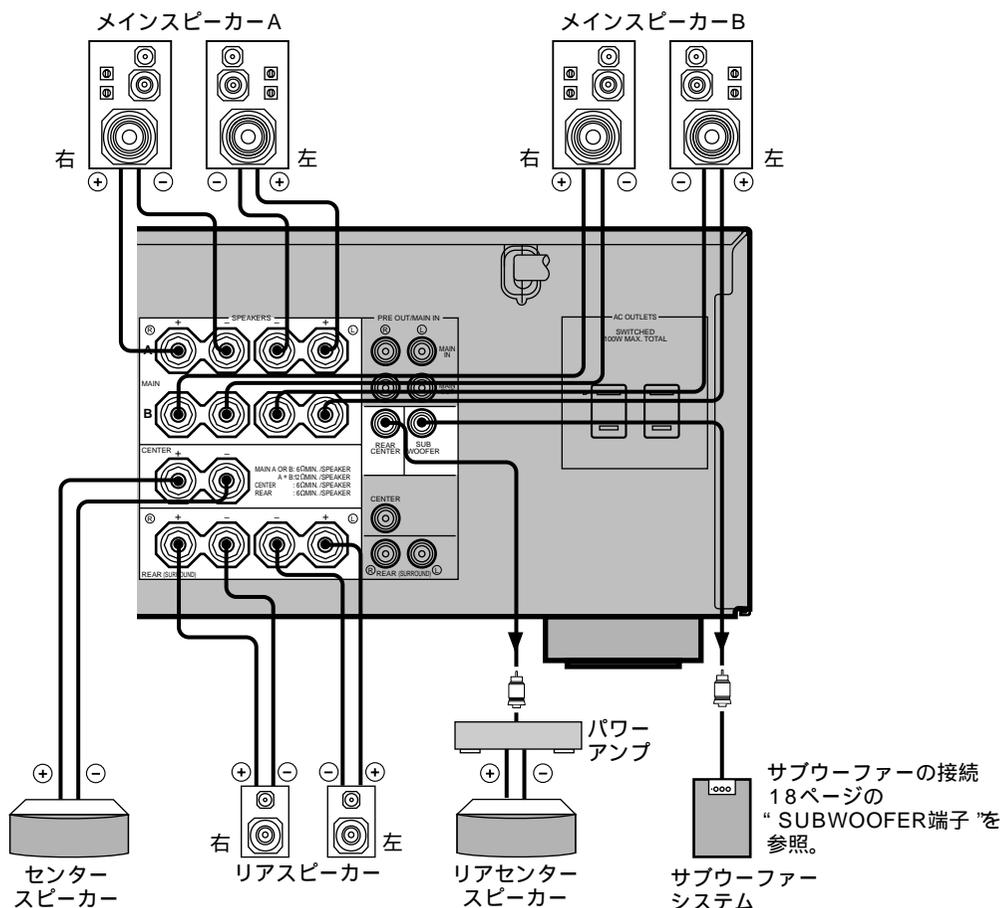
スピーカーの+とパワーアンプの+、-と-が正しく接続されていることを確認してください。

リアセンタースピーカーを使うための設定

リアセンタースピーカーを使う場合、セットメニューの「1D REAR CT SP」をLRGかSMLに設定してください(P39参照)。

ご注意

セットメニューの「1C REAR L/R SP」がNONEに設定されていると、リアセンタースピーカーからは音は出ません (P38参照)。



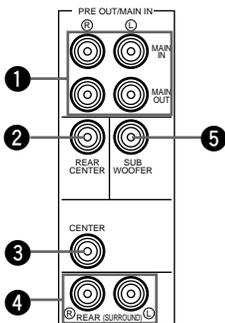
サブウーファターの接続
18ページの
“SUBWOOFER端子”を
参照。

他のアンプとの接続

スピーカー出力をパワーアップする場合や、お手持ちのアンプを使用する場合などは、PRE OUT端子と外部パワーアンプ(プリメインアンプ)を接続します。

ご注意

他のアンプへ出力するためにRCAピンプラグをPRE OUT端子に接続したときは、対応するスピーカー端子を使用しないでください。



① MAIN端子

MAIN IN端子

本機のメイン用パワーアンプへの入力端子です。

MAIN OUT端子

メインL、Rチャンネルの信号を出力します。外部のパワーアンプ(プリメインアンプ)を接続して、メインスピーカーを駆動する場合に使用します。

ご注意

この端子から出力される信号には、BASSコントロール、TREBLEコントロール、BASS EXTENSIONスイッチの設定が効きます。

② REAR CENTER端子

リアセンターチャンネルの信号を出力します。外部のパワーアンプ(プリメインアンプ)を接続してリアセンタースピーカーを駆動する場合に使用します。

③ CENTER端子

センターチャンネルの信号を出力します。外部のパワーアンプ(プリメインアンプ)を接続して、センタースピーカーを駆動する場合に使用します。

④ REAR (SURROUND) 端子

リア・エフェクトチャンネルの信号を出力します。外部のパワーアンプ(プリメインアンプ)を接続して、リア・エフェクトスピーカーを駆動したい場合に使用します。

⑤ SUBWOOFER端子

ヤマハ アクティブサーボ スーパーウーファーシステムなどのアンプ内蔵サブウーファーを使用するときは、この端子につなぎます。

メイン、センターおよびリアチャンネルからの低音信号はこの端子に送られます(90Hz以下)。ドルビーデジタルやDTSデコード時のLFE信号もこの端子に出力されます。

ご注意

サブウーファーの音量はサブウーファーで調節してください。本機でサブウーファーの音量レベル調節はできません。

セットメニュー「1 SPEAKER SET」、「10A LFE LEVEL」、「11 DTS LFE LEVEL」の設定によってはSUBWOOFER端子から出力されない信号もあります。

外部デコーダーの接続

6CH INPUT端子に6(5.1)チャンネル外部デコーダー、プロセッサーやリアアンプなどを接続することができます。

外部デコーダーの出力端子を6CH INPUT端子につなぎます。メイン、サラウンドチャンネルの入出力のL、R端子が正しく接続されているか確認してください。

ご注意

外部デコーダーからの入力音声には、本機の音場効果はかかりません。

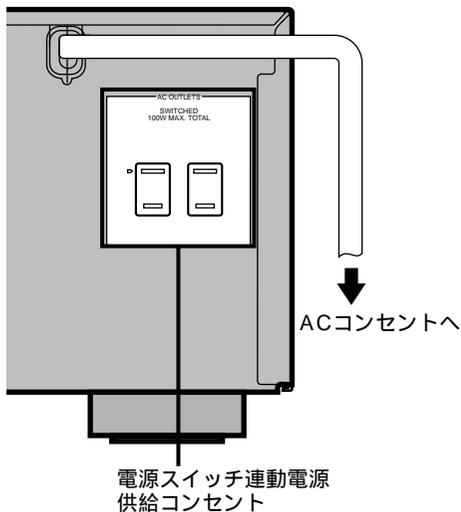
6CH INPUT端子から入力した信号には、スピーカーモードの設定(セットメニューの1Aから1F)は適応されません。

電源コードの接続

すべての接続が終わったら、家庭用AC100V、50/60HzのACコンセントに電源プラグを接続してください。本機の消費電力は230Wです。本機の電源プラグには、極性が表示されています。

■ AC OUTLETS SWITCHED (電源供給コンセント)

外部オーディオ機器に電源を供給するコンセントで、本機の電源スイッチと連動しています。合計で消費電力100Wまでのオーディオ機器に、電源を供給することができます。本機コンセント上の穴(長い穴)が電源トランスの巻き始め側につながっています。接続するオーディオ機器が極性表示されている場合は、極性の目安にしてください。



オンスクリーン表示

本機にモニター(テレビ、またはプロジェクター)を接続すると、本機の操作内容などを表示させることができます。セットメニューや音場パラメーターを設定する際にオンスクリーンを利用すれば、項目や設定値が分かりやすく表示されるため、本体のディスプレイ表示に比べて見やすく便利です。



映像信号が入力されているときは、映像に重ねて表示されます。

オンスクリーン表示はREC OUTに出力されないため、映像と一緒に録画されることはありません。

ビデオソースを再生していないとき(あるいは再生機器の電源が入っていないとき)に、セットメニューの「14 DISPLAY SET」でオンスクリーン表示のオート(ブルーバック)/オフを設定できます(P44参照)。

表示の種類

オンスクリーン表示には次の3種類があります。

フル表示

音場プログラムのパラメーターが、常にモニター表示されます(P67参照)。

ショート表示

本体のディスプレイと同じ内容(操作状態)が、モニター画面の下に数秒間表示された後、消えます。

表示OFF

モニター画面の下に「DISPLAY OFF」が表示された後、消えます。ON SCREENキー以外のキーを操作しても何も表示されません。

P01 CONCERT HALL 1
→ INIT. DLY.....30ms
ROOM SIZE.....1.0
LIVENESS.....5

フル表示例

P01 CONCERT HALL 1

ショート表示例



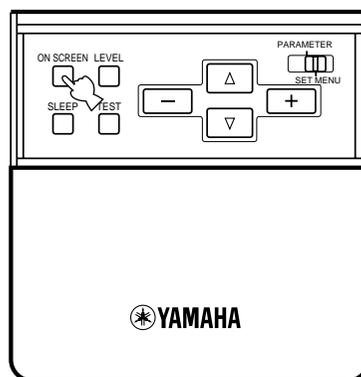
フル表示の場合、INPUT </> キーやVOLUMEコントロールなどの操作は、本体ディスプレイと同じ内容が画面下に数秒間表示されます。

セットメニューやテストトーン時は、表示の種類にかかわらずオンスクリーン表示されます。

表示の切り換え

1 電源を入れると、モニター画面、および本体のディスプレイにメインの音量が数秒間表示され、その後音場プログラム表示になります。

2 リモコンのON SCREENキーを押すと、表示フォーマットがフル表示 ショート表示 表示OFF フル表示 ...の順に切り換わります。



ご注意

S VIDEO端子とVIDEO端子の両方を接続しているソースを選択し、さらにMONITOR OUTにS VIDEO端子とVIDEO端子の両方が接続されている場合、映像は両方に出力されますが、オンスクリーンはS VIDEO側に表示され、VIDEO側には表示されません。映像信号が入力されていない場合は、両方に表示されます。COMPONENT VIDEOのMONITOR OUT端子につないだモニター画面には、オンスクリーン表示されません。オンスクリーン表示をさせたい場合は、S VIDEO端子かVIDEO端子のどちらかにも接続してください。コピーガード信号が入ったビデオソフトを再生したり、ノイズの多い映像信号を再生した場合、オンスクリーン表示がブレたり、ズレたりすることがありますが、本機の故障ではありません。

スピーカーモードの設定

ご使用になるスピーカーシステムに合わせて、セットメニューにある6種類のスピーカーモードを設定します。
以下はSPEAKER SETの項目です。初期設定と選択できるモードをまとめています。もし、初期設定がご使用のスピーカーシステムに合わない場合は、セットメニューで設定してください(P36参照)。

SPEAKER SET 1A ~ 1Fの設定内容

項目	設定内容	初期設定
1A CENTER SP	センタースピーカーの性能や有無に応じて、出力モードを選択します。 LRG(ラージ)、SML(スモール)とNONEが選択できます。	LRG
1B MAIN SP	メインスピーカーの性能に応じて、出力モードを選択します。 LARGE(ラージ)、SMALL(スモール)が選択できます。	LARGE
1C REAR L/R SP	リアスピーカーL、Rの性能や有無に応じて、出力モードを選択します。 LRG(ラージ)、SML(スモール)とNONEが選択できます。	LRG
1D REAR CT SP	リアセンタースピーカーの性能や有無に応じて出力モードを設定します。 LRG(ラージ)、SML(スモール)とNONEが選択できます。	NONE
1E LFE/BASS OUT	LFE/BASS(低音)信号を出力するスピーカーを選択します。 SWFR(サブウーファー)、MAINとBOTHが選択できます。	BOTH
1F MAIN LEVEL	メインスピーカーレベルを選択します。 Normalと - 10dBが選択できます。	Normal

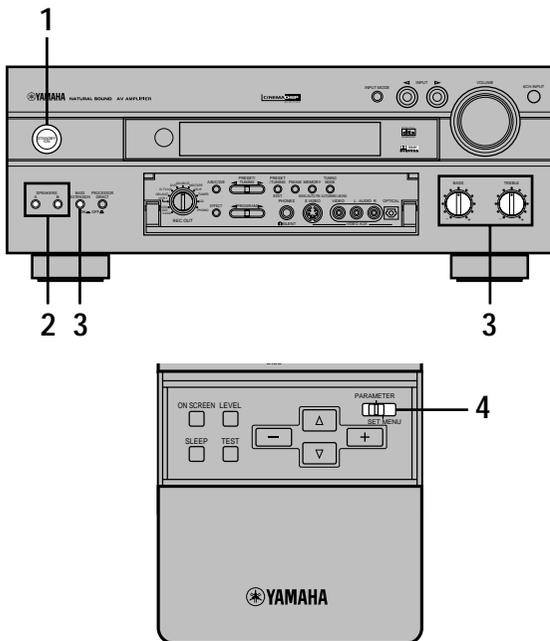
スピーカーのレベル調節

テストトーンを使ってリスニングポジションで聞こえる各スピーカーからの音量が一定になるように調節します。この調節はデジタル音場処理、ドルビープロロジックデコーダー、ドルビーデジタルデコーダー、DTSデコーダーを最良の環境で使用するために重要です。

ご注意

ヘッドホンをつないでいるとテストモードに入れません。PHONES端子からヘッドホンを抜いてください。

調節の前に行うこと

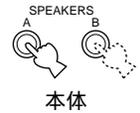


- 1 電源を入れます。モニターの電源も入れます。



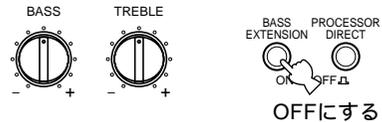
本体

- 2 SPEAKERS AもしくはBを押して使用するメインスピーカーを選択します。2組のメインスピーカーを使用する時はAとBの両方を押しします。



本体

- 3 本体のトーンコントロール(BASS, TREBLE)を中央にセットします。BASS EXTENSIONスイッチをOFFにします。



本体

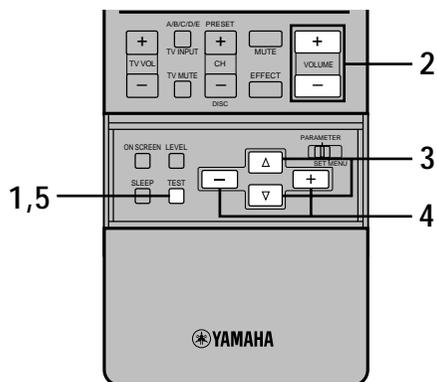
- 4 リスニングポジションに座り、リモコンのPARAMETER/SET MENUスイッチをPARAMETERの位置にします。



リモコン

テストトーン (TEST DOLBY SUR.)

サラウンドサウンドシステムに必要な6つのスピーカーの出力レベルを調節します。調節は必ずリスニングポジションで行います。調節が終わったらリスニングポジションに座ったまま、VOLUME+/- キーで調節した結果を確認してください。

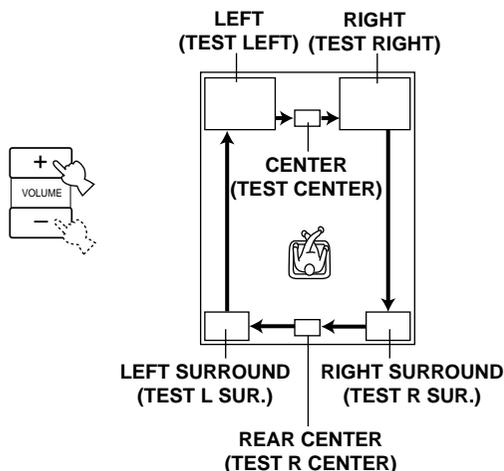


- 1 TESTキーを押すとテストトーンが出力されます。

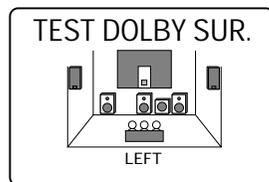


- 2 テストトーンが聴こえるように音量を調節します。

テストトーンは、LEFT(メインLスピーカー) CENTER(センタースピーカー) RIGHT(メインRスピーカー) R. SUR(リアRスピーカー) REAR CT(リアセンタースピーカー(P17参照)) L. SUR(リアLスピーカー) ...の順で循環し、それぞれ約2.5秒間ずつ聴こえます。



テストトーンの出力状態は、リスニングルームのイラストでわかりやすくモニターに表示されます。



セットメニュー「1A CENTER SP」をNONEに設定した場合は、センタースピーカーの信号は左右のメインスピーカーに同じレベルで振り分けられ、調節することはできません。

ご注意

テストトーンが聴こえない場合は、音量を絞って電源を切ってからスピーカーの接続を確認してください。

- 3 カーソルキーの△または▽を押して調節するスピーカーを選びます。



△または▽キーを押し続けると、その間テストトーンは循環しません。

- 4 カーソルキーの-または+を押して、エフェクトスピーカーの音量がメインスピーカーの音量と同じになるように調節します。



調節中はテストトーンはそのスピーカーに固定されます。

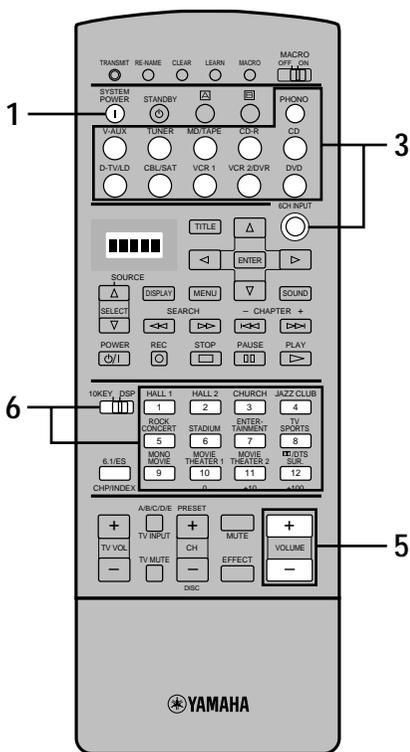
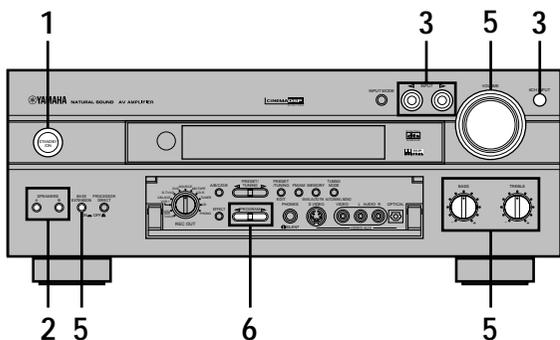
- 5 調節が終わったら、TEST キーを押します。

テストトーンは止まり、本体ディスプレイとモニター画面は音場プログラム表示になります。

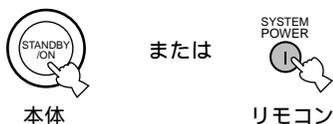


センタースピーカーの音色が異なる場合は、セットメニュー「5 CENTER GEQ」を使って音色が合うように調節してください(P41参照)。エフェクトスピーカー(センター、リアL、Rとリアセンター)の音量レベルを+10dBまで上げてメインスピーカーより音が小さい場合は、セットメニュー「1F MAIN LEVEL」を-10dBに設定します(P40参照)。メインスピーカーの音量レベルを約1/3に下げることができます。メインレベルを変更した場合は、センタースピーカー、リアL、Rスピーカー、リアセンタースピーカーのレベル調節をもう一度行ってください。

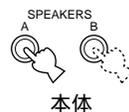
再生



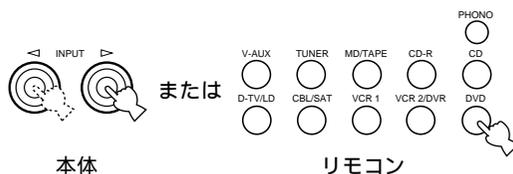
- 1** STANDBY/ON (またはSYSTEM POWER) を押して電源を入れます。モニターの電源も入れます。
 本体ディスプレイとモニター画面にはメインの音量が数秒間表示され、その後音場プログラム表示に変わります。



- 2** SPEAKERS AもしくはB を押して使用するメインスピーカーを選択します。
 2組のメインスピーカーを使用する時はAとBの両方を押します。

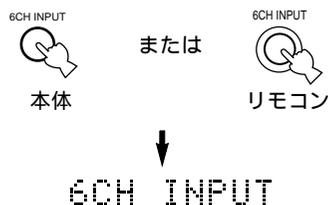


- 3** INPUT ◀ / ▶ キー (またはインプットセクター) を押して再生するソースを選びます。
 入力ソースが本体ディスプレイに ◀ あるいは ▶ で示されます。
 入力ソース名と入力モードが数秒間本体ディスプレイとモニター画面に表示されます。



- DVD: DVDを見る。
 D-TV/LD: テレビ、デジタルテレビ放送またはLDを見る。
 CBL/SAT: ケーブルテレビ放送、または衛星放送を見る。
 VCR 1: ビデオデッキ1のビデオを見る。
 VCR 2/DVR: ビデオデッキ2またはデジタルビデオレコーダーのビデオを見る。
 V-AUX: フロントパネルのVIDEO AUX端子につないだAV機器を再生する。
 PHONO: レコードを聴く。
 CD: CDを聴く。
 TUNER: FM/AM放送を聴く。
 CD-R: CD-Rを聴く。
 MD/TAPE: MDまたはテープを聴く。

6CH INPUT端子に接続したソースを選択する
6CH INPUTキーを押して、“6CH INPUT”を本体ディスプレイとモニター画面に表示させます。

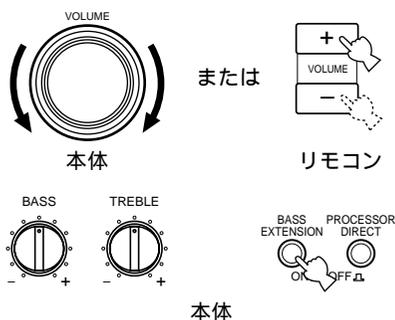


ご注意

“6CH INPUT”が本体ディスプレイとモニター画面に表示されている場合、ほかのソースを再生することはできません。INPUT </> キー(またはインプットセレクター)を使って別の入力ソースを選択するには、6CH INPUTキーを押して本体ディスプレイとモニター画面から“6CH INPUT”の表示を消してください。映像と共に6CH INPUT端子に接続された音声を楽しみたい場合には、最初にビデオソースを選択して、次に6CH INPUTキーを押してください。

4 機器の再生(または放送の受信)を始めます。
再生する機器の取扱説明書を参照してください。

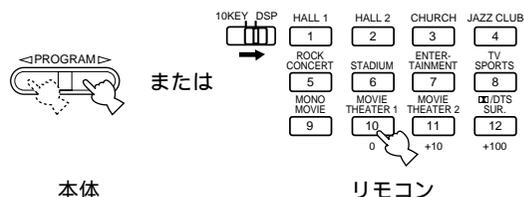
5 音量を調節します。
BASSコントロール、TREBLEコントロールおよびBASS EXTENSIONスイッチでメインスピーカーの音質を調整できます。



ご注意

REC OUT端子と接続している機器の電源が切れている場合、再生音が歪んだり、音量が下がることがあります。このような場合は、接続している機器の電源を入れてご使用ください。

6 音場プログラムを選択します。
音場プログラムキーで好みの音場プログラムを選択します(P28参照)。



■ 消音する(音をミュートする)

リモコンのMUTEキーを押します。



前の音量に戻すには、もう一度MUTEキーを押してください。



VOLUME +/- キーや音場プログラムキーなどを押ししてもミュートは解除できません。
消音中(ミュート中)に、本体ディスプレイとモニター画面に“MUTE ON”が表示されます。

■ 本機の使用を終了するとき

STANDBY/ON(またはSTANDBY)を押して、本機の電源を切ってください。

■ デジタル信号に関するご注意

本機のデジタル入力端子は、サンプリング周波数96kHzのデジタル信号にも対応しています。これを利用するには、96kHzデジタル信号で作られたソースとこれに対応したプレーヤーが必要です。詳しくはプレーヤーの取扱説明書を参照してください。96kHzデジタル信号を入力する場合、次の点にご注意ください。

1. 以下の表示がディスプレイに表示されます。



2. 音場プログラムが選択できなくなります。音声はメインスピーカーからのみ通常の2チャンネルステレオサウンドとして出力されます。

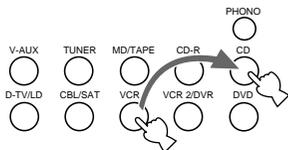
ご注意

セットメニュー「1B MAIN SP」がSMALLに、「1E LFE/BASS OUT」がBOTHに設定されている場合、サブウーファーからも音が出ます。
3. 45ページに説明されているスピーカー出力レベル調節ができなくなります。

■ BGV機能

BGV機能とは、ビデオ系ソースの映像と、オーディオ系ソースの音声を組み合わせて楽しむ機能です(例えばビデオを観ながらクラシック音楽を楽しむことができます)。

ビデオ系ソースを選択した後、リモコンのインプットセクターで、オーディオ系ソースを選択します。BGV機能はフロントパネルのINPUT < / > キーではできません。



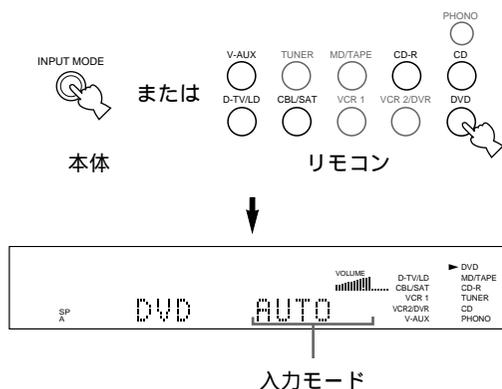
リモコン

入力モードと表示

本機には、デジタル(同軸、光)、アナログなど各種の入力端子が付いています。お使いの機器を2種類以上の入力端子に接続している場合、入力信号の優先順位を設定することができます。

電源をオンにすると、セットメニューの「8 INPUT MODE」に基づいて入力モードが設定されます(P42参照)。

希望する入力モードが本体ディスプレイとモニター画面に表示されるまで、INPUT MODE キー(または入力ソースを選択するために押したリモコンのインプットセクター)を繰り返し押ししてください。



- AUTO: 次の順序で入力信号が自動的に選択されます。
- 1) ドルビーデジタルまたはDTS信号
 - 2) デジタル(PCM)信号
 - 3) アナログ信号
- DTS: このモードでは、別の信号が同時に入力されてもDTS信号に固定されます。
- ANALOG: アナログ入力に固定されます。デジタル信号が同時に入力されても再生されません。

入力ソースとしてLDが選択された場合

- AUTO: 次の順序で信号を選択します。
- 1) ドルビーデジタルRF信号
 - 2) DTS信号
 - 3) デジタル(PCM)信号
 - 4) アナログ信号
- D.D. RF: ドルビーデジタルRF信号のみを選択します。
- DTS: DTS信号のみを選択します。
- DGTL: OPTICAL(光)入力端子から入力されるデジタル(PCM)信号のみを選択します。
- ANALOG: アナログ入力に固定されます。デジタル信号が同時に入力されても再生されません。

ご注意

OPTICAL(光)入力端子とCOAXIAL(同軸)入力端子に同時にデジタル信号が入力された場合、COAXIAL(同軸)入力端子からのデジタル信号が優先されます。入力モードがAUTOの場合、ドルビーデジタルまたはDTS信号が入力されると、本機は自動的にデコーダーを選択して5.1チャンネルソースを再生します。以下の場合、一部のLDおよびDVDプレーヤーで音声出力が遮断されることがあります: 入力モードがAUTOに設定されている状態で、ドルビーデジタルまたはDTSディスクを再生中にサーチ(検索)をしている時。再び再生を始めると、デジタル信号が再び選択されているため、音声出力の始めが少し遮断されます。

■ DTSの再生に関する注意

プレーヤーのデジタル出力データに何らかの処理がされた場合、本機とプレーヤーをデジタル接続しても、DTSソースを再生することはできません。

DTSソースを、入力モードをANALOGに設定して再生した場合、未処理のDTS信号を出力します。DTSソースを再生したい場合は、ソースをデジタル入力端子に接続して、必ず入力モードをAUTOまたはDTSに設定してください。

DTSソースを再生中に、入力モードをANALOGに切り換えた場合音声は出力されません。

DTSソースを、入力モードをAUTOに設定して再生する場合、本機がDTS信号を検知し、DTSデコーダーをオンする少しの間ノイズが発生します。これは誤動作ではありません。あらかじめ入力モードをDTSに設定すれば、これを回避することができます。

入力モードがAUTOに設定された状態でDTSソースの再生を続けていると、本機が自動的に“DTSモード”に切り換わって、その後の動作中にノイズが発生するのを防止します(本体ディスプレイの“**dts**”インジケーターが点灯します)。DTSソースの再生が終了するとすぐに、“**dts**”インジケーターが点滅します。このインジケーターが点滅している間(約30秒間)は、DTSソースしか再生することができません。すぐに標準PCMソースを再生したい場合は、入力モードをAUTOに設定しなおしてください。

入力モードがAUTOに設定され、DTSソースの再生中に、サーチまたはスキップ操作が実行されると、“**dts**”インジケーターが点滅します。この状態が30秒以上続くと、自動的に“DTSモード”からPCMデジタル信号入力モードに切り換わり、“**dts**”インジケーターは消えます。

■ LDソースの再生に関する注意

デジタル・サウンドトラックを持っていないLDソフトの場合、LDプレーヤーをアナログ入力端子に接続して、入力モードをAUTOまたはANALOGに設定してください。

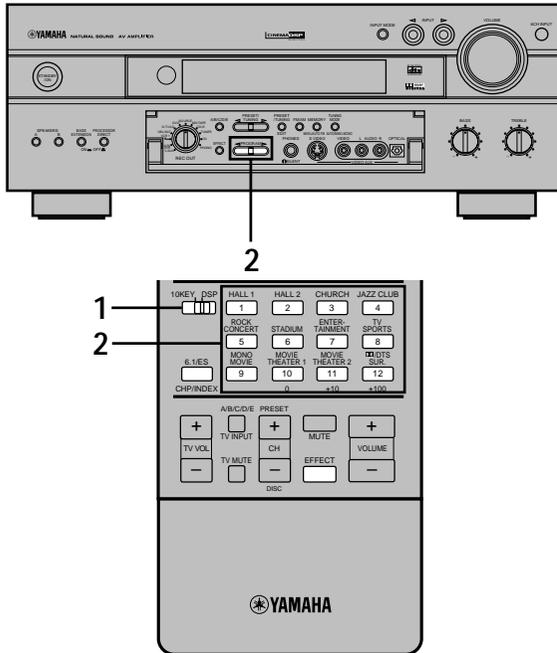
LDプレーヤーが非標準方式で信号を送信する場合、本機はドルビーデジタルまたはDTS信号を検知できません。その場合、デコーダーが自動的にPCMまたはアナログに切り換わります。

LDプレーヤーのような一部のAV機器は、アナログおよびデジタル出力端子から異なるオーディオ信号を出力します。必要に応じて、入力モードを変更してください。LDプレーヤーを操作して、ドルビーデジタルディスクを再生している時に、ポーズ(一時停止)またはチャプター早送り操作から標準再生に切り換えた場合、ドルビーデジタル信号が再生される前に瞬間的にPCMまたはアナログ音声が入聞こえることがあります。

RF(AC-3)入力端子については14ページを参照してください。

音場プログラムの選択

本機には、世界各地の著名な演奏会場での実測データを元に作成されたHi-Fi DSP音場プログラムに加え、より幅広い表現力を持つCINEMA DSP音場プログラムを内蔵しています。再生するときに好みの音場を呼び出して、その臨場感と効果をお楽しみください。各プログラムについては61ページから64ページを参照してください。

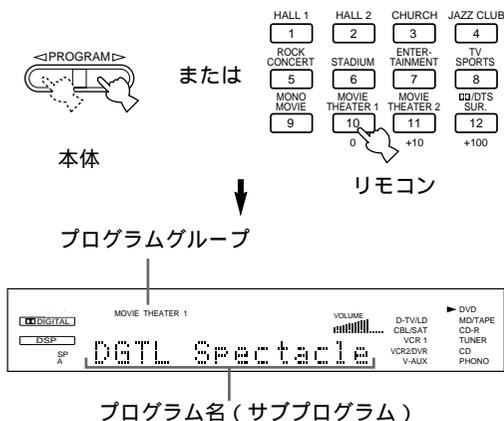


1 リモコンの10KEY/DSPスイッチをDSPの位置にします。



2 本体ディスプレイとモニター画面に希望する音場プログラムが表示されるまで、音場プログラムキー(またはPROGRAM <◀/▶>キー)を繰り返し押します。

例えば、サブプログラムの「Spectacle」を選択するには、MOVIE THEATER 1を繰り返し押します。



ご注意

音場プログラムはプログラム名ではなく、自分のリスニングルームの状況やお好みに合わせて選択してください。リスニングルームの音響効果は音場プログラムに影響を与えます。プログラムによって作り出される効果を最大限に引き出すために、リスニングルーム内の反射音を最小限に抑えてください。

入力ソースを選択すると、本機は自動的にその入力ソースと共に使用された音場プログラムを選択します。本機をオフにすると、今まで再生していたソースと音場プログラムがメモリーされ、電源をオンにしたとき自動的に選択されます。

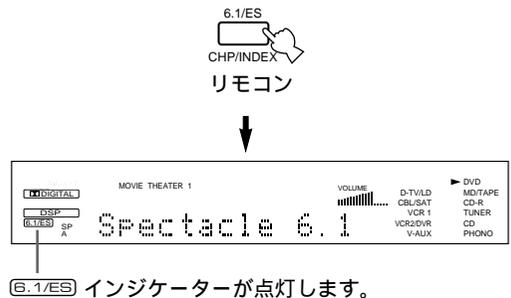
入力モードがAUTOの場合に、ドルビーデジタルまたはDTS信号が入力されると、音場プログラムはソースに対応したデコーディングプログラムに自動的に切り換わります。

モノラルソースをPRO LOGIC/NormalまたはPRO LOGIC/ENHANCED音場で再生した場合は、メインスピーカとリアスピーカからの音声は聴こえません。センタースピーカからのみ音声を聴くことができます。ただし、セットメニューの「1A CENTER SP」がNONEに設定されている場合は、センターチャンネルの音声はメインスピーカから出力されます。

6CH INPUT端子に接続されているソースを再生した場合は、本機の音場プログラムは使用できません。サンプリング周波数96kHzデジタル信号が入力されている場合は、音場プログラムを選択することができません。その場合、音声は通常の2チャンネルステレオとして再生されます。

■ ドルビーデジタルマトリックス6.1/DTS ESデコーダー

5.1チャンネルソースをリアセンタースピーカを使って楽しむ時には、6.1/ESキーを押します。ただしリアセンターチャンネルの的確な効果を得るためには、ドルビーデジタルサラウンドEX方式またはDTS ES方式のソフトをご利用ください(43ページの「12 6.1/ES AUTO」と64ページを参照してください)。

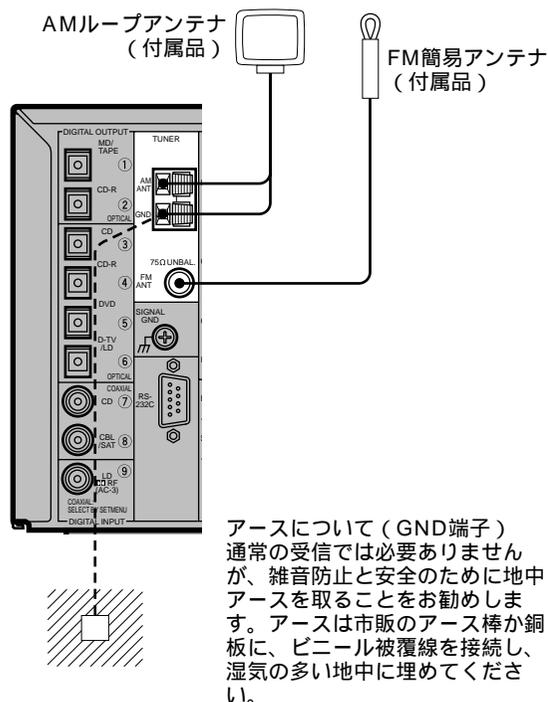


FM/AM放送を聴く

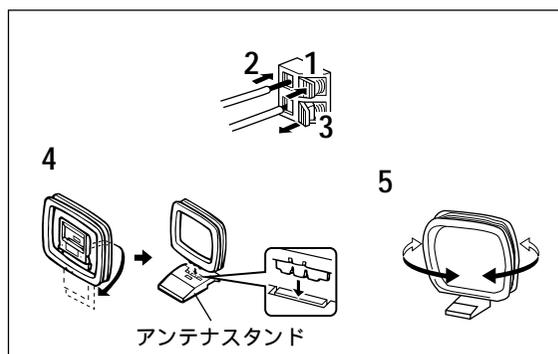
アンテナの接続

本機にはAMループアンテナ及びFM簡易アンテナが付属しています。付属のアンテナは、電波状況が非常に良い地域で受信する場合にご使用ください。

各々のアンテナを端子に正しく接続してください。



■ AMループアンテナの組立と接続



- 1** AM ANT端子とGND端子のレバーを押し続けます。
- 2** AMループアンテナのコードをAM ANT端子とGND端子に差し込みます。(コードに極性はありません。)
- 3** レバーを放すとロックします。
コードを軽く引いて、正しく接続されているか確認してください。
- 4** アンテナをアンテナスタンドに取り付けます。
- 5** アンテナを左右に回し、受信状態が最も良くなる方向に向けます。



AMループアンテナはスタンドから取り外して壁などに取り付けることもできます。

ご注意

AMループアンテナは本機から離して設置してください。
AMループアンテナは屋外アンテナを接続した場合でも必ず接続しておいてください。

放送を良好に受信するためには屋外アンテナを設置することをお勧めします。詳細は最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせください。

■ FM簡易アンテナの接続

付属のFM簡易アンテナをFM ANT端子に接続してください。

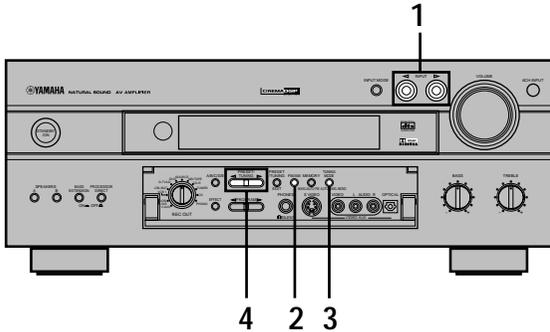
ご注意

FM屋外アンテナを接続したときは、付属のFM簡易アンテナは接続しないでください。

選局する

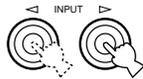
選局のしかたには、自動的に選局するオート選局と、手動で選局するマニュアル選局の2種類あります。

電波の強い放送局を受信するときは、オート選局が速くて便利です。

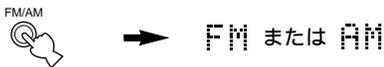


■ オート選局

1 INPUT ◀ / ▶ キーを押してTUNERを選びます。



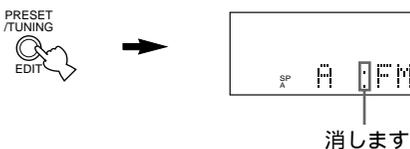
2 FM/AMキーを押して、バンド(FMまたはAM)を選びます。



3 TUNING MODE(AUTO/MAN'L MONO)キーを押して、ディスプレイにAUTOインジケータを点灯させます。

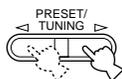


ディスプレイのバンド表示の隣にコロン(:)が点灯している時は、PRESET/TUNING(EDIT)キーを押してコロンを消します。



4 PRESET/TUNING ◀または▶ キーを押します。

高い周波数の放送局を探すときは▶ キーを、低い周波数の放送局を探すときは◀ キーを押します。受信した放送局が希望の局ではないときは、もう一度キーを押します。

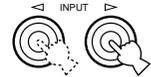


電波が弱くてお聴きになりたい放送局が選局できない時はマニュアル選局してください。放送局を受信するとディスプレイにTUNEDインジケータが点灯し、周波数が表示されます。

■ マニュアル選局

電波の弱い放送局は、マニュアル選局をしてください。

1 INPUT ◀ / ▶ キーを押してTUNERを選びます。



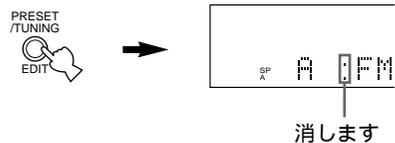
2 FM/AMキーを押して、バンド(FMまたはAM)を選びます。



3 TUNING MODE(AUTO/MAN'L MONO)キーを押して、ディスプレイのAUTOインジケータを消します。

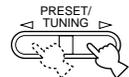


ディスプレイのバンド表示の隣にコロン(:)が点灯している時は、PRESET/TUNING(EDIT)キーを押してコロンを消します。



4 PRESET/TUNING ◀または▶ キーを押します。

押し続けると連続的に周波数が変わります。



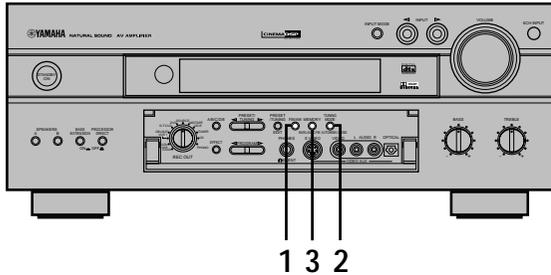
ご注意

マニュアル選局でFMステレオ放送を受信するとモノラル受信になりますが、雑音は軽減されます。

放送局のプリセット

■ オートプリセットのしかた (FM放送局)

FM局のみを自動的にプリセットすることができます。電波の強い放送局を40局(8局×5グループ)までプリセットすることができます。放送局をプリセット(メモリー)しておけば、あとは簡単なキー操作で選局することができます(P33参照)。



1 FM/AMキーを押してFMを選びます。

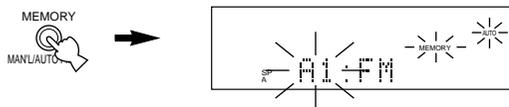


2 TUNING MODE(AUTO/MAN L MONO)キーを押して、ディスプレイにAUTOインジケータを点灯させます。



3 MEMORY(MAN L/AUTO FM)キーを約3秒間以上押し続けます。

プリセット番号とMEMORYとAUTOインジケータが点滅します。5秒程すると現在表示されている周波数から高い周波数へ向けて、オートプリセットが始まります。



オートプリセットが終了すると最後にプリセットした放送局の周波数が表示されます。

ご注意

新しい放送局がプリセットされると、前にプリセットされていた放送局は消え、新しい放送局に入れかわります。

プリセットされたFMまたはAM放送局を手動で入れかえることができます。33ページの「マニュアルプリセットのしかた」を参照してください。

オートプリセットでは、プリセットする放送局の数が「E8」に満たない場合には全帯域を一巡して停止します。

オートプリセットでは、電波の強いFM放送局だけがプリセットされます。電波の弱い放送局をプリセットするときは、受信モードをモノラルにしてマニュアルプリセットをしてください(P33参照)。

オートプリセットオプション

FM局をメモリーし始めるプリセット番号を選択できます。また、周波数の低い方へ向けてオートプリセットを始めることもできます。オートプリセットを始める前に(手順3でMEMORYキーを押した後)次の操作をしてください。

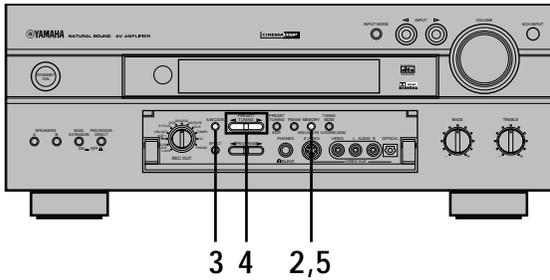
1. A/B/C/D/EとPRESET/TUNING </> キーを押して、最初にメモリーさせたいプリセット番号を選択します。局が「E8」まですべてメモリーされると、オートプリセットが停止します。
2. PRESET/TUNING(EDIT)キーを押してコロン(:)を消し、それからPRESET/TUNING < キーを押すと、周波数の低い方へ向けてオートプリセットを開始します。

メモリーバックアップについて

本機の電源を切ってもプリセットの内容は消えずに記憶(メモリー)されています。また、電源コードをACコンセントから抜いても約1週間位はメモリーしています。もし、時間が経過してメモリーが消えてしまったときは、再度プリセットしてください。

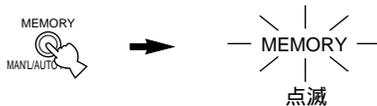
■ マニュアルプリセットのしかた

マニュアルでも40局(8局 x 5グループ)までプリセットできます。



1 プリセットしたい放送局を選局します。
31ページの手順を参照してください。

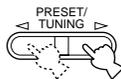
2 MEMORY(MAN L/AUTO FM)キーを押します。
MEMORYインジケータが約5秒間点滅し、プリセットできる状態になります。



3 MEMORYインジケータの点滅中に、A/B/C/D/Eキーを押してプリセットグループ(A~E)を選びます。
グループが表示されます。バンド表示の隣にコロン(:)が点灯していることを確認してください。



4 MEMORYインジケータの点滅中に、PRESET/TUNING </> キーを押し、プリセット番号(1~8)を選びます。
> を押すと数が増え、< を押すと減ります。



5 MEMORYインジケータの点滅中に、MEMORY(MAN L/AUTO FM)キーを押します。
選択したプリセットグループ、プリセット番号と放送バンド(FMまたはAM)周波数がディスプレイに表示されます。



表示されている放送局がA1にプリセットされました。

6 他の放送局を続けてプリセットするときは1~5の手順を繰り返します。

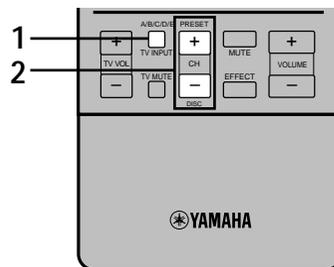
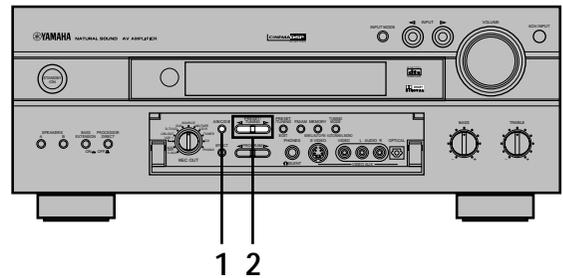
ご注意

新しい放送局がプリセットされると、前にプリセットされていた放送局は消え、新しい放送局に入れかわります。
プリセットしたとき、放送局の周波数と受信モード(ステレオ/モノラル)もメモリーされます。

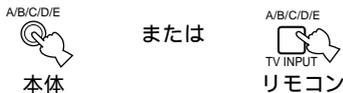
プリセット選局のしかた

プリセット番号を選ぶだけでそこにプリセットした放送局を選局できます。

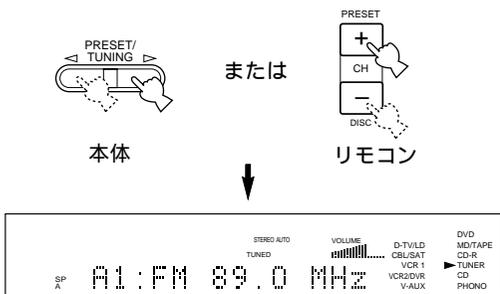
リモコンでもプリセット選局できます。TUNERキーを押してインプットソースをTUNERにしてください。



- 1** A/B/C/D/Eキーを押して、放送局をプリセットしたグループを選びます。
 プリセットグループがディスプレイに表示されます。
 A/B/C/D/Eキーを押してグループを変えられます。

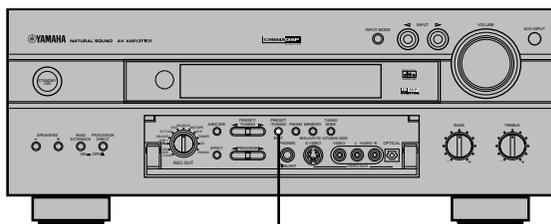


- 2** PRESET/TUNING </> キー(または PRESET +/ - キー)を押して、プリセット番号を選びます。
 プリセットグループとプリセット番号が放送バンド (FMまたはAM) 周波数とともにディスプレイに表示されます。TUNEDインジケータが点灯します。



プリセット局の入れかえ

プリセットした放送局を入れかえることができます。ここでは「E1」にプリセットした放送局を「A5」に、「A5」の放送局を「E1」に変更する場合の手順を説明します。



2,4

- 1** 「E1」にプリセットした放送局を選局します。
 33ページの「プリセット選局のしかた」を参照してください。

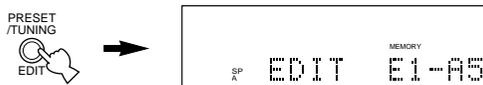
- 2** PRESET/TUNING(EDIT)キーを約3秒間以上押します。
 E1とMEMORYインジケータがディスプレイに点滅します。



- 3** 「A5」にプリセットした放送局を本体のキーを使って選局します。
 A5とMEMORYインジケータがディスプレイに点滅します。



- 4** PRESET/TUNING(EDIT)キーを押します。
 プリセット局が入れかわります。

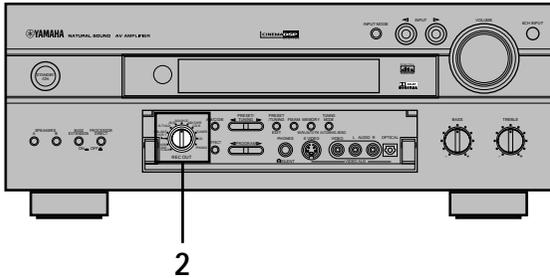


入れかえが終了した時

録音と録画

本機はREC OUTセクターを装備しているため、再生中のソースを録音 / 録画、または、再生中のソースとは別のソースを録音 / 録画することができます。

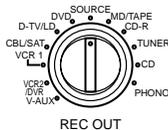
録音レベルの調節や操作は、それぞれの録音機器で行います。ご使用になる機器の取扱説明書を参照してください。



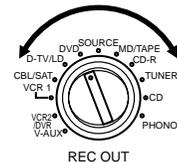
1 本機および再生する機器の電源を入れます。

2 REC OUTセクターを設定します。

見ている(聴いている)ソースを録音 / 録画するには、REC OUTセクターをSOURCEの位置にします。



見ている(聴いている)ソースとは別のソースを録音 / 録画するには、REC OUTセクターを録音 / 録画したいソースの位置にします。



3 ソースを再生します(または放送局を選局します)。

4 録音 / 録画を開始します。

他のソースを聴きたい場合、またREC OUTセクターがSOURCEの位置でない時はINPUT < / > キーでソースを選び、ボリュームを調節することができます。



REC OUTセクターをSOURCEの位置にしてBGV機能(P26参照)を使うと、異なったソースの映像と音声を録音 / 録画することができます。

ご注意

録音 / 録画する場合、事前に「試し録音」「試し録画」を行ってください。

本機の電源を切ると、接続した機器間の録音 / 録画は行えません。

トーンコントロール(BASS, TREBLE)、BASS EXTENSIONスイッチ、VOLUMEコントロール、セットメニュー「3 L/R BALANCE」、音場プログラムなどを操作しても、録音 / 録画には影響しません。

S VIDEO端子からの録画は、S VIDEO端子どうしのみ、コンポジット端子からの録画はコンポジット端子どうしのみ有効です。

入力ソースと同一のREC OUTには出力されません。(たとえば、VCR1の信号はVCR1のREC OUTには出力されません。)

あなたが録音したものは個人で楽しむ場合以外は著作権者に無断で使用することはできません。

■ DTSソフトの録音について

DTS信号はデジタルビットストリームで伝送されます。DTS信号をデジタル録音しても、ノイズだけが録音されません。DTS対応ディスクの信号を録音するために次の事項に注意し、必要な設定を行ってください。

DTS LD、DVD、CDの場合、2チャンネルアナログオーディオ信号として録音します。

LD: LDプレーヤーのL、R出力をアナログ2チャンネル出力に設定します。

DVD: DVDプレーヤーのメニュー機能を使って、2チャンネルミックス出力をPCMまたはドルビーデジタルサウンドトラックに設定します。

CD: デジタルビットストリーム伝送のため録音できません。

セットメニュー

本機には、15項目のセットメニューがあります。スピーカーモードや、センターグラフィックイコライザー、パラメーターイニシャライズなどの便利な機能がセットメニューに納められています。必要に応じてセットメニューを呼び出し、設定してください。



再生中もセットメニューの設定を行えます。セットメニューはモニター画面を見ながら設定することをお勧めします。本体のディスプレイ表示でも設定できますが、モニター画面のほうが分かりやすく容易に設定できます。

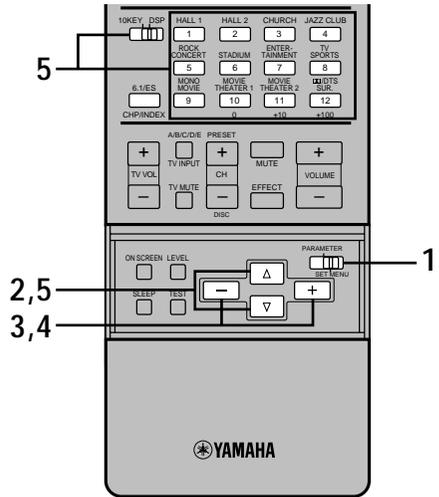
ご注意

本体ディスプレイの表示はオンスクリーン表示を簡略化したものです。

- 1 **SPEAKER SET**
 - 1A CENTER SP
 - 1B MAIN SP
 - 1C REAR L/R SP
 - 1D REAR CT SP
 - 1E LFE/BASS OUT
 - 1F MAIN LEVEL
- 2 **LOW FRQ TEST**
- 3 **L/R BALANCE**
- 4 **HP TONE CTRL**
- 5 **CENTER GEQ**
- 6 **INPUT RENAME**
- 7 **I/O ASSIGNMENT**
- 8 **INPUT MODE**
- 9 **PARAM. INI**
- 10 **DOLBY D. SET**
 - 10A LFE LEVEL
 - 10B D-RANGE
- 11 **DTS LFE LEVEL**
- 12 **6.1/ES AUTO**
- 13 **SP DELAY TIME**
- 14 **DISPLAY SET**
- 15 **MEMORY GUARD**

セットメニューの操作手順

リモコンで操作します。



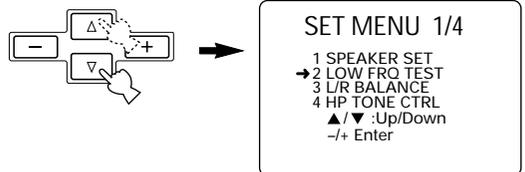
ご注意

項目によっては更に別な手順が必要となる場合もあります。

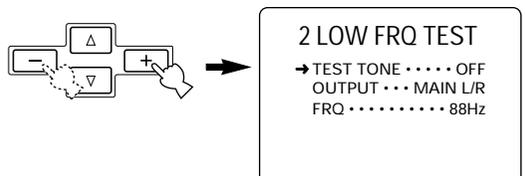
- 1** PARAMETER/SET MENUスイッチをSET MENUの位置にします。



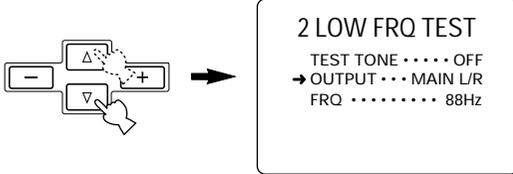
- 2** カーソルキーの△または▽を繰り返し押し、設定したいメニュー(1~15)を選択します。



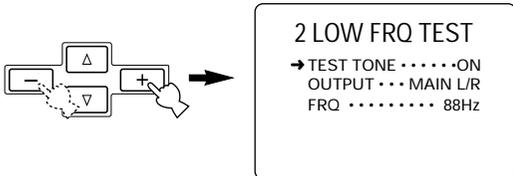
- 3** カーソルキーの-または+を一度押して、選択したメニューのセットアップモードに入ります。現在の設定がモニター画面と本体ディスプレイに表示されます。



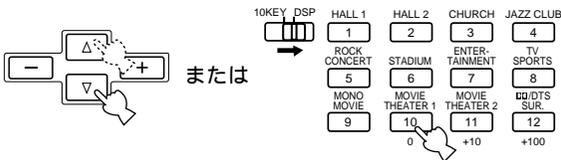
項目によってはカーソルキーの△または▽を押して、サブメニューを選びます。



4 カーソルキーの-または+を繰り返し押して、設定を変えます。



5 セットメニューを終了するとき、音場プログラム表示になるまでカーソルキーの△または▽を繰り返し押すか、プログラムキーのどれかを押します。



メモリーバックアップについて

本機の電源を切っても、セットメニューの設定内容はメモリー(記憶)されています。約1週間は電源コードをコンセントから外しても、メモリー内容はそのまま記憶されています。ただし1週間を過ぎると、セットメニューが初期設定に戻り、メモリー内容が消去されることがあります。このような場合は再度、設定を行ってください。

1 SPEAKER SET (スピーカーモードの設定)

ご使用になるスピーカーシステムに合わせて、スピーカーモードを設定します。サブウーファーをご使用になる場合は必ず設定してください。

ご注意

デジタル入力でサンプリング周波数が9.6kHzの場合は、1Bと1Eのみ設定が可能です。1A、1C、1Dと1Fは適応されません。

6CH INPUT端子から入力した信号には、1A～1Fのスピーカーモードの設定は適応されません。

■ 1A CENTER SP (センタースピーカーモード)

センタースピーカーを追加することによって、画像と音像が一致します。また優れた音場効果の得られるリスニングエリアも広がるため、多くのリスナーでお楽しみいただけるようになります。

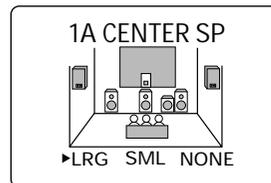
モニター画面には、センタースピーカーモードの状態が設定に合わせてイラスト表示されます。

使用するセンタースピーカーに合わせて、モード(LRG/SML/NONE)を選択します。

初期設定:LRG

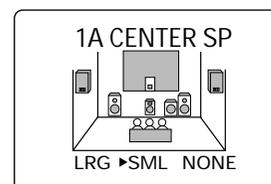
LRG

センタースピーカーに大型のスピーカーを使用するモードです。センターチャンネル信号の全帯域が、そのままセンタースピーカーに出力されます。



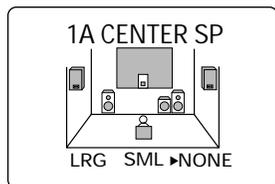
SML

センタースピーカーに小型のスピーカーを使用するモードです。センターチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「1E LFE/BASS OUT」で選択したスピーカーに出力されます。



NONE

センタースピーカーを使用しないときのモードです。センターチャンネル信号は、メインのL、Rスピーカーに同じレベルで振り分けられます。



■ 1B MAIN SP (メインスピーカーモード)

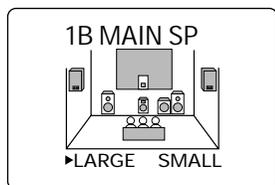
モニター画面には、メインスピーカーモードの状態が設定に合わせてイラスト表示されます。

使用するメインスピーカーに合わせて、モード(LARGE/SMALL)を選択します。

初期設定:LARGE

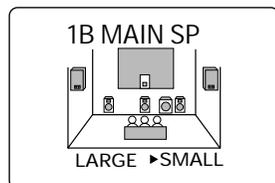
LARGE

メインスピーカーに大型のスピーカーを使用するモードです。メインL、Rチャンネル信号の全帯域が、そのままメインL、Rスピーカーに出力されます。



SMALL

メインスピーカーに小型のスピーカーを使用するモードです。メインL、Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「1E LFE/BASS OUT」で選択されたスピーカーに出力されます。



ご注意

SMALL設定時でも、「1E LFE/BASS OUT」の設定がMAINの場合は、メインL、Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域はメインに出力されます。

■ 1C REAR L/R SP (リアL、Rスピーカーモード)

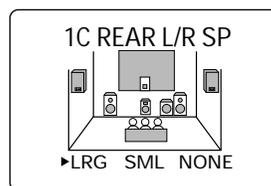
モニター画面には、リアスピーカーモードの状態が設定に合わせてイラスト表示されます。

使用するリアL、Rスピーカーに合わせて、モード(LRG/SML/NONE)を選択します。

初期設定:LRG

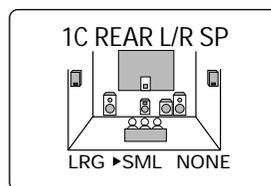
LRG

リアL、Rスピーカーに大型のスピーカーを使用したり、リアL、Rスピーカーにリア側サブウーファーをスピーカーケーブル結線で接続して使用する場合のモードです。リアL、Rチャンネル信号の全帯域が、そのままリアスピーカーに出力されます。



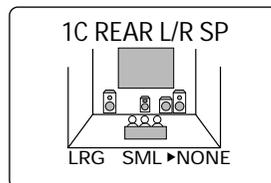
SML

リアL、Rスピーカーに小型のスピーカーを使用するモードです。リアL、Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「1E LFE/BASS OUT」で選択されたスピーカーに出力されます。



NONE

リアL、Rスピーカーを使用しないときのモードです。NONEに設定すると、自動的にリアセンタースピーカーも使用しない設定となり、セットメニューから「1D REAR CT SP」がスキップされます。



「1C REAR L/R SP」をNONEに設定するとパーチャルCINEMA DSPモードになります。

■ 1D REAR CT SP
(リアセンタースピーカーモード)

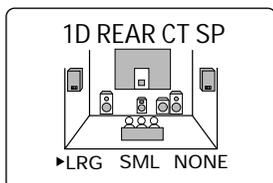
リアセンタースピーカーを追加することによって、前方から後方へ、後方から前方へと音の移動がスムーズに行われるため、サラウンド効果を一段と向上させることができます。

使用するリアセンタースピーカーに合わせて、モード (LRG/SML/NONE) を選択します。

初期設定: NONE

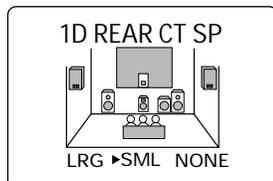
LRG

リアセンタースピーカーに大型のスピーカーを使用するモードです。リアL、Rチャンネルに含まれるリアセンター信号の全帯域がそのままリアセンタースピーカーに出力されます。



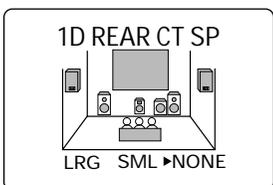
SML

リアセンタースピーカーに小型のスピーカーを使用するモードです。リアセンター信号の90Hz以下の低音域は「1E LFE/BASS OUT」で選択したスピーカーに出力されます。



NONE

リアセンタースピーカーを使用しないときのモードです。リアセンターチャンネル信号はリアL、Rチャンネルにミックスされます。



■ 1E LFE/BASS OUT
(バスアウトモード)

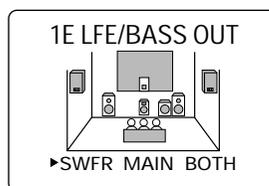
LFE/BASS信号を出力するスピーカーを設定します。(LFE信号: ドルビーデジタルやDTS動作時に出力される低音域効果音。低音域信号は90Hz以下。)

初期設定: BOTH

SWFR

サブウーファーを使用する場合のモードです。

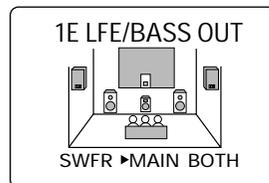
LFEと、1A～1Dの設定により他チャンネルの低音域(90Hz以下)が、サブウーファーに出力されます。



MAIN

サブウーファーを使用しない場合のモードです。

LFEと、1A～1Dの設定により他チャンネルの低音域(90Hz以下)が、メインL、Rスピーカーに出力されます。



BOTH

サブウーファーを使用し、さらにメインスピーカーモードの設定に関わりなく、メインスピーカーの90Hz以下の低音域をLFEチャンネルにミックスする場合のモードです。



ご注意

1A～1Dの設定をスモールにすると他チャンネルの低音域(90Hz以下)がLFEチャンネルとしてサブウーファーに出力されます。

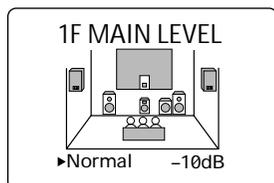
■ 1F MAIN LEVEL (メインレベルモード)

メインスピーカーが極端に高効率であるため、センタースピーカーとリアスピーカーの出力レベルがメインスピーカーに合わない場合には、設定を変えてください。

初期設定: Normal

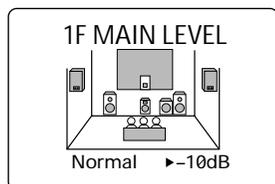
Normal

通常はこの設定にします。テストトーンでのスピーカーレベル調節の際、エフェクトスピーカーの出力レベルとメインスピーカーのレベルが同じ場合です。



- 10 dB

テストトーンでのスピーカーレベル調節の際、エフェクトスピーカーの出力レベルがメインスピーカーより小さい場合は、この設定にします。



2 LOW FRQ TEST (ローフリクエシーテスト)

サブウーファーと各スピーカーの音のつながりを周波数の低いテストトーンによってテスト(確認)します。リスニングポジションに座り、リモコンで操作してください。

1 カーソルキーの - または + を押して TEST TONE を ON に設定し、テストトーンが聞こえるように、VOLUME +/- キーで音量を調節します。

ご注意

音量を上げ過ぎないように注意してください。テストトーンが聞こえない場合は、ボリュームを絞ってから電源を切り、スピーカーの接続を確認してください。

2 カーソルキーの ∇ を押して、OUTPUT を選択し、カーソルキーの - または + を押して、比較したいスピーカーを設定します。

SWFR 選択時は、90Hz 以上のテストトーンはハイカットフィルターでカットされます。テストトーンは選択したスピーカーから出力されなくなります。また、セットメニュー「1 SPEAKER SET」の設定により、90Hz を境にテストトーン出力チャンネルが変わることがあります。

3 サブウーファーとの音のつながりがスムーズなことを確認するために、テストトーンを中心周波数を変えます。カーソルキーの ∇ を押して、FRQ (周波数) を選択し、- または + キーを押して中心周波数 (35 ~ 250 Hz) または周波数帯域 (35 - 250 Hz) を選びます。

4 サブウーファーの音量をサブウーファー側で調整し、確認します。

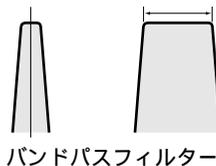
■ テストトーンについて

本機のテストトーンはトーンジェネレーターによって作り出しています。全帯域フラットな広帯域ノイズから、急峻なバンドパスフィルターで FRQ 指定された周波数を中心とした帯域を切り出します。中心周波数は、35 Hz 39 Hz 44 Hz 「1/6 オクターブステップ」で変わります。サブウーファーのレベル調節ばかりでなく、リスニングルームの低域特性チェックにも応用できます。特に超低域ではリスニングポジションや、スピーカーの設置場所、サブウーファーの極性によって状態が大きく変わります。いろいろお試しください。

デジタルトーンジェネレーター
(広帯域ノイズ発生)



中心周波数 35 Hz - 250 Hz



3 L/R BALANCE (メインスピーカバラン)

メインスピーカーのL、Rの音量バランスを設定します。

可変範囲: 10ステップ (L - 0 - R)

初期設定: 0

+キーを押すと左(L)のメインスピーカーの音が小さくなり、-キーを押すと右(R)のメインスピーカーの音が小さくなります。

4 HP TONE CTRL(ヘッドホントーンコントロール)

ヘッドホンの低音域および高音域を調節します。

可変範囲 (dB): -6 ~ +3

初期設定:(低音域、高音域ともに)0dB

5 CENTER GEQ(センターグラフィックイコライザー)

センタースピーカーの音色を、メインL、Rスピーカーの音色と合わせるために、センターチャンネルのグラフィックイコライザーを調節します。100Hz、300Hz、1kHz、3kHzおよび10kHzの周波数が選べます。

可変範囲 (dB): -6 ~ +6

初期設定:(5バンドともに)0dB

1 カーソルキーの▽を押すと高い周波数、△を押すと低い周波数が選べます。

2 カーソルキーの-または+を押して、レベルを設定します。



テストトーン使用時に、「CENTER GEQ」の調節を行うと、テストトーンを聞きながらセンタースピーカーの音色を調節できます。「CENTER GEQ」の手順を行う前にTESTキーを押します。モニター画面に「TEST DOLBY SUR」が表示され、テストトーンが各々のスピーカーから順に出力されます。「CENTER GEQ」の操作を始めると、テストトーンの出力はセンタースピーカーに固定され、周波数を変えながら音声はどう変わっていくか試すことができます。テストトーンを終了するにはTESTキーを押します(P22~23参照)。

6 INPUT RENAME (インプットリネーム)

各入力名を変更することができます。変更後は、その名前が入力が表示されます。

1 インプットセレクター(またはINPUT </>キー)を押して、名前を変更する入力を選びます。

2 カーソルキーの-または+を押して、変更する文字またはスペースに_(アンダーバー)を合わせます。

3 カーソルキーの△または▽を押して入力する文字を選び、-または+キーを押してアンダーバーを移動させます。

カーソルキーの▽を押すと次の順序で表示されます。△を押すと逆の順序で表示されます。

A~Z スペース 0~9 スペース a~z スペース # * + , - . / : < > ? スペース



最大8文字の名前を入力できます。

4 入力が終わったら、8文字目にカーソルを移動し、カーソルキーの+を押します。

7 I/O ASSIGNMENT (入出力アサイン)

COMPONENT端子(A、B)およびデジタル入出力端子(①~⑧)の用途設定を変更できます。

■ 7A [A] [B] (COMPONENT VIDEO端子)

初期設定: [A] DVD
[B] D-TV/LD

■ 7B (1)(2)(OPTICAL OUTPUT端子)

初期設定: (1) MD/TAPE
(2) CD-R

■ 7C (3)~(6)(OPTICAL INPUT端子)

初期設定: (3) CD
(4) CD-R
(5) DVD
(6) D-TV/LD

■ 7D (7)~(9)(COAXIAL INPUT端子)

初期設定: (7) CD
(8) CBL/SAT
(9) LD RF

ご注意

それぞれの項目(7A~7D)の中では、同一の端子名をアサインすることはできません。

8 INPUT MODE (初期インプットモード)

再生機器を2種類以上の入力端子に接続している場合の、入力モードの電源投入時の初期値を設定します(P26参照)

初期設定:AUTO

AUTO

電源投入時AUTOに設定されます。

LAST

入力モードの最後の設定をメモリーして、それを電源投入時の初期値とします。

9 PARAM. INI (パラメーターイニシャライズ)

音場プログラムのパラメーターを、プログラムグループごとにイニシャライズします(初期設定値に戻します)

リモコンの音場プログラムキーを押すと、その音場プログラムがイニシャライズされます。



パラメーターが変更されている音場プログラムは、そのプログラムナンバーの前にアスタリスク(*印)が付いています。

ご注意

音場プログラムにサブプログラムがある場合でも個別のイニシャライズは行えません。

アスタリスク(*)が付いていないプログラムをイニシャライズしても、何も変わりません。

「15 MEMORY GUARD」の設定(P44参照)がONの時は、イニシャライズできません。

一度イニシャライズした音場プログラムを、元の状態(パラメーターが変更された状態)に戻すことはできません。

10 DOLBY D. SET (ドルビーデジタルセット)

この設定はドルビーデジタル再生時のみ有効です。

■ 10A LFE LEVEL (LFEレベル)

ドルビーデジタルでのLFE信号の再生レベルを設定します。LFE信号は、ドルビーデジタルにおいて、意図されたシーンでのみ出力される特殊な低域効果音です。

可変範囲(dB): -20~0

初期設定:(スピーカー、ヘッドホンともに)0dB

ご注意

使用するサブウーファーやヘッドホンなどの能力に応じて、LFEレベルを調節してご使用ください。

■ 10B D-RANGE (ダイナミックレンジ)

ドルビーデジタル再生時のダイナミックレンジを、MAX、STDまたはMINの3種類から設定します。

初期設定:(スピーカー、ヘッドホンともに)MAX

MAX

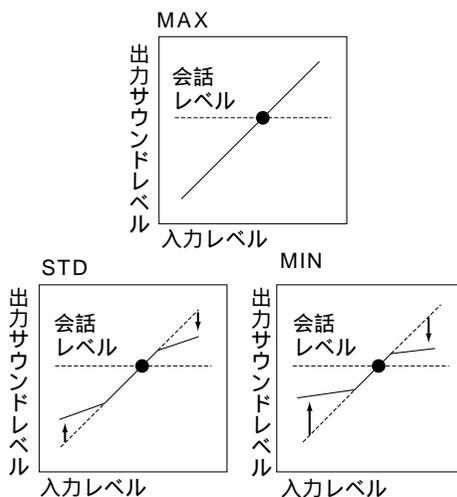
信号ソースのダイナミックレンジを最大限に再生します。

STD(STANDARD)

ソフト製作者が家庭用として推奨するダイナミックレンジです。

MIN

小音量でも聴きやすく、深夜の視聴に適したダイナミックレンジです。



ご注意

ドルビーデジタルソフトによっては、ダイナミックレンジのMINに対応していないため、音量が極端に下がる場合があります。このようなときは、ダイナミックレンジをMAXまたはSTDに設定してご使用ください。

11 DTS LFE LEVEL (DTS LFEレベル)

この設定はDTS再生時にのみ有効です。

DTSでのLFE信号の再生レベルを設定します。LFE信号は、DTSソースにおいて、意図されたシーンでのみ出力される特殊な低域効果音です。

可変範囲 (dB): -10 ~ +10

初期設定:(スピーカー、ヘッドホンともに)0dB

ご注意

使用するサブウーファーやヘッドホンなどの能力に応じて、LFEレベルを調節してご使用ください。

12 6.1/ES AUTO (6.1/ESオート)

6.1/ESデコーダーのオン/オフを、入力信号に応じて自動的に動作させるか、リモコンの6.1/ESキーでオン/オフにするかを設定します。

ON

ドルビーデジタルサラウンドEXまたはDTS ES自動認識対応ソフトが再生されると、6.1/ESデコーダーが自動的にオンになります。

OFF

リモコンの6.1/ESキーのオン/オフで、6.1/ESデコーダーをオン/オフできます。

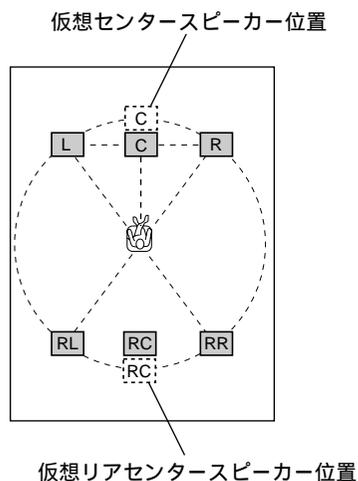
13 SP DELAY TIME (スピーカーディレイタイム)

センタースピーカーおよびリアセンタースピーカーのディレイタイムを設定します。ドルビーデジタルまたはDTS再生時に有効です。

通常センタースピーカーはL、Rスピーカーと同一線上に置きますが、本来ならば同時に出た音が同時にリスナーの耳に届くように、3つのスピーカーとリスナーの距離が同一になるのが理想的です。ディレイタイムを設定することによって、仮想的にセンタースピーカーの位置を遠ざけ、等価的にリスナーと3つのスピーカーとの距離を合わせることができます。センターディレイは、特にスモールモードでセンタースピーカーを使用しているときに、セリフの量感を増す効果があります。また、スモールモードでリアセンタースピーカーを使用しているときは、音に360度取り囲まれる“360度パン”などのすぐれた効果が期待できます。

可変範囲 (ms): 0から5(センタースピーカー)

0から30(リアセンタースピーカー)



目安として1ms増すとリスニングポジションから約30cm遠ざかったこととなります。

14 DISPLAY SET (ディスプレイセット)

■ BLUE BACK > AUTO/OFF (ブルー画面設定)

オンスクリーン表示の設定でAUTOにすると、ビデオ信号の入力が無いときに、画面をブルーバックにできます。OFFにするとブルーバックにはなりません。

■ OSD SHIFT (OSD オフセット位置)

カーソルキーの - /+でオンスクリーン表示位置を上下に調整できます。

■ DIMMER (デイマー)

本体ディスプレイの明るさを調節します。

15 MEMORY GUARD (メモリーガード)

設定したパラメーターやレベルなどを保護します。

ONで保護される設定

- 音場プログラムのパラメーター設定値
- MEMORY GUARD以外のセットメニュー
- センター、リア、リアセンター(P17参照) サブウーファアのレベル
- オンスクリーン表示の設定

ご注意

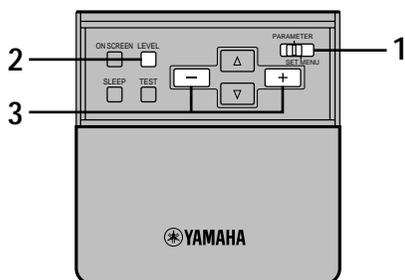
「15 MEMORY GUARD」をONに設定すると、テストモードに入れません。

「15 MEMORY GUARD」をONに設定すると、他のセットメニューは呼び出せません。

エフェクトスピーカーのレベル調節

ソースの再生音を聴きながら、エフェクトスピーカー（センター、リアR、リアセンター（P17参照）、リアL、サブウーファー）のスピーカーレベル調節が行えます。

調節はリモコンで行います。

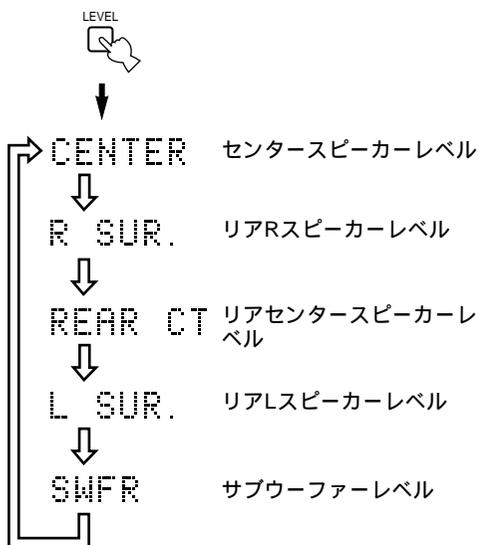


1 PARAMETER/SET MENUスイッチをPARAMETERの位置にします。



2 LEVELキーを押して調節するスピーカーを選びます。

LEVELキーを押すごとに、センター リアR リアセンター（P17参照） リアL サブウーファー センターの順で本体ディスプレイとモニター画面に表示されます。



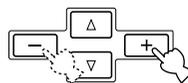
3 LEVELキーでレベル表示にすると、カーソルキー▽でもスピーカーを選択することができます。（△キーを押すと逆方向に選択できます。）



3 カーソルキーの-または+を押して、スピーカーレベルを調節します。

センター、リアL、Rおよびリアセンタースピーカーの調節範囲は、+10 ~ -10dBです。

サブウーファーの調節範囲は、-20 ~ 0dBです。



PARAMETER/SET MENUスイッチがSET MENUのとき、レベル調節はできませんが、LEVELキーを押すごとに各スピーカーのレベルが表示されるのでスピーカーレベルの確認ができます。

ご注意

スピーカーモードがNONEに設定されている場合、そのスピーカーのレベル調節はできません。LEVELキーでスピーカーレベルを調節すると、テストトーンで調節したスピーカーレベルも変更されます。

メモリーバックアップについて

本機の電源を切っても、調節したレベルは消えずに記憶（メモリー）されています。また、電源コードをACコンセントから抜いても約1週間位はメモリーしています。もし、時間が経過してメモリーが消えてしまったときは、1～3の手順でレベルを再調節してください。

スリープタイマー

設定した時間が経過すると電源が自動的に切れるので、聴きながら、もしくは録音しながらおやすみになれます。スリープタイマーは本機のSWITCHED AC OUTLETSに接続した機器(ソース)の電源も切ります。

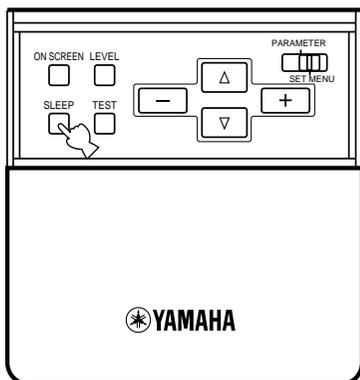
スリープタイマーの設定はリモコンで行います。



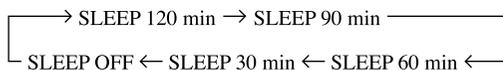
市販のタイマーを本機に接続するとウェイクアップタイマーの設定ができます。詳しくはタイマーの取扱説明書を参照してください。

スリープタイマーの設定

- 1 ソースを選択して再生します。
- 2 SLEEPキーを押して電源が切れるまでの時間を設定します。



SLEEPキーを押すごとに次のように切り替わります。



- 3 スリープタイマーが設定されるとSLEEPインジケータが点灯します。ディスプレイは音場プログラム表示に戻ります。



スリープタイマーを解除する

“ SLEEP OFF ”の表示が出るまでSLEEPキーを繰り返し押します。

しばらくすると“ SLEEP OFF ”は消え、SLEEPインジケータも消えます。ディスプレイは音場プログラム表示に戻ります。



リモコンのSTANDBYキー(または本体のSTANDBY/ONキー)を押すか、電源コードを抜いてもスリープタイマーは解除できます。

リモコンで操作する

本機のリモコンでは、ヤマハ各機器の操作はもちろんのこと、各機器の基本的な操作が行えます。また、一連の操作を一つのキーにインプットしたマクロ機能により、操作性が格段に向上します。

本機のリモコンには、他のリモコンの信号をラーニング(学習)する機能やメーカーコードをセットアップする機能もあります。ラーニングおよびセットアップについては54ページから56ページをご覧ください。

ラーニング(学習)機能

赤外線を利用したリモートコントロールを使っているAV機器(その他の家庭電気機器)の操作機能をラーニングすることにより、このリモコンでコントロールできます。

マクロ機能

システムの電源ON 入力切換え 演奏 といった一連の操作をプリセットできます。システムの操作性を向上させるとともに、リモコンの数を減らすことができます。

ご注意

リモコンを使うときの操作範囲や電池については3ページと8ページをご覧ください。

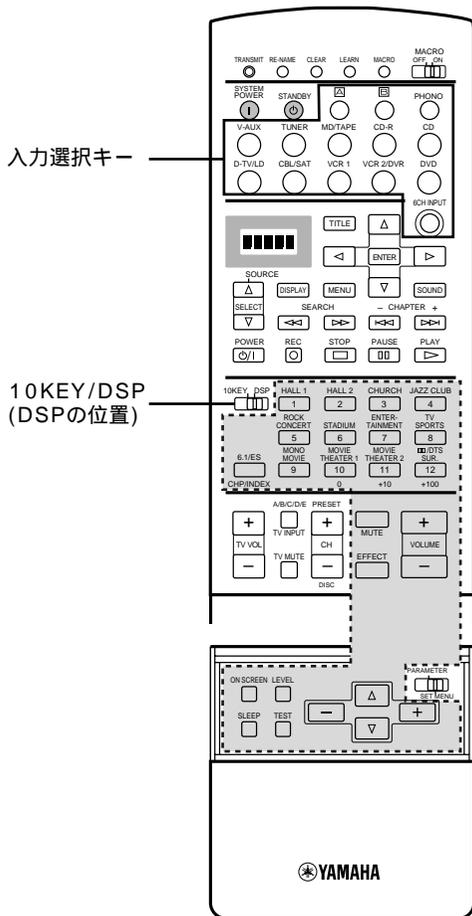
リモコンの各部の名称とはたらきについては6ページと7ページをご覧ください。

リモコンのメモリーがいっぱいになると、リモコンに未設定のキーが有ってもこれらのキーにはラーニングができません(P56参照)。

操作エリアについて

■ 本体の操作エリアについて

下図の網かけをした部分のキーで、本体の操作ができます。リモコンを各機器の操作にセットしていても、これらのキーで本体の操作ができます。



入力選択キー

10KEY/DSP
(DSPの位置)

■ 各機器の操作エリアについて

下図の網かけをした部分のキーで、各機器の操作ができます。インプットセレクターによって選ばれた入力名が表示窓に表示され、これに対応する機器を操作することができます。リモコンのキーの機能は、選ばれた機器によって異なります。

機器操作面を切り換えます。初期設定

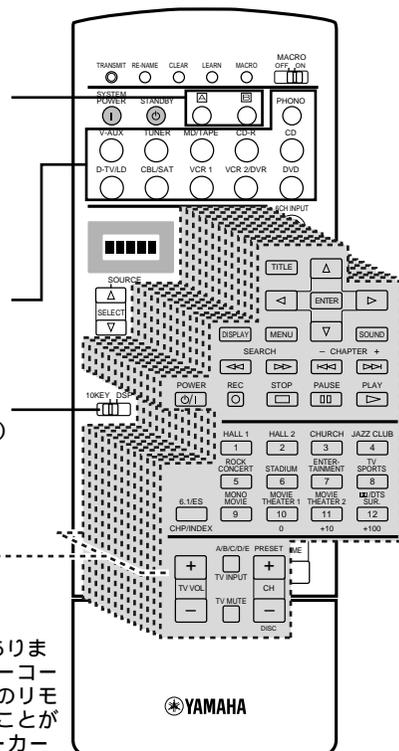
[A]: 機器操作エリアにLDプレーヤーのコードがプリセットされています。
[B]: 何もプリセットされていません。

入力の選択および機器操作面を切り換えます。

10KEY/DSP
(10KEYの位置)

機器操作エリア

14面の機器操作エリアがあります。各エリアごとにメーカーコードのセットアップや他機器のリモコン信号をプログラムすることができます(OPTN面にはメーカーコードをセットアップできません)。54ページから56ページを参照してください。



■ SOURCE SELECT Δ / ∇ キーについて

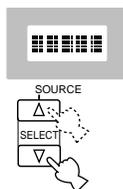
インプットセレクターで選んだ機器とは別の機器を操作することができます。

SOURCE SELECT Δ / ∇ キーを押してリモコンで操作したい機器を選びます。

∇ を押すたびに、OPTN(オプション) \ A、B、PHONO、V-AUX、TUNER、MD、CD-R、CD、TV/LD (TVまたはデジタルTV/LD) CBSAT(ケーブルTVまたは衛星放送) \ VCR 1、VCR 2、DVDの順で表示が変わります。



Δ を押すたびに、 ∇ とは逆の順に表示が変わりますがOPTNは選べません。

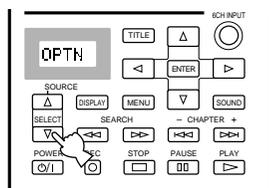


■ OPTN (オプション) 面

ラーニング(学習)機能を使ってプリセットした機器を操作できます。

ご注意

OPTN(オプション)面にはメーカーコードをセットアップすることができません。



∇ を押すと常に最初にOPTNが表示されます

各機器を操作する

各機器操作キーにはヤマハのリモコン対応機器DVD、LD、CD、MD、CD-Rの基本的な操作の信号があらかじめプリセットされています。インプットセクターで入力を選ぶだけでこれらの機器が操作できます。

初めに、インプットセクターまたはSOURCE SELECT Δ / ∇ キーを押して操作したい機器を選んでください。



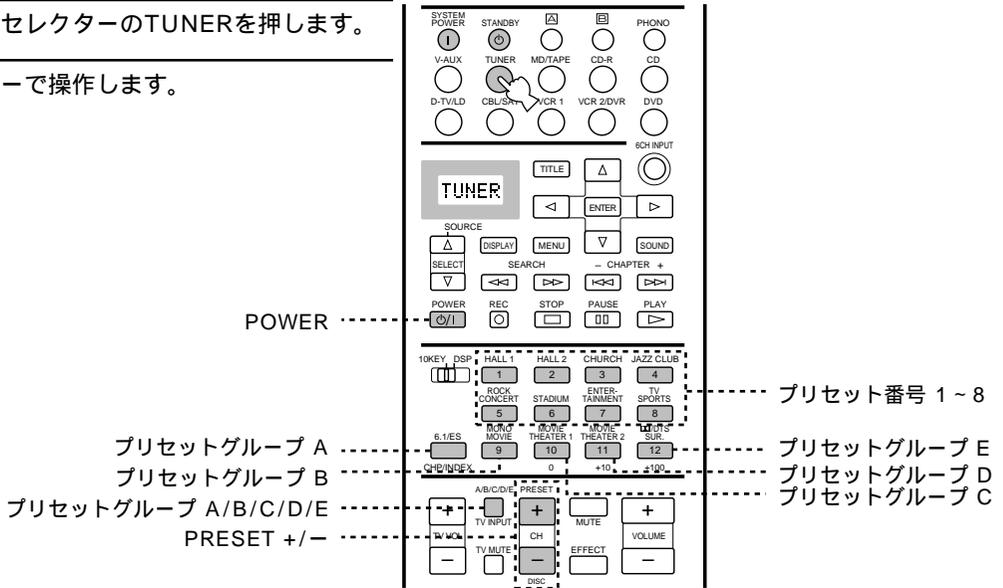
機種によっては操作できないもの、操作方法が異なるものまたは限られた機能しか操作できないものがあります。

A、TUNER、MD/TAPE、CD、CD-RおよびDVDキーにはヤマハのコードがプリセットされています。ヤマハ以外の機器を操作する場合はメーカーコードをセットアップしてください(P54参照)。

■ 本機のチューナーを操作する (TUNER面)

1 インプットセクターのTUNERを押します。

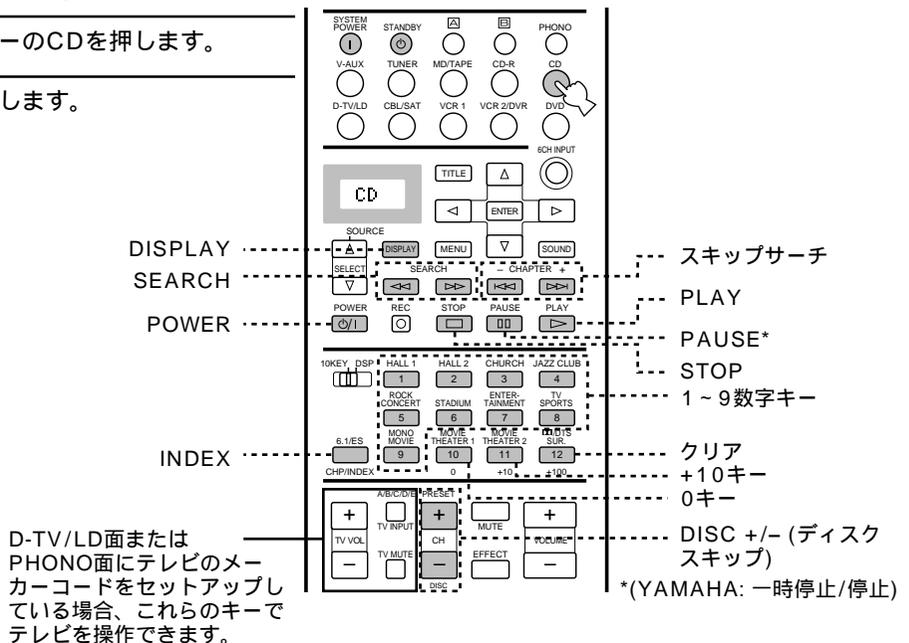
2 機器操作キーで操作します。



■ CDを操作する (CD面)

1 インプットセクターのCDを押します。

2 機器操作キーで操作します。



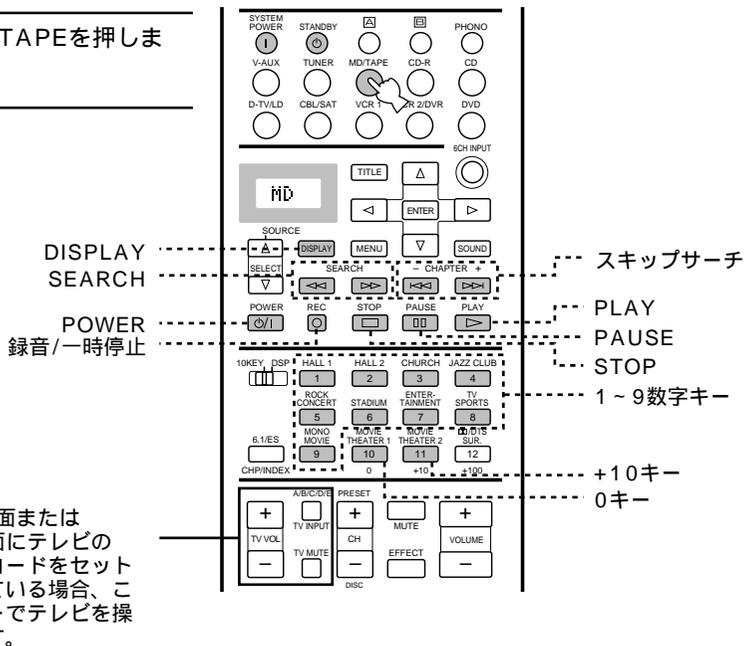
ご注意

D-TV/LD面とPHONO面の両方に、お使いのテレビのメーカーコードをセットアップしているときは、D-TV/LD面の信号が有効となります。

■ MDレコーダーを操作する (MD/TAPE面)

1 インットセレクターのMD/TAPEを押します。

2 機器操作キーで操作します。



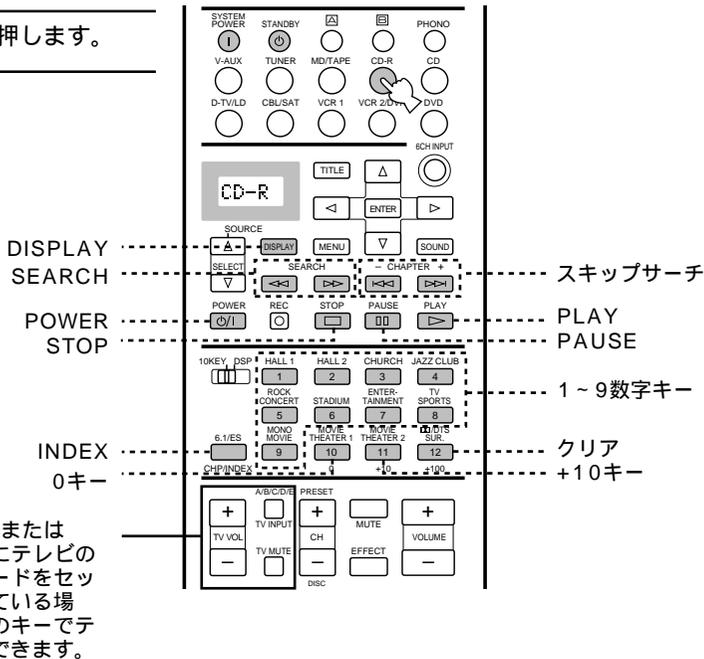
ご注意

D-TV/LD面とPHONO面の両方に、お使いのテレビのメーカーコードをセットアップしているときは、D-TV/LD面の信号が有効となります。

■ CDレコーダーを操作する (CD-R面)

1 インットセレクターのCD-Rを押します。

2 機器操作キーで操作します。

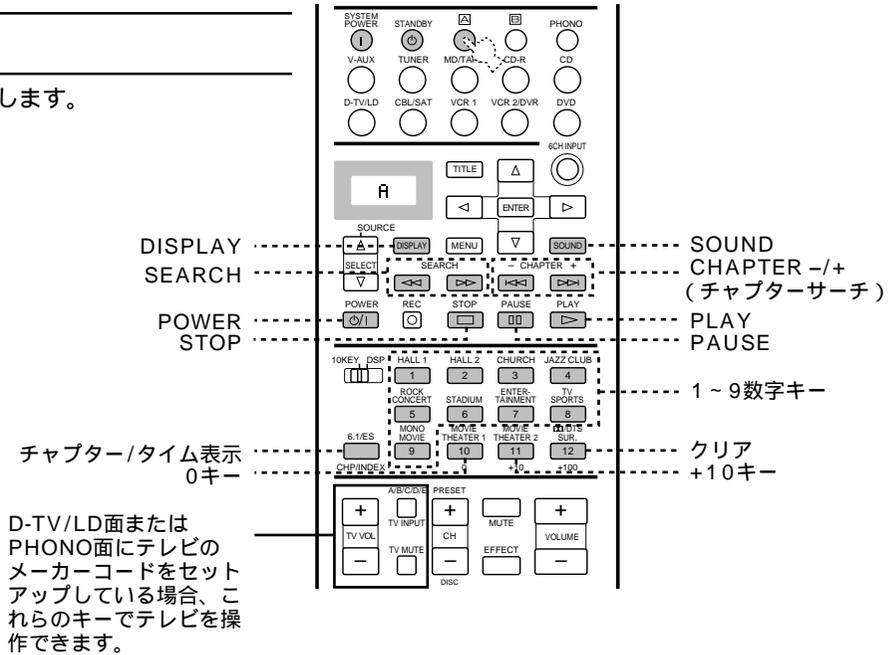


ご注意

D-TV/LD面とPHONO面の両方に、お使いのテレビのメーカーコードをセットアップしているときは、D-TV/LD面の信号が有効となります。

LDを操作する（A面）

- 1 Aキーを押します。
- 2 機器操作キーで操作します。

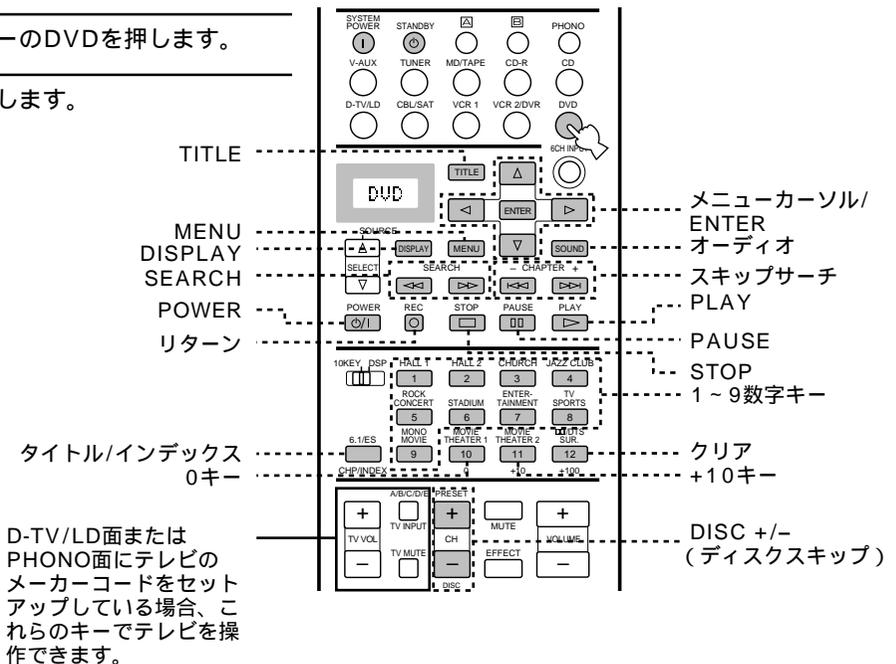


ご注意

Aキーはインプットセクターではありません。LDプレーヤーの操作面に切り換えるだけです。
D-TV/LD面とPHONO面の両方に、お使いのテレビのメーカーコードをセットアップしているときは、D-TV/LD面の信号が有効となります。

DVDを操作する（DVD面）

- 1 インプットセクターのDVDを押します。
- 2 機器操作キーで操作します。



ご注意

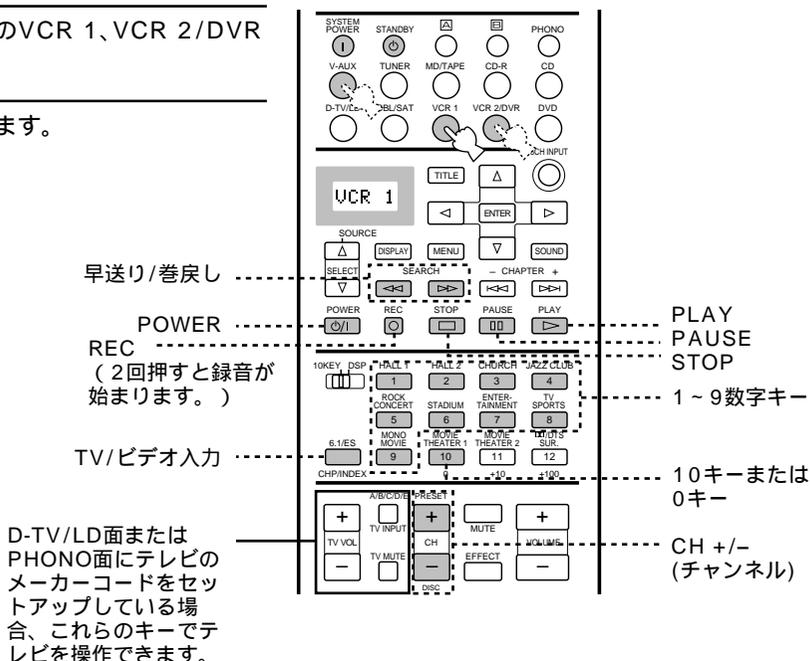
D-TV/LD面とPHONO面の両方に、お使いのテレビのメーカーコードをセットアップしているときは、D-TV/LD面の信号が有効となります。

■ ビデオデッキを操作する (VCR、VCR 2/DVRとV-AUX面)

VCR1、2/DVR、V-AUXにメーカーコード名をセットアップした後で操作できます。

1 インプットセレクターのVCR 1、VCR 2/DVRを押します。

2 機器操作キーで操作します。



ご注意

D-TV/LD面とPHONO面の両方に、お使いのテレビのメーカーコードをセットアップしているときは、D-TV/LD面の信号が有効となります。

■ テレビを操作する (D-TV/LDとPHONO面)

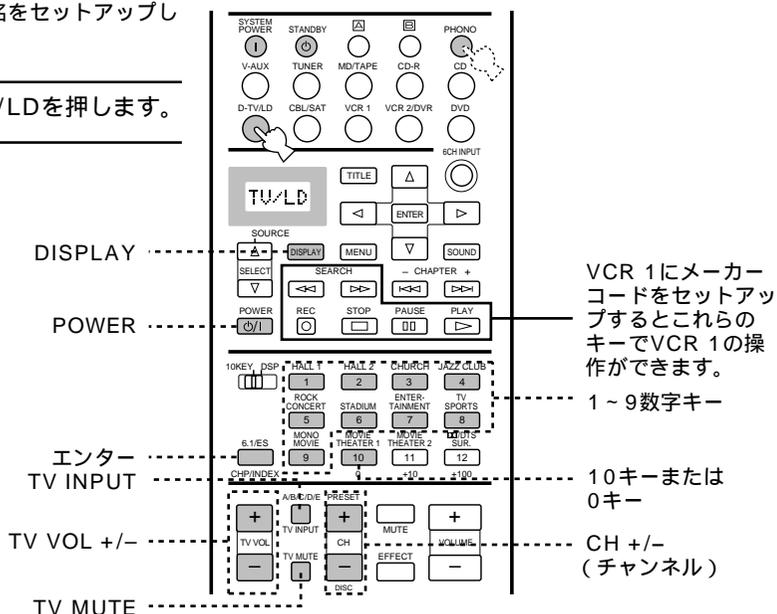
D-TV/LD、PHONOにメーカーコード名をセットアップした後で操作できます。

1 インプットセレクターのD-TV/LDを押します。

2 機器操作キーで操作します。

ご注意

D-TV/LD面でLDプレーヤーを操作する場合は、D-TV/LD面にLDプレーヤーのメーカーコードをセットアップし、PHONO面にテレビのメーカーコードをセットアップしてください。



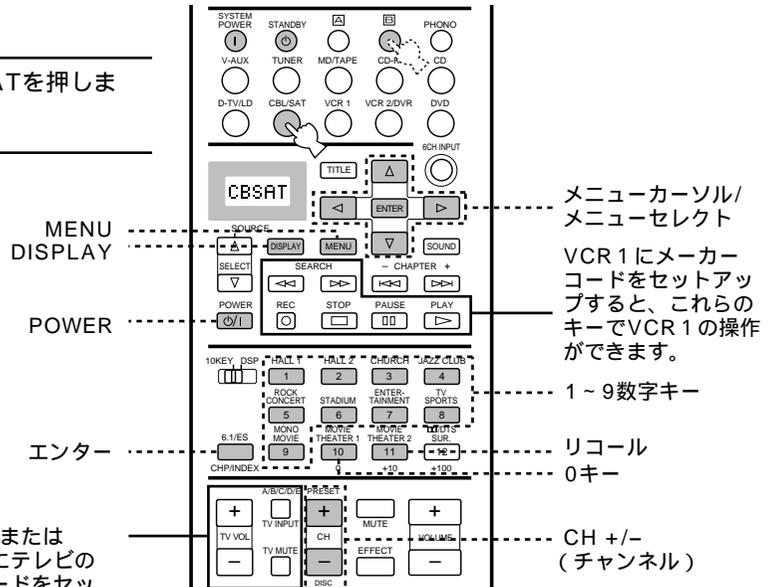
■ ケーブルTVチューナーなどを操作する (CBL/SATとB面)

CBL/SAT、Bにメーカーコード名をセットアップした後で操作できます。

1 インプットセクターのCBL/SATを押します。

2 機器操作キーで操作します。

D-TV/LD面またはPHONO面にテレビのメーカーコードをセットアップしている場合、これらのキーでテレビを操作できます。



ご注意

Bキーはインプットセクターではありません。衛星放送チューナーの操作面に切り換えるだけです。

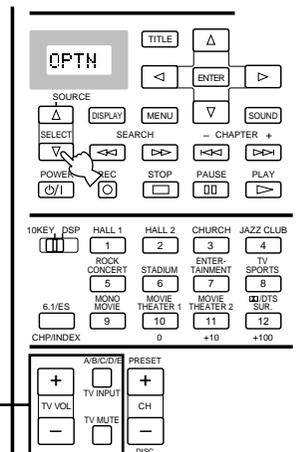
D-TV/LD面とPHONO面の両方に、お使いのテレビのメーカーコードをセットアップしているときは、D-TV/LD面の信号が有効となります。

■ OPTN (オプション) 面にプリセットした機器の操作

1 SOURCE SELECT ∇ キーでOPTNを選びます。

2 ラーニング (学習) した操作キーを押して機器を操作します。

D-TV/LD面またはPHONO面にテレビのメーカーコードをセットアップしている場合、これらのキーでテレビを操作できます。



ご注意

D-TV/LD面とPHONO面の両方に、お使いのテレビのメーカーコードをセットアップしているときは、D-TV/LD面の信号が有効となります。

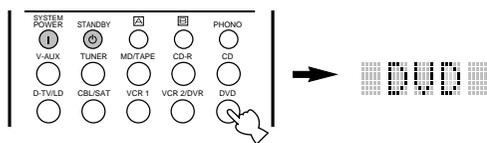
メーカーコードセットアップのしかた

各機器ごとにメーカーコードをセットアップすると、機器操作キーでそれらの機器を操作できます。OPTN面にはメーカーコードはセットアップできません。

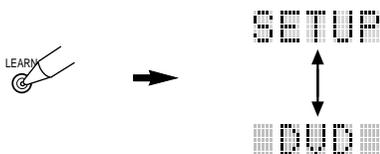
次のキーには出荷時にヤマハのコードがプリセットされています。A、TUNER、CD、MD/TAPE、CD-R、DVD。

次のキーにはあらかじめプリセットはされていません。お手持ちの機器のメーカーコードをセットアップしてください。B、PHONO、V-AUX、D-TV/LD、CBL/SAT、VCR 1、VCR 2/DVR。

- 1** インプットセクター、AまたはBキーでセットアップする機器を選びます。



- 2** LEARNボタンをボールペンなどの先の細いもので約3秒間押し続けます。表示窓に「SETUP」と機器名が交互に表示されます。

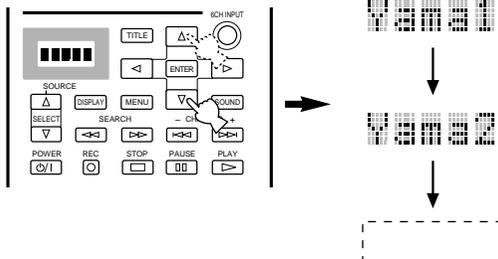


ご注意

LEARNボタンは3秒以上押し続けてください。短く押し離すとラーニングモードに入ってしまいます。手順3の操作中、約30秒間何もキーを押さないと自動的にセットアップモードは解除されます。その場合はもう一度LEARNボタンを押します。

- 3** △もしくは▽キーを押してメーカーコード名を選びます。

アルファベット順にメーカー名が表示窓に表示されます。



- 4** POWERキー(もしくはPLAYキーなどのメイン操作のキー)を押して、お手持ちの機器が正しく動作することを確認してください。

正しく動作しないときは、同じメーカーの別なコードを選びなおしてください。



現在のセットアップを完了して、他の機器のセットアップを続けて行う場合は、ENTERキーを押し、手順1、3と4を行ってください。

- 5** セットアップを終えるときは、LEARNボタンを押します。



ご注意

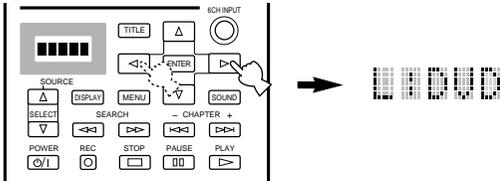
既に、各操作キーにラーニング(学習)またはマクロが設定されている場合は、セットアップ機能よりラーニングまたはマクロ機能が優先されます。次の場合には表示窓に「ERROR」が表示されます。

- カーソルキーまたはENTERキー以外のキーを押した場合
- 同時にいくつかのキーを押した場合
- MACRO ON/OFFスイッチ、10KEY/DSPスイッチ、PARAMETER/SET MENUスイッチを切り換えた場合

■ 機器の種類 (ライブラリー) を変更したいとき

1 “メーカーコードセットアップのしかた”の手順1、2を操作します。

2 ◁ または ▷ キーを押して種類 (ライブラリー) を選びます。



13のライブラリーが切り換わります。

L:TV、L:CAB (CABLE)、L:DBS、L:SAT、L:VCR、
L:DVD、L:LD、L:CD、L:CDR、L:MD、L:TAP (TAPE)、
L:TUN (TUNER)、L:AMP

3 “メーカーコードセットアップのしかた”の手順3、4を操作します。

アンプライブラリーについて

アンプのライブラリーには次の4種類があります。

YPC: 本機のコード

Zone2: Zone 2機能を持つヤマハDSPアンプ

DSP: YPC(本機のコード)で操作できない、他のヤマハDSPアンプ

No: コード無し(ヤマハ以外のアンプを本リモコンでお使いになりたいときこの設定をします。)

ラーニングのしかた

メ - カ - コ - ド名をセットアップしたが、メーカーコードでは操作できない機能がある場合、またメーカーコードが使用できない場合はラーニングで補うことをお勧めします。ラーニングできるエリアは操作エリアと同じです。各操作面ごとにラーニングが可能です。

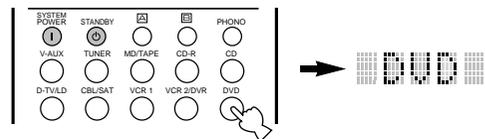
ご注意

本リモコンは赤外線方式を使用しています。外部機器のリモコンが同じ赤外線方式であれば、ほとんどのリモコン信号をラーニングできます。ただし、特殊な信号や非常に長い信号の場合、ラーニングできないことがあります(外部機器の取扱説明書を参照してください)。

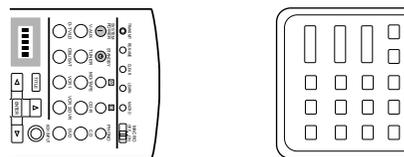
1 10KEY/DSPスイッチを10KEYの位置にします。



2 インプットセクター、AまたはBキーでラーニングする機器を選びます。

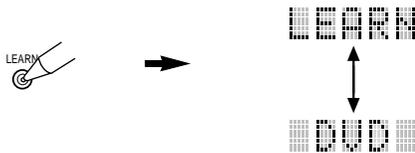


3 本リモコンの送受信部と、外部機器リモコンの送信部を5cm ~ 10cm間隔で向かい合わせます。



(5cm ~ 10cm)

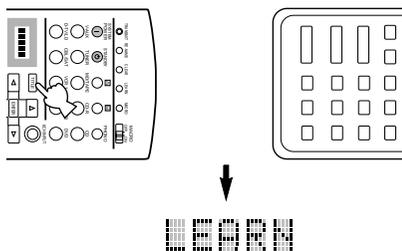
- 4** LEARNボタンをボールペンなど先の細いもので押し、すぐに離します。
表示窓に“LEARN”と機器名が交互に表示され、ラーニングモードを示します。



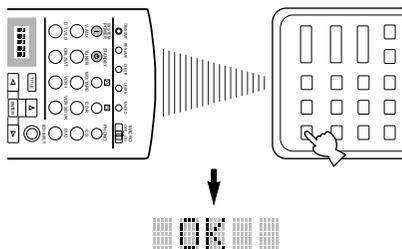
ご注意

手順5と6の操作中、30秒間何もキーを押さないと自動的にラーニングモードは解除されます。その場合はもう一度LEARNボタンを押します。

- 5** 本リモコンのラーニングするキーを押します。
“LEARN”が表示されます。



- 6** 他の機器のリモコンのラーニングさせたいキーを“OK”が表示されるまで押します。



ご注意

ラーニングに失敗すると“NG”が表示されます。手順5からもう一度操作してください。
メモリー容量がいっぱいになっている場合は、リモコンの表示窓に“FULL”が表示され、それ以上のラーニングはできません。新しいラーニングをするときは、ラーニング済みのキーから不要なものを消去してください。

- 7** 他のキーをラーニングさせる場合は、手順5～6の操作を繰り返します。

- 8** ラーニングを終えるときは、LEARNボタンを押します。



ご注意

10KEY/DSPスイッチをDSPにすると、本機操作面にもラーニングすることができますが、本機の操作ができなくなり、音場プログラムの選択もできませんのでご注意ください。

リモコンの電池の消耗により、機器のリモートコントロールはできても、ラーニング(学習)の設定を行えるだけの赤外線が出ないことがあります。

2台のリモコンの向かい合う距離が近すぎたり遠すぎると、正常にラーニング(学習)できません。

直射日光を当てると赤外線に悪い影響を与えます。次の場合には表示窓に“ERROR”が表示されます。

一同時にいくつかのキーを押した場合

一MACRO ON/OFFスイッチ、10KEY/DSPスイッチ、PARAMETER/SET MENUスイッチを切り換えた場合

マクロ機能を使う

マクロ機能とは、ソースを再生するときに行う一連のキー操作を一つのキー操作でできるようにする機能です。例えばCDを再生する場合、通常、①システムの電源を入れる ②CDに入力切換 ③PLAYキー(再生開始)などの操作が必要です。マクロ機能を使うと、一連のキー操作の代わりにマクロキーのCDキーを押すだけで、CDを再生することができるようになります。下の表に示すように、本リモコンのマクロキー(すべてのインプットセレクターおよびA、BキーとSYSTEM POWERキーとSTANDBYキー)には、マクロ機能があらかじめプリセットされています。また、マクロキーにはオリジナルのマクロ操作を設定することもできます(P58参照)。

マクロキー	1 番目 →	2 番目 →	3 番目
PHONO 		入力切換 : 	—
V-AUX 		入力切換 : 	—
TUNER 		入力切換 :  *4	—
MD/TAPE 		入力切換 : 	 (MD/TAPE エリア) *3
CD-R 		入力切換 : 	 (CD-R エリア) *3
CD 		入力切換 : 	 (CD エリア) *3
D-TV/LD 	本体の電源が入る(接続した機器の電源が入る*1) 	入力切換 : 	—
CBL/SAT 		入力切換 : 	—
VCR 1 		入力切換 : 	 (VCR 1 エリア) *3
VCR 2/DVR 		入力切換 : 	 (VCR 2/DVR エリア) *3
DVD 		入力切換 : 	 (DVD エリア) *3
		—	—
		—	—
SYSTEM POWER 	本体の電源が入る(接続した機器の電源が入る*1) 	テレビの電源が入る*2 D-TV/LD面のPOWERキーにラーニングまたはセットアップしたテレビ電源入の信号が出る 	—
STANDBY 	本体の電源が切れる(接続した機器の電源が切れる) 	—	—

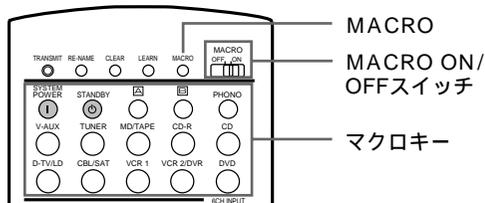
*1 接続した機器の電源を入れるためには、接続機器の電源プラグを本機のSWITCHED AC OUTLETSに接続し、電源のオン/オフを本機に同期させるようにします(機器によっては電源のオン/オフが本機に同期しないものもあります。接続する機器の取扱説明書をご覧ください)。

*2 キーを押すごとに電源のオン/オフが切り換わるテレビやビデオデッキの場合は、希望の操作にならないことがあります。例：すでに電源の入っているテレビでは、SYSTEM POWERキーを押すと電源が切れます。

*3 再生が始まるのは、ヤマハのリモコン対応MDレコーダー、CDプレーヤー、CDレコーダー、DVDプレーヤー、LDプレーヤーです。他の機器をマクロ操作する場合はその機器操作面のPLAYキーにラーニングするか(P55参照)またはメーカーコードのセットアップ(P54参照)が必要です。

*4 入力がTUNERになると本機のチューナーは電源を切る前に受信していた局を受信します。

■ マクロ機能で操作する



1 MACRO ON/OFFスイッチをONの位置にします。

2 希望のマクロキーを押します。

ご注意

マクロ操作が終わったら、MACRO ON/OFFスイッチをOFFの位置にします。
マクロ操作中は、すべてのマクロ信号の出力が終わるまで、(TRASMITインジケーターが消灯するまで)本機は他のキーの操作を受け付けません。
マクロ操作中は、すべてのマクロ信号の出力が終わるまで、本リモコンの送受信窓を本体および操作する機器のリモコン受光窓の方向に向け続けてください。

■ マクロ設定のしかた

オリジナルのマクロを設定することができます。

ご注意

新しいマクロを設定しても、出荷時にプリセットしてあるマクロ機能は消去されません。設定したマクロの内容を消去すると再度プリセットマクロを使うことができます。
出荷時にプリセットしてあるマクロに新しい信号を追加することはできません。マクロ設定をすると、すべて新しい内容に変わります。
マクロ設定は、本リモコンのラーニングやセットアップ済み(またはヤマハプリセット)のキー信号をマクロキーに設定(転送)させて行います。必要に応じてあらかじめ他の機器のキーをラーニングまたはセットアップしておいてください。
音量の操作など、連続的に操作するキー信号は、本リモコンは短時間のコードとしてラーニングします。したがって、そのようなキーのマクロ設定はおすすめしません。

1 MACROボタンをボールペンなど先の細いもので押します

“MCR?”が表示され、マクロ設定モードを示します。

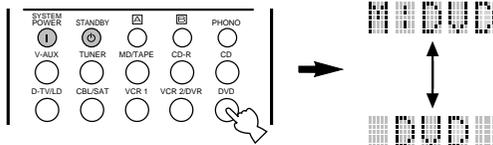


ご注意

手順2と3の操作中、30秒間何もキーを押さないと自動的にマクロ設定モードは解除されます。その場合は、もう一度MACROボタンを押します。

2 設定するマクロキーを押します。

マクロ設定するキー(M:DVD)と今選んでいる機器名(DVD)が交互に表示されます。



ご注意

マクロキー以外のキーを押すと、“AGAIN”が表示されます。

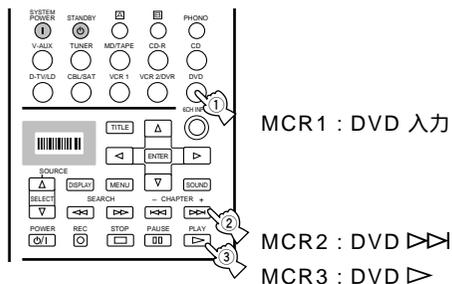


機器を変更するにはインプットセクターまたはSOURCE SELECT△/▽キーで機器を選び直します。インプットセクターで機器を選ぶと、本機の入力切換えが一連のマクロ設定に組み込まれます。さらに機器操作キーも入力機器に応じて切り換わります。SOURCE SELECT△/▽キーで機器を選ぶと入力は変わらず、機器操作キーは変更した機器に応じて切り換わります。

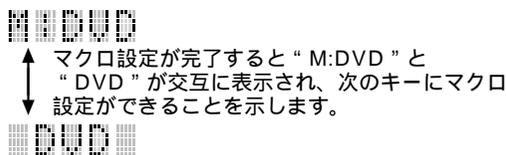
3 マクロ設定したいキーを押します。



最大10種類のキー信号を設定することができます。10個目のキー信号を設定すると“FULL”が表示され、自動的にマクロ設定モードは解除されます。



マクロ操作手順番号を示しています。



ご注意

マクロ設定に失敗すると“NG”が表示されます。手順2からもう一度操作してください。

- 4** マクロ設定を終えるときは、MACROボタンを押します。



ご注意

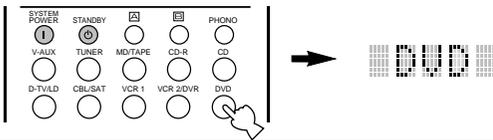
- 次の場合には表示窓に「ERROR」が表示されます。
- 同時にいくつかのキーを押した場合
- MACRO ON/OFFスイッチを切り換えた場合

ラーニングやセットアップのメモリーバックアップについて

ラーニングやセットアップした内容は、乾電池の交換時など、電池が外された時間が3分以内の場合はメモリーされます。ただし、消耗した乾電池を使用したり、長時間乾電池が外されていたときは消えます。そのようなときは、もう一度ラーニングやセットアップをやり直してください。

リモコンに表示される機器名を変更する

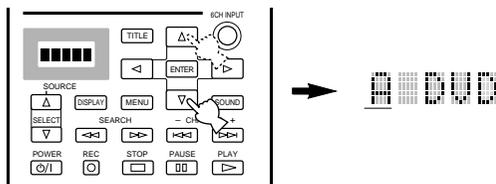
- 1** インプットセクター、AまたはBキーで名前を変更する機器を選びます。
選択した機器名が表示されます。



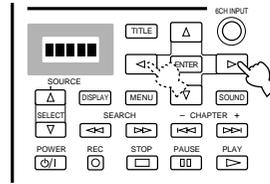
- 2** RE-NAMEボタンをボールペンなど先の細いもので押します。



- 3** △または▽キーを押して、文字を選びます。
▽キーを押すと次の順序で文字が選べます(△キーを押すと逆の順序で文字が選べます)。A~Z、a~z、0~9、スペース、(ハイフン)。



- 4** ◀または▶キーを押して、次の文字にカーソルを移動します。



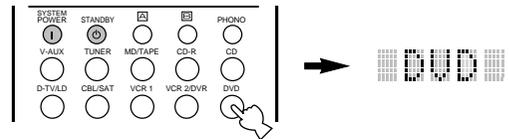
引き続き他の機器の名前を変更するときは、ENTERキーを押し、手順1、3と4を操作します。

- 5** 名前の変更を終えるときは、RE-NAMEボタンを押します。

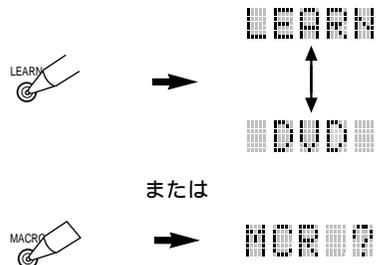


学習内容とマクロの消去

- 1** ラーニングの内容を消去するときは、インプットセクター、AまたはBキーで機器を選びます。
選択した機器名が表示されます。



- 2** ラーニングの内容を消去するときは、ボールペンなど先の細いものでLEARNボタンを押し、すぐに離します。マクロの内容を消去するときは、MACROボタンを押します。

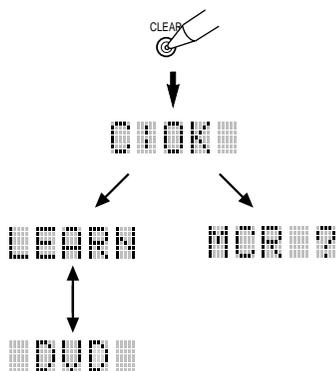


ご注意

手順3の操作中、30秒間何もキーを押さないと自動的に消去モードは解除されます。その場合は、もう一度LEARNまたはMACROボタンを押します。

3 CLEARボタンをボールペンなど先の細いもので押しながら、消去したいキーを約3秒間押し続けます。

“ CLEAR ”表示が“ C:OK ”表示に変わると消去は完了です。



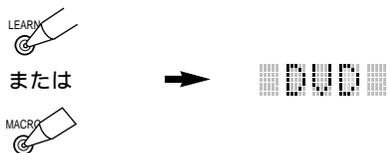
消去したいキーが複数あるときは、CLEARボタンを再度押し続けながら、消去したいキーを押します。

ご注意

消去に失敗すると“ C:NG ”が表示されます。もう一度 CLEARボタンを押しながら、消去したいキーを押してください。

4 消去を終えるときはLEARNボタン(ラーニング消去のとき)またはMACROボタン(マクロ消去のとき)を押します。

ラーニングまたはマクロを消去すると、セットアップされていた各キーは初期設定されていた機能にもどります。



すべてのキーを消去するには

1 CLEARボタンをボールペンなど先の細いもので押します。

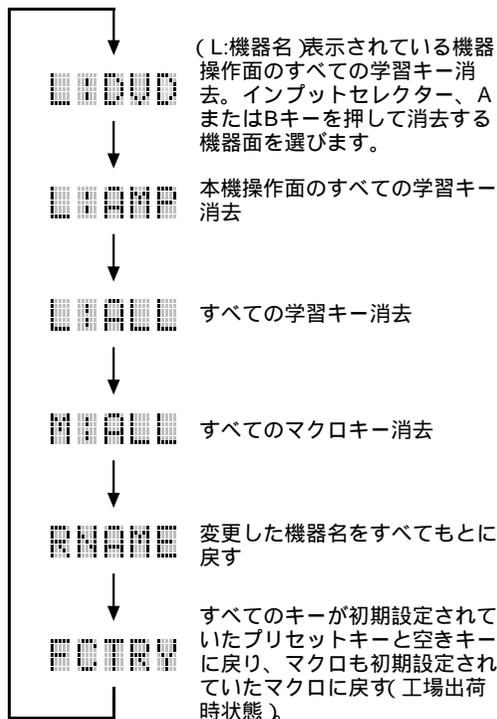


ご注意

手順2と3の操作中、30秒間何もキーを押さないと自動的に消去モードは解除されます。その場合は、もう一度 CLEARボタンを押します。

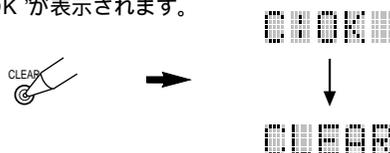
2 △ または ▽ キーを押して、消去モードを選びます。

次のようにモードが切り換わります。



3 CLEARキーを約3秒間押し続けます。

“ C:OK ”が表示されます。



ご注意

消去に失敗すると“ C:NG ”が表示されます。手順2からもう一度操作してください。

4 消去を終えるときはCLEARボタンを押します。ラーニングまたはマクロを消去すると、セットアップされていた各キーは初期設定されていた機能にもどります。



ご注意

次の場合には表示窓に“ ERROR ”が表示されます。
 -カーソルキーまたはENTERキー以外のキーを押した場合
 -同時にいくつかのキーを押した場合
 -MACRO ON/OFFスイッチ、10KEY/DSPスイッチ、PARAMETER/SET MENUスイッチを切りかえた場合

音場プログラム

本機には、高性能マルチプログラム・デジタル音場プロセッサ（DSP）が搭載されています。このプロセッサにより、劇場のような音場をリスニングルームで再現することができます。お聴きになるソースに合わせて音場プログラムを選択し、適切な調整を行うことにより、優れたオーディオサウンドを再生することができます。

下記のリストは、各音場プログラムによって再現される音場に関する説明です。そのほとんどが、実際の音響環境の正確な実測データをもとにしたデジタル再生です。

ご注意

下記の名称や説明にこだわらず、最も心地よく聞こえる音場プログラムをお選びください。

Hi-Fi DSPプログラム

■ オーディオソース：No.1～No.7

No.	プログラム（グループ）	サブプログラム	特長
1	CONCERT HALL 1	-	ヨーロッパに多くみられる内装材にシックな木の内張りが使われた、2500席程度のコンサートホールです。繊細な美しい響きが豊かに拡がり、落ち着いた雰囲気を持っています。座席の位置は、1階の中央左寄りです。
2	CONCERT HALL 2	-	円形ホールをイメージさせる広大な音場で、全周囲に反射音が拡がり、サラウンド感が強く、豊かな響きが特長です。
3	CHURCH	-	120m近い尖塔を持つ大きな教会です。石を積み上げて造られており、天井が高く、細長い空間を持っています。残響時間は非常に長くなりますが、逆に初期反射は少なくなります。そのため、直接音の厚みは余りありませんが、響きが多く、教会特有の音場を再現します。
4	JAZZ CLUB	-	ニューヨークで話題のライブハウス“ザ・ボトムライン”のステージ正面の音場です。フロアは300席ある左右に幅広い客席で占められ、リアルでライブな音場です。
5	ROCK CONCERT	-	ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、客席は最高時で約460程です。客席中央左寄りの音場です。
6	STADIUM	-	長い遅延時間を再現し、少なくとも直径300mあるロサンゼルス郊外の野外スタジアムにいるような非常に広々とした臨場感が特長です。
7	ENTERTAINMENT	Disco	ディスコミュージックに包まれる乗りの良い音場空間を演出するプログラムです。
		6ch Stereo	後方からも直接音が聴け、広いエリアで楽しめる効果が特徴のホームパーティーを演出する音場プログラムです。

ご注意

メインスピーカーL、Rからは入力されたままのステレオ音声が出力されます。センタースピーカーからは音が出ません。（ドルビーデジタルまたはDTS入力時にこれらのプログラムを選択した場合は出力されます。また、6ch Stereo選択時には入力ソースに関わらず設定した全てのスピーカーから出力されます。）

CINEMA DSPプログラム

■ ビデオ・ソースの場合：No. 7～No. 9

No.	プログラム(グループ)	サブプログラム	特長
7	ENTERTAINMENT	Game	モノラル、ステレオを問わず、ゲームサウンドにビビッドな奥行きとサラウンド感を与え、迫力と臨場感のあるゲームが楽しめます。
8	TV SPORTS	-	プレゼンス音場は狭めてあるが、サラウンド音場にはコンサートホールのデータを使用しており、様々なバラエティーや中継番組に、適用範囲の広い音場効果を再現。スポーツ中継のステレオ放送では、解説者は中央に定位し、歓声や場内の雰囲気は周囲へと広がります。後方回り込みは適度に抑えてあるので、長時間使用しても違和感がありません。6.1/ESデコーダー動作時は、リアセンター音源とリアセンター音場が加わります。
9	MONO MOVIE	-	古いモノラル名作映画専用のポジションです。オペラハウス系のプレゼンス音場と適度な残響処理により、往年の名作映画のモノラル音声の臨場感を持って再生されます。6.1/ESデコーダー動作時は、リアセンター成分が再生されず。

■ 映画の場合：No. 10～No. 12

No.	プログラム(グループ)	サブプログラム		入力ソース	特長
10	MOVIE THEATER 1	Spectacle	70 mm Spectacle	アナログ、PCM、ドルビーデジタル(2チャンネル)	70mm映画の大画面シアターそのものの超ワイドな空間に映画の空気そのまま存在するようなスペクタクルな音場です。微妙な音の響きまでも再現する表現力をもち、映像と空間に今までにないリアリティを生みだします。70mm映画初期の作品から最新のドルビーソフトおよびDTSソフトまで、幅広くスペクタクルな世界が楽しめます。
			DGTL Spectacle *1	ドルビーデジタル	
			Spectacle 6.1 *2		
			DTS Spectacle *1	DTS	
			Spectacle ES *2		
		Sci-Fi	70 mm Sci-Fi	アナログ、PCM、ドルビーデジタル(2チャンネル)	最新のSFX映画のサウンドデザインをセリフと音楽効果音にクールに描き分け、静けさの中に広大なシネマ空間を演出します。高度なテクニクを駆使したドルビーステレオ、ドルビーデジタル、DTSソフトまで、Science Fictionの世界を仮想空間音場で楽しめます。
			DGTL Sci-Fi *1	ドルビーデジタル	
			Sci-Fi 6.1 *2		
			DTS Sci-Fi *1	DTS	
			Sci-Fi ES *2		

No.	プログラム (グループ)	サブプログラム		入力ソース	特長	
11	MOVIE THEATER 2	Adventure	70 mm Adventure	アナログ、 PCM、ドルビー デジタル (2チャ ンネル)	最新の映画サウンドデザインを最高に再現する プログラムです。70mm / ドルビーデジタルお よびDTSマルチトラックにデザインされた演出 を忠実に再現すると共に音場プログラム自体の 響きをできるだけ抑え、響きをデットにした最 新の映画館とコンセプトを同じにしています。 プレゼンス音場に、オペラハウス音場データを 使用。会話の定位、立体感に優れています。サ ラウンド音場にはコンサートホールのデータを 使用、力強い響きと共にアクション、アドベン チャーなどのデザインされたサウンドを明確に 再現し、痛快的臨場感をもたらします。	
			DGTL Adventure *1	ドルビーデジタル		
			Adventure 6.1 *2			
			DTS Adventure *1	DTS		
			Adventure ES *2			
		General	70 mm General	アナログ、 PCM、ドルビー デジタル (2チャ ンネル)		70mm / ドルビーデジタルおよびDTSマルチ トラックのサウンドを再現するプログラムで、全 体に柔らかい拡がり感のある響きが特長です。 プレゼンス音場はやや狭い印象で、セリフの響 きを抑え明瞭度を損なわずにスクリーン周囲と スクリーンの奥に立体的に再現されます。サラ ウンド音場は後方の広い空間に音楽やコーラス 等のハーモニーが美しく響く印象です。
			DGTL General *1	ドルビーデジタル		
			General 6.1 *2			
			DTS General *1	DTS		
			General ES *2			

No.	プログラム (グループ)	サブプログラム		入力ソース	特長	
12	Dolby/DTS SURROUND	Normal/ Matrix 6.1/ES	PRO LOGIC/Normal	アナログ、 PCM、ドルビー デジタル (2チャ ンネル)	ドルビーサラウンド プロロジック / ドルビーデ ジタルデコーダーまたはDTSデコーダーで正確 に処理されたムービーサウンドをストレートに 再生します。セパレーション特性に優れ、ス ムーズで正確な音源の移動や定位が得られま す。6.1/ESデコーダー動作時はリアセンター 成分が再生されます。このプログラムでは、デ ジタル音場プロセッサは作動しません。	
			DOLBY DIGITAL/ Normal *1			ドルビーデジタル
			DOLBY DIGITAL/ Matrix 6.1 *2			
			DTS DIGITAL SUR./ Normal *1	DTS		
			DTS DIGITAL SUR./ ES *2			
		Enhanced	PRO LOGIC/Enhanced	アナログ、 PCM、ドルビー デジタル (2チャ ンネル)		ドルビーサラウンドまたはDTSサラウンドのオ リジナル定位を乱すことなく、正確なデコード 動作とDSP処理を行います。35mm映画館のマ ルチサウンドスピーカーを、より理想的なもの へシミュレーションした音場です。サラウンド 音場は、視聴者を左右後方から美しい響きで包 み込みます。そのため、音の移動は後方から左 右、スクリーンに自然につながり、映画制作側 の意図する効果を再現します。6.1/ESデコー ダー動作時はリアセンター音源とリアセンター 音場が加わります。
			DOLBY DIGITAL/ Enhanced *1			
			DOLBY DIGITAL/ Enhanced 6.1 *2			
			DTS DIGITAL SUR./ Enhanced *1	DTS		
			DTS DIGITAL SUR./ Enhanced ES *2			

*1 ドルビーデジタルマトリックス6.1またはDTS ESデコーダーがオフの時。

*2 ドルビーデジタルマトリックス6.1またはDTS ESデコーダーがオンの時。“**6.1/ES**”インジケータが本体ディスプレイに点灯します。



入力モードがAUTOに設定されている場合、ドルビーデジタル信号またはDTS信号が入力されると、音場プログラムは自動的にドルビーデジタル再生用音場またはDTS再生用音場に切り換わります。

セットメニューの「12 6.1/ES AUTO」がONに設定されている場合、ドルビーデジタルサラウンドEXまたはDTS ES自動認識対応のソフトを再生すると、ドルビーデジタルマトリックス6.1またはDTS ESデコーダーが自動的にオンになり、対応する音場プログラムに切り換わります。

ドルビーデジタル5.1チャンネルソースまたはDTS 5.1チャンネルソースの再生時に、リモコンの6.1/ESキーでドルビーデジタルマトリックス6.1またはDTS ESデコーダーをONまたはOFFできます。

ご注意

Dolby/DTS SURROUNDのサブプログラム“Normal”を選択している場合は、“**DSP**”インジケータは点灯しません。

セットメニューの「1A CENTER SP」をNONEに設定すると、センタースピーカーから音が出ません。

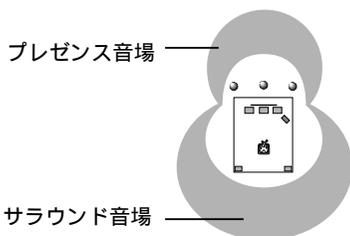
モノラルソースをCINEMA DSPプログラム7 (Game)と8から11で再生した場合、メインスピーカーから効果音がでます。

MOVIE THEATERプログラム

通常手にする映画のパッケージソフトは、ドルビーサラウンドのマトリックス技術によって4チャンネル(L/C/R/S)の音声情報がエンコード処理され、L、Rに収められています。それをデコード(復元)するのがドルビープロロジックデコーダーです。MOVIE THEATERプログラムは、エンコード・デコード処理によって失われがちな拡がり感や微妙な音のニュアンスまでも再現しようというものです。

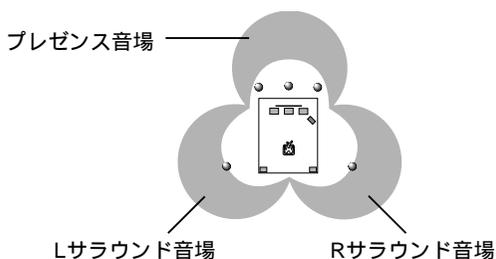
マトリックス処理を行わない70mmフィルム6チャンネルマルチトラックで得られるような明瞭な音源の定位と豊かな拡がり感、ダビングステージのクオリティと理想的な音場で楽しめるのがMOVIE THEATER70mmプログラムです。また、最新の映画館用デジタルサラウンドシステムであるドルビーデジタルやDTS(デジタルシアターシステムズ)のサウンドをそのまま家庭でも楽しめるように開発されたのがドルビーデジタルデコーダーおよびDTSデコーダーです。本機のMOVIE THEATERプログラムでは、映画館用にデザインされたドルビーデジタルやDTSサウンドを家庭用のスピーカーシステムで、家庭のスペースで再生しても、臨場感あふれるスケールの大きな音場をお楽しみいただけます。

■ ムービーシアター70mmプログラム



雄大な音場空間を表現でき、サラウンド音に広がりを持たせることで包囲感が表現できます。また、フロントにも奥行きが出て、ドルビーステレオ映画館のような臨場感が再現できます。

■ ムービーシアター・ドルビーデジタルおよびDTSプログラム



ドルビーデジタルおよびDTSのフロント、Lサラウンド、Rサラウンド信号に独立したヤマハ3音場DSP処理を施します。これにより、チャンネルセパレーションの良さなどを犠牲にすることなく、雄大な音場表現や包囲感の優れたサラウンド再生が可能になり、最新のデジタルサラウンド映画館のような臨場感が再現できます。

■ ムービーシアター・ドルビーデジタルマトリックス6.1/DTS ES

DSP音場効果に加え、リアセンターチャンネルを設けることにより、さらにサラウンド効果が向上します。

音場プログラムパラメーターを変更する

音場とは

生の楽器の豊かで優美な音色を実際に作り出すのは、室内の壁から発せられる数多くの反射音です。こうした反射音は音を“生き生き”とさせるだけでなく、演奏者のいるステージや、観客席を含めた演奏会場そのものの規模や形状をも伝えてくれます。

■ 音場の構成要素

音場を構成する要素として、楽器がかなでる音が直接伝わってくる直接音と、周囲の物体に反射してくる2種類の反射音があります。

初期反射音

1つの表面のみに(例えば、天井や壁に)反射してから、極めて急速(直接音が発生してから50msから100ms後)にリスナーの耳に到達する反射音です。これらの反射音は特定の環境の場合に68ページの図に示す固有のパターンに分類されます。初期反射音によって直接音に明瞭さが付加されます。

後部残響音

2つ以上の表面(例えば、壁、天井、部屋の後部)で何度も反射を繰り返しながら、多数の反響音がひとまとめになって連続した音響の“余韻”が残ります。これらの反射音は方向性がなく、直接音の鮮明さを劣化させます。

直接音、初期反射音、後部残響音がひとつになることで、リスナーは演奏会場や劇場をイメージすることができるのです。デジタル音場プロセッサーはこの反射音、残響音を再現して、音場を作り出します。

リスニングルームで適切な反射音や後部残響音を再現できれば、独自のリスニング音場を作り出すことができるわけです。リスニングルームをコンサートホール、ダンスフロア、大聖堂などさまざまな演奏会場や劇場の音響効果に変えることができます。意のままに音場を再現する能力こそ、デジタル音場プロセッサーを通じてヤマハがこれまでに実践してきたことです。

音場プログラムパラメーター

音場プログラムは、演奏会場や劇場の規模、残響時間、リスナーから演奏者までの距離などを判断するためのパラメーターで構成されています。各プログラムは、プログラム固有の音場を作り出すためにヤマハによって正確に計算された数値を用いてこれらのパラメーターが設定されます。パラメーターの数値を変更せずに音場プログラムを使用することをお勧めしますが、本機を使用すれば独自の音場を作り出すこともできます。まずは内蔵プログラムの1つを手始めに、これらのパラメーターを調整してみるとよいでしょう。

各音場プログラムに設定されているパラメーターセットを元にして、お望みの効果を正確に作り出すために音響環境の特性を変更することができます。これらのパラメーターは、実際のコンサートホールをはじめとした演奏会場における音場を再現する数多くの自然音響ファクターに対応しています。例えば、リスニングルームの大きさは初期反射音間の時間の長さに影響します。音場プログラムの多くに設定されている“ROOM SIZE(ルームサイズ)”パラメーターはこれらの反射音間のタイミングを変更し、結果的にリスニングする“ルーム”の形状を変えています。ルームサイズのほかに、リスニングルームの形状や表面の特性も最終的な音に重大な影響を与えます。例えば、音を吸収する表面は反射音や残響音をより速く減衰させます。また、反射性の高い表面は反射音がより長時間持続されます。このようにデジタル音場パラメーターに関するこれらのファクターを調整できますから、リスナーの気分や好みの音楽にぴったり合った自分だけのリスニング環境を再現するために“デザインしなおす”ことができます。

68から71ページの“デジタル音場パラメーターガイド”を参照してください。

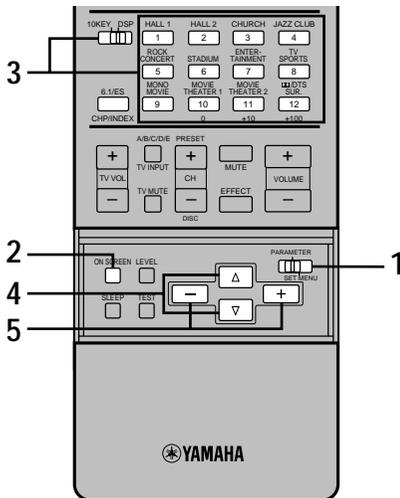
パラメーター値を変える

音場プログラムのパラメーターは、初期設定値のままで十分お楽しみいただけます。基本的に設定を変更する必要はありませんが、音場プログラムの一部のパラメーターは、プリセット値を変更することができ、ソースや部屋の音響に合わせて音場プログラムをアレンジして楽しめます。

リモコンで操作します。



パラメーター値は、モニター画面を見ながら変更することをお勧めします。本体ディスプレイよりもモニター画面のほうが容易に変更できます。



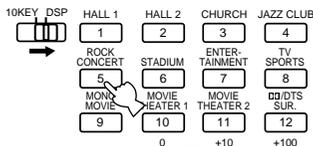
- 1** PARAMETER/SET MENUスイッチをPARAMETERの位置にします。



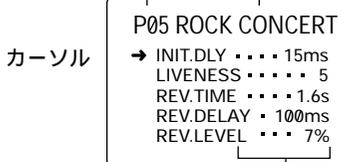
- 2** モニターの電源を入れ、ON SCREENキーを押してフル表示を選択します。



- 3** 音場プログラムを選択します。

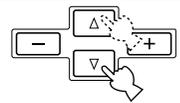


プログラムナンバー プログラム名(グループ)

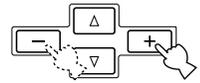


パラメーター
例：ROCK CONCERT

- 4** カーソルキーの▽または△を押して、パラメーターを選択します。



- 5** カーソルキーの-または+を押して、パラメーターの設定値を変更します。



初期設定値以外に変更すると、パラメーター名の前にアスタリスク(＊)が表示されます。

- 6** 必要に応じて、3～5の手順を繰り返し、他のプログラムのパラメーターを変更します。

メモリーバックアップについて

本機の電源を切っても、パラメーターの設定内容はメモリー(記憶)されています。約1週間は電源コードをコンセントから外しても、メモリー内容はそのまま記憶されています。ただし1週間を過ぎると、パラメーターが初期設定に戻り、メモリー内容が消去されることがあります。このような場合は再度、設定を行ってください。

パラメーターを初期設定値に戻すには

- **パラメーターの一部を初期設定値に戻すには**

パラメーターを選択します。初期設定値で一旦表示が止まるまで、カーソルキーの+または-を押し続けます。モニター画面から、パラメーター名の前のアスタリスク(＊)が消えます。

- **音場プログラム内のパラメーターをすべて初期設定値に戻すには**

セットメニュー「9 PARAM. INI」を使用して、各音場プログラムごとにパラメーターをすべて初期設定値に戻せます(P42参照)。音場プログラムグループ内すべてのパラメーターが初期化されます。

ご注意

プログラムによっては、有効なパラメーターが数ページのOSD画面に表示される場合があります。カーソルキーの△または▽を押してページをスクロールしてください。

セットメニュー「15 MEMORY GUARD」がONに設定されている場合は、パラメーターを変更できません。パラメーターを変更する場合は、OFFに設定してください(P44参照)。

デジタル音場パラメーターガイド

デジタル音場パラメーターを調整してリスニングルームの音場をアレンジして楽しめます。

ご注意

以下のパラメーターはすべてのプログラムに設定できるわけではありません。

■ INIT.DLY (initial delay) (P.INIT.DLY : プレゼンス音場用)

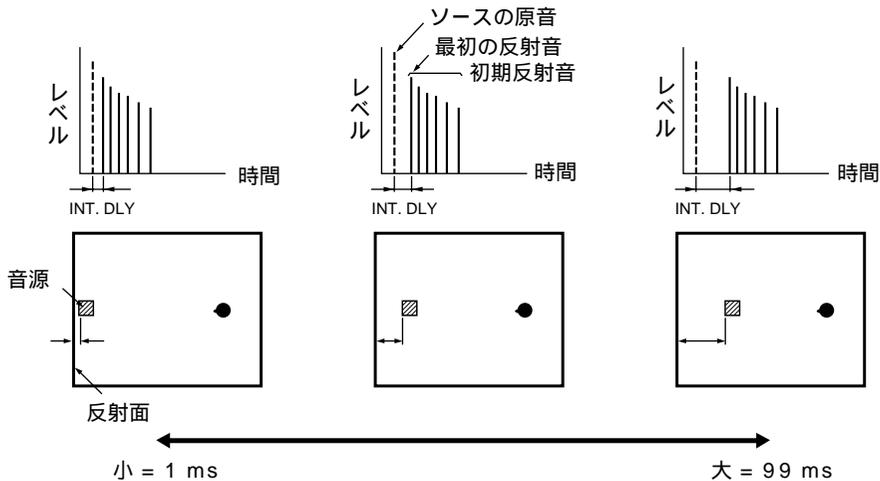
機能: 音源と壁面との距離感を調節。

可変範囲: 1ms ~ 99ms

解説: 直接音から初期反射音が始まるまでの時間(遅延時間)をコントロールするパラメーターです。

初期反射音の遅れは、音源と反射面との距離によって決まります。つまり、遅延時間を短くすると、音源が壁面に近づいた感じになり、逆に遅延時間を長くすると、音源は壁面から離れた感じになります。INIT.DLYを調節することにより、ソースの音源から周りの壁までの距離感、空間の大きさ感、音像のできた等がコントロールできます。

遅延時間を長くした場合、組み合わせによっては違和感のある音になることがあります。



■ ROOM SIZE (P.ROOM SIZE : プレゼンス音場用)

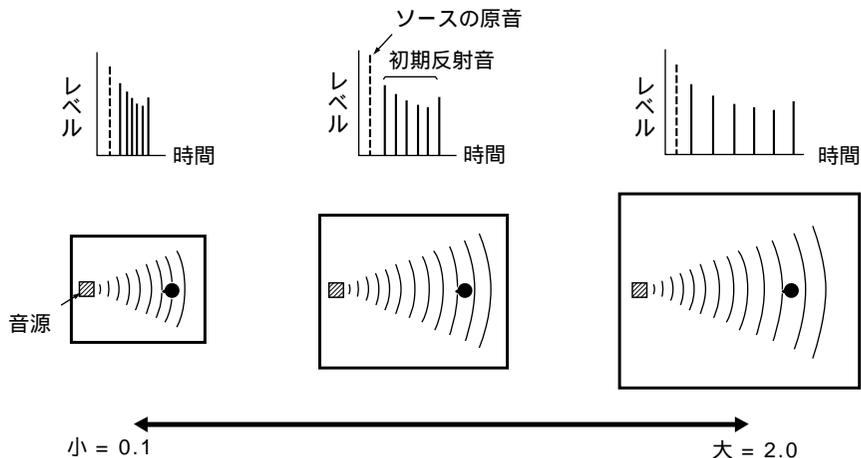
機能: 広がり感の調節。

可変範囲: 0.1 ~ 2.0

解説: 空間の広がり感をコントロールするパラメーターです。

値を大きくするほど広い空間になり、値を小さくするほど狭い空間になります。音が反射を繰り返すとき、壁と壁の間が広い大きなホールほど、反射音と反射音の時間的な間隔が長くなります。このことから、反射音どうしの時間間隔をコントロールすれば、広がり感を変えることができるということになります。

1.0で実測値そのまま、2.0にすると、一辺の長さが倍の空間になります。

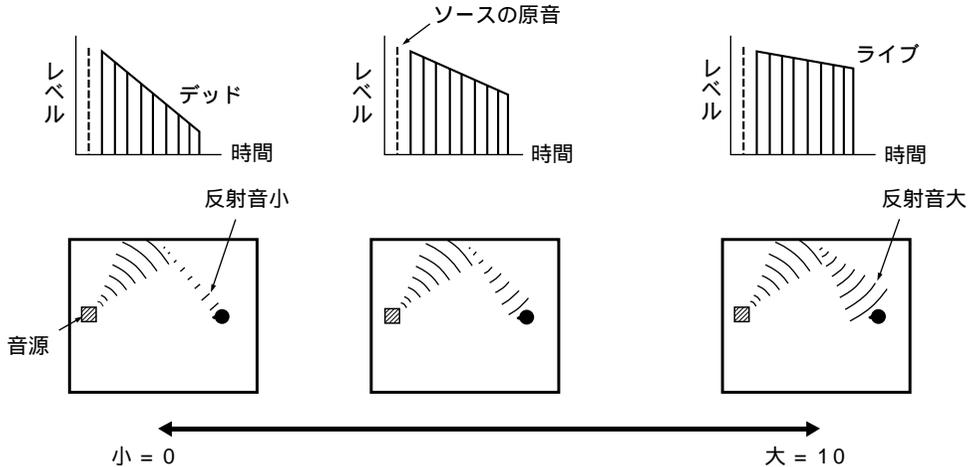


■ LIVENESS

機能: 響き具合の調節。

可変範囲: 0 ~ 10

解説: 初期反射音の減衰特性を決めるパラメーターです。値を大きくするほど、反響が多くライブな音場になり、値を小さくするほど反響が少ないデッドな音場になります。実際のホールでのライブ感/デッド感は、反射面の吸音特性によって決定され、反射音の減衰が早ければデッドに、遅ければライブに感じられます。



■ S.DELAY (surround delay)

機能: サラウンド音場の遅延時間を調節。

可変範囲: 0ms ~ 49ms(可変範囲は信号によります。)

解説: ドルビーデジタル/DTS入力時:

直接音とサラウンド音源との時間遅れをコントロールするパラメーターです。値を大きくするほどサラウンド音源が遅れて発生します。

ドルビーデジタル/DTS以外の入力時:

直接音とサラウンド音場との時間遅れをコントロールするパラメーターです。値を大きくするほどサラウンド音場が遅れて発生します。サラウンド音源は存在しません。

■ S.INIT.DLY (surround initial delay)

機能: サラウンド音場の遅延時間を調節。

(「フロント2チャンネル(または3チャンネル)+リア2チャンネル」以上で、ドルビーデジタルおよびDTS入力時のみ有効)

可変範囲: 1ms ~ 49ms

解説: 直接音とサラウンド音場との時間遅れをコントロールするパラメーターです。値を大きくするほどサラウンド音場が遅れて発生します。

■ S.ROOM SIZE (surround room size)

機能: サラウンド音場の拡がり感を調節。

可変範囲: 0.1 ~ 2.0

解説: サラウンド音場の拡がり感をコントロールするパラメーターです。値を大きくするほど、サラウンドの音場空間が広がります。

■ S.LIVENESS (surround liveness)

機能: サラウンド音場の響き具合を調節。

可変範囲: 0 ~ 10

解説: サラウンド音場の減衰量をコントロールするパラメーターです。値を大きくするほど、サラウンド音場の響きが強くなります。

■ RC.INIT.DLY (rear center initial delay)

機能: リアセンター音場の遅延時間を調節。
(6.1/ESデコーダーがオンのときのみ有効)

可変範囲: 1ms ~ 49ms

解説: 直接音とリアセンター音場との時間遅れをコントロールするパラメーターです。値を大きくするほどリアセンター音場が遅れて発生します。

■ RC.ROOM.SIZE (rear center room size)

機能: リアセンター音場の拡がり感を調節。
(ドルビーデジタルサラウンドEXおよびDTS ES入力時のみ有効)

可変範囲: 0.1 ~ 2.0

解説: リアセンター音場の拡がり感をコントロールするパラメーターです。値を大きくするほど、リアセンターの音場空間が広がります。

■ RC.LIVENESS (rear center liveness)

機能: リアセンター音場の響き具合を調節。
(6.1/ESデコーダーがオンのときのみ有効)

可変範囲: 0 ~ 10

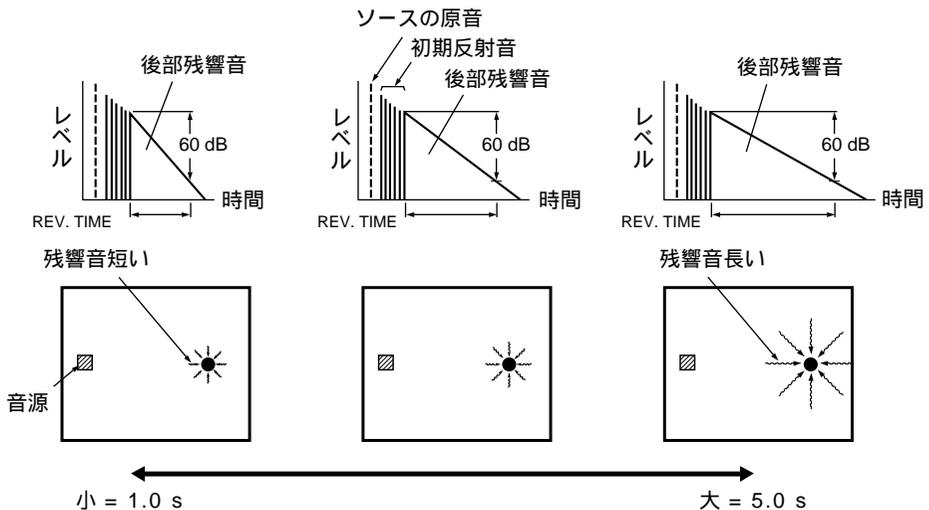
解説: リアセンター音場の減衰量をコントロールするパラメーターです。値を大きくするほど、リアセンター音場の響きが強くなります。

■ REV.TIME (reverberation time)

機能: 余韻の長さを調節。

可変範囲: 1.0s ~ 5.0s

解説: 後部残響音が減衰していく時間をコントロールするパラメーターです。
約1kHzの残響音が60dB減衰するのにかかる時間を基準にしています。値を小さくするほど、残響音が早く減衰します。
REV.TIMEを調節することにより、デッド気味のソースやリスニングルームに少し長めの残響時間を設定したり、逆にライブ気味のソースやリスニングルームには、短い残響時間を設定して自然な残響音となるようにコントロールすることができます。

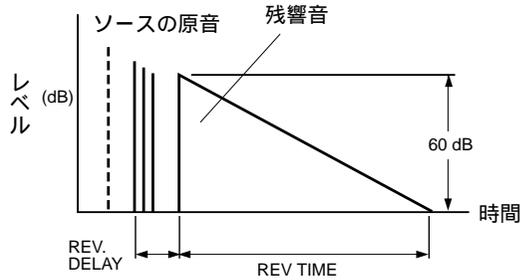


■ REV.DELAY (reverberation delay)

機能: 残響音の遅延時間を調節。

可変範囲: 0ms ~ 250ms

解説: 残響音が発生し始めるまでの時間です。値を大きくするほど、残響音が最初の初期反射音より遅れて発生するようになります。同じREV.TIMEでも、REV.DELAYを長くしていくと大きな空間の残響感になります。



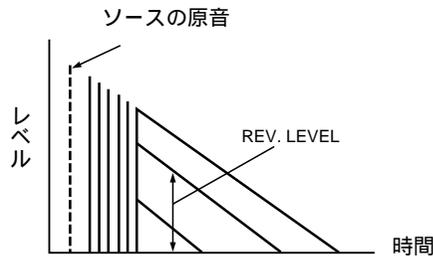
■ REV.LEVEL (reverberation level)

機能: 余韻の強さを調節。

可変範囲: 0% ~ 100%

解説: 後部残響音のレベルをコントロールするパラメーターです。

値を大きくするほど後部残響音のレベルが大きくなり、余韻が強く感じられます。値を小さくするほど後部残響音のレベルが小さくなり、余韻が弱く感じられます。



■ CT.DELAY (center delay)

■ LS.DELAY (left surround delay)

■ RC.DELAY (rear center delay)

■ RS.DELAY (right surround delay)

機能: 6チャンネルステレオモード時に上記チャンネルの遅延時間を調節するパラメーターです。

可変範囲: 0ms ~ 50ms

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に動作しなくなった場合は、下記の点をご確認ください。下記以外で異常が認められた場合や、対処しても正常に動作しない場合は、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買上店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせ、サービスをご依頼ください。

■ 全般

症状	原因	解決方法	参照ページ
電源を入れてもすぐに切れてしまう。	電源プラグの接続が不完全。	電源プラグをコンセントにしっかり差し込みます。	19
	スピーカーコードがショートした状態で電源を入れると保護回路により電源が切れることがある。	スピーカーの接続を確認してください。	19
電源スイッチを押しても電源が入らない。	電源プラグの接続が不完全。	電源プラグをコンセントにしっかり差し込みます。	19
音や画像が出ない。	接続が不完全。	接続を確認してください。	12 - 15
	再生するソースの選択が適切でない。	INPUT <I / O> キーまたは6CH INPUT キーで正しく選択をしてください。	24
	スピーカーがしっかり接続されていない。	しっかり接続してください。	16、17
	SPEAKERSスイッチ（A、B）が正しく設定されていない。	使用するスピーカーに対応するSPEAKERSスイッチをONに設定してください。	24
	ボリューム（音量）が絞られている。	ボリュームを大きくしてください。	25
	消音されている。	リモコンのMUTE（消音）キーまたはVOLUME +/-キーなどを押して消音を取り消し、音量を調節してください。	25
	CD-ROMなどが再生されるなど、本機で再生できないPCMオーディオ、ドルビーデジタルまたはDTS信号以外のデジタル信号が本機に入力されている。	本機で再生可能な信号のソースを再生してください。	
画像が表示されない。	本機とモニターがSビデオ接続されていない状態で、本機にSビデオ信号が入力されている。	モニターのSビデオ端子を本機のS VIDEO MONITOR OUT端子に接続してください。	14、15
音声が突然出なくなる。	ショートなどの原因により保護回路が作動している。	スピーカー配線が相互に接触していないことを確認してから、本機のスイッチをONに入れなおしてください。	16、17
	スリープタイマーが作動した。	電源をONにして、ソースを再生しなおしてください。	46
	消音されている。	リモコンのMUTE（消音）キーまたはVOLUME +/-キーなどを押して消音を取り消し、音量を調節してください。	25
片側チャンネルの音がほとんど出ない。	接続が不完全。	接続を確認してください。また、スピーカーコードの断線も確認してください。	12 - 17
	セットメニューの「3 L/R BALANCE」が正しく設定されていない。	バランスを正しく設定しなおしてください。	41

症状	原因	解決方法	参照ページ
エフェクトスピーカーから音が出ない。	EFFECT OFFになっている。	EFFECTキーを押して、EFFECT ONにしてください。	29
	ドルビーサラウンド、ドルビーデジタル、DTS信号の入っていないソースを再生している。	別の音場プログラムを選択してください。	61 - 64
	サンプリング周波数96kHzデジタル信号が本機に入力されている。		25
センタースピーカーから音が出ない。	センタースピーカーレベルが絞られている。	センタースピーカーのレベルを上げます。	45
	セットメニューの「1A CENTER SP」がNONEになっている。	センタースピーカーモードを正しく設定します。	38
	Hi-Fi DSPプログラムNo.1~7を選択している。	別の音場プログラムを選択してください。	62 - 64
	ドルビーデジタルまたはDTSソースにセンターチャンネル信号が含まれていない。		
リアスピーカーから音が出ない。	リアスピーカーレベルが絞られている。	リアスピーカーのレベルを上げます。	45
	音場プログラムのNo. 12でモノラルソースを再生している。	他の音場プログラムを選択して再生します。	61 - 64
サブウーファーから音が出ない。	セットメニューの「1E LFE/BASS OUT」をMAINにしたまま、ドルビーデジタルやDTSソースを再生している。	SWFRまたはBOTHに設定してください。	39
	セットメニューの「1E LFE/BASS OUT」をSWFRまたはMAINにしたまま、2チャンネルソースを再生している。	BOTHに設定してください。	39
	ソースに低音信号（90Hz以下）が含まれていない。		
低音の再生不良。	サブウーファーを使用していないのにセットメニューの「1E LFE/BASS OUT」がSWFRまたはBOTHに設定されている。	MAINに設定してください。	39
	セットメニューの各スピーカーの出力モード（メイン、センターまたはリア）がスピーカー構成に一致していない。	各スピーカーを適切な出力モードに設定してください。	37 - 39
リアセンタースピーカーから音が出ない。	セットメニューの「1D REAR CT SP」がNONEに設定されている。	LRGまたはSMLに設定してください。	39
ハム音が出る。	ピンプラグコードの接続が不完全。	ピンプラグをしっかりと差し込みます。	12 - 15
	レコードプレーヤーのGND端子が接続されていない。	レコードプレーヤーのアースコードを本機のGND端子に接続してください。	12、13
レコードの再生音が小さい。	MCカートリッジが装着されたレコードプレーヤーで再生されている。	MCヘッドアンプまたはMCトランスを介してレコードプレーヤーを本機に接続してください。	12

症状	原因	解決方法	参照ページ
音量を上げることができない。または、音が歪んでいる。	本機のREC OUT端子に接続された機器の電源がOFFになっている。	接続機器の電源をONにしてください。	12
サラウンド効果を付加した音を録音できない。	サラウンド効果を付加した音は録音できません。		35
デジタル録音できない。	ソースがアナログ入力端子に入力されている。	ソースをデジタル入力端子にも入力してください。	12 - 15
スピーカーレベルやパラメーターなどの設定値を変更できない。	セットメニューの「15 MEMORY GUARD」がONに設定されている。	OFFに設定してください。	44
本機が正常に作動しない。	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によってフリーズしている。	コンセントからAC電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	
“CHECK SP WIRES”が本体ディスプレイに表示された。	スピーカーケーブルがショートしている。	すべてのスピーカーケーブルが正しく接続されていることを確かめてください。	16、17
本機に接続しているテープデッキまたはCDプレーヤーにヘッドホンを差し込んで聴いていると、音質が劣化する。	本機の電源が切れている。	本機の電源をONにしてください。	
デジタル機器や高周波機器からの雑音を受けている。	本機がデジタル機器または高周波機器に接近しすぎている。	本機をそれらの機器から離して設置してください。	

■ FM/AM放送の受信

	症状	原因	解決方法	参照ページ
FM	ステレオ放送になると雑音が多く聞きづらい。	FM放送の特性により、放送局から離れた地域やアンテナ入力弱い場合に起きる。	アンテナの接続を確認してください。FM屋外アンテナを設置してください。	30、31
	FM専用アンテナを使用しているが、音が歪むなど受信感が悪い。	マルチパス（多重反射）などの妨害電波を受けている。	アンテナの高さや設置場所を変えてください。	30
	オート選局ができない。	FM放送の特性により、放送局から離れた地域やアンテナ入力弱い場合に起きる。	屋外アンテナを多素子のものに変えてみてください。またはマニュアル選局をしてください。	30、31
	プリセット選局ができない。	プリセット（メモリー）が消えている。	もう一度プリセットしてください。	32
AM	オート選局ができない。	電波が弱い、あるいはアンテナの接続が不完全。	AMループアンテナの方向を変えてください。マニュアル選局をしてみてください。	30、31
	“ジー” “ザー” “ガリガリ”などの連続雑音が入る	空電や雷による雑音、または蛍光灯、モーター、サーモスタット付きの電気器具の雑音を拾っている。	AM屋外アンテナを張り、アースを完全に取ると減少しますが、完全に除去するのは困難です。	30
	“ブンブン” “ヒューヒュー”などの雑音が入る	本機の近くでテレビを使用している。	本機からテレビを離してください。	

■ リモコン

症状	原因	解決方法	参照ページ
リモコンで操作できない。	リモコン操作範囲から外れている。	本体のリモコン受光窓から6m以内、角度30°以内の範囲で操作してください。	8
	受光部に日光や照明（インバーター蛍光灯・ストロボライトなど）が当たっている。	照明、または本体の向きを変えてください。	
	乾電池が消耗している。	乾電池を全て交換し、RESETキーを押してください。	3
	内部のマイコンが“フリーズ”している。	リモコンのRESETキーを押してください。	3
リモコンが新しい機能をラーニング（学習）しない。（TRANSMITインジケータが点灯も点滅もしない。）	本リモコンおよび他の機器のリモコンの電池が少なくなっている。	電池を交換し、本リモコンのRESETキーを押してください。	3
	2台のリモコン間の距離が離れすぎているか、接近しすぎている。	2台のリモコンを5cm～10cmの距離に配置してください。	55
	他の機器のリモコンの信号コードと本リモコンとの互換性がない。	ラーニング（学習）はできません。	55
	メモリー容量一杯になっている。	ラーニングされている不要な機能を消去しなければ、これ以上のラーニング（学習）はできません。	56、59、60
	内部のマイコンが“フリーズ”している。	リモコンのRESETキーを押してください。	3
音量調節のような継続的機能を学習したが、少し作動してすぐ停止してしまう。	学習プロセスが不完全。	TRANSMITインジケータがゆっくり点滅するまで他方のリモコンの機能ボタンを押し続けてください。	56

本機使用中に、強い外来ノイズ（落雷・過大な静電気など）を受けた場合や誤った操作をした場合などは、本機が正常に動作しないことがあります。このような場合は、電源を切った後に電源コードを抜き、約30秒後に再び接続して操作してください。

本機は音楽や映画などを再生する目的で設計されており、従って信号発生器やテストディスクの信号またはパソコン用のCD-ROMなどを再生しますと、本機の故障の原因となるばかりではなく、スピーカーをいためる原因となる場合があります。

デジタルオーディオインターフェース規格は民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなくスピーカーをいためる原因となる場合があります。

仕様

オーディオ部

定格出力(6、20Hz~20kHz、0.04%THD)
メイン L/R 100W+100W
センター 100W
リア L/R 100W+100W

実用最大出力(6、EIAJ、1kHz、10%THD)
メイン L/R 150W+150W
センター 150W
リア L/R 150W+150W

ダイナミックパワー(IHF、6/4/2)
メイン L/R 140/170/210W

ダンピングファクター(8、20Hz~20kHz)
メイン L/R 80以上

周波数特性
(CD-メイン L/R)..... 10Hz~100kHz、-3dB

全高調波歪率(8、20Hz~20kHz、50W)
メイン L/R 0.04%

S/N(IHF-Aネットワーク、入力ショート)
PHONO - REC OUT、2.5mV入力 80dB
CD - メイン L/R、EFFECT OFF、
250mV入力 100dB

残留ノイズ(IHF-Aネットワーク)
メイン L/R 150μV以下

チャンネルセパレーション
(1kHz/10kHz、5.1k ターミネート)
CD-メイン L/R 60dB/45dB

トーンコントロール(メイン L/R)
BASS ±10dB/50Hz
TREBLE ±10dB/20kHz
BASS EXTENTION +6dB/60Hz

ヘッドホン出力/インピーダンス 150mV/100

入力感度/インピーダンス(アナログ)
CD、他 150mV/47k
PHONO 2.5mV/47k
6CH INPUT 150mV/40k - 47k

出力電圧/インピーダンス(アナログ)
REC OUT 150mV/0.9k
PRE OUT 2.6V/1.2k
SUB WOOFER 4.0V/1.2k

ビデオ部

信号方式 NTSC

ビデオレベル
VIDEO、コンポジット 1Vp-p/75
S-VIDEO
Y 1Vp-p/75
C 0.286Vp-p/75
COMPONENT VIDEO
Y 1Vp-p/75
Pb/Cb、Pr/Cr 0.7Vp-p/75

S/N 50dB

周波数特性(MONITOR OUT)
VIDEO、S-VIDEO 5Hz~10MHz -3dB
COMPONENT VIDEO DC~30MHz -3dB

F Mチューナー部

受信周波数 76.0MHz~90.0MHz
50dB S/N感度(1kHz、100%変調)
モノ 2.0μV(17.3dBf)
ステレオ 25μV(39.2dBf)

実行選択度(±400kHz)..... 70dB
S/N(IHF、モノ/ステレオ)..... 76dB/70dB
歪率(1kHz、モノ/ステレオ)..... 0.2%/0.3%
ステレオセパレーション(1kHz)..... 45dB
周波数特性 20Hz~15kHz +0.5、-2dB

A Mチューナー部

受信周波数 531kHz~1611kHz
実用感度 300μV/m

総合

電源電圧 AC100V、50/60Hz
消費電力 約230W
待機時 約1.2W

ACアウトレット(電源スイッチ連動、合計100W)..... 2
寸法(幅X高さX奥行き)..... 435X171X432mm

重量 15kg

付属品 リモコン
..... 乾電池(単3X3)
..... A Mループアンテナ
..... F M簡易アンテナ
..... リモコン操作チャート

仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

本機は「高調波ガイドライン」適合品です。

「高調波ガイドライン」適合品とは、通産省・資源エネルギー庁の定めた「家電・汎用品高調波抑制対策ガイドライン」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルを考慮して設計・製造した製品です。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただけるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

保証期間

お買上げ日より1年間です。

保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

修理料金の仕組み

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年(テープデッキは6年)です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。

品番、製造番号はAV製品の背面もしくは底面に表示してあります。

スピーカーの修理

スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。

本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお勧めします。

摩耗部品の交換は必ずお買上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

ヤマハAV製品の機能や取扱いに関するお問い合わせは

お客様ご相談センター

TEL (0570) 01 - 1808 (ナビダイヤル)

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHSからは下記番号におかけください。

TEL (053) 460 - 3409

FAX (053) 460 - 2777

住所 〒430-8650

静岡県浜松市中沢町10-1

ご相談受付時間 10:00~12:00, 13:00~18:00

(土・日・祝日及び弊社が定めた日は休業とさせていただきますのであらかじめご了承ください。)

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問合せは

(ヤマハ電気音響製品サービス拠点)

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
TEL (011) 512 - 6108

仙台 〒984-0015 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F
TEL (022) 236 - 0249

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1番1号
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
TEL (03) 5762 - 2121

浜松 〒435-0016 浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内
TEL (053) 465 - 6711

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2-1-2
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
TEL (052) 652 - 2230

大阪 〒565-0803 吹田市新産屋下1-16
ヤマハ(株)千里丘センター内
TEL (06) 6877 - 5262

広島 〒731-0113 広島市安佐南区西原6-14-14
TEL (082) 874 - 3787

四国 〒760-0029 高松市丸亀町8-7
(株)ヤマハミュージック神戸 高松店内
TEL (087) 822 - 3045

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL (092) 472 - 2134

愛情点検



永年ご使用のAV製品の点検を!

こんな症状はありませんか?

電源コード・プラグが異常に熱い。
コゲくさい臭いがする。
電源コードに深いキズが変形がある。
製品に触れるとビリビリと電気を感じる。
電源を入れても正常に作動しない。
その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。



ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中沢町10-1

ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

<http://www.yamaha.co.jp/audio/>

リモコン操作チャート

本機を操作する

MACROスイッチ
マクロ機能を使うときはONの位置にする。
マクロ機能を使わないときはOFFの位置にする。

STANDBYキー
電源を切るときに押す。

SYSTEM POWERキー
本機の電源を入れるときに押す。

表示窓
入力や操作状態を表示する。

SOURCE SELECT
△/▽キー
インプットセクターの代わりにこのキーを押しても操作できる機器が選べる。

10KEY/DSPスイッチ
本機を操作するときはDSPの位置にする。音場プログラムが選べる。

機器操作キー
インプットセクターで選んだ機器の基本的な操作ができる。

LEVELキー
スピーカーレベルの調整モードに入る。

ON SCREENキー
押すたびにフル表示 ショート表示 表示オフが切り換わる。

SLEEPキー
スリープタイマーを設定する。

TESTキー
テストトーンを出力する。

インプットセクター
再生するソースを選択する。機器操作キーが選ばれたソースの操作キーへ切り換わる。

6CH INPUTキー
6CH INPUT端子に接続した外部デコーダーからのディスクリット音声を入力する。

機器操作キー
インプットセクターで選んだ機器の基本的な操作ができる。

音場プログラムキー
音場プログラムを選ぶ。

MUTEキー
押すと消音する(-∞dB)。もう一度押すと、もとの音量に戻る。

VOLUMEキー
+キーを押すとスピーカーシステム全体の音量が大きくなり、-キーを押すと小さくなる。

EFFECTキー
音場効果をオン/オフする。

PARAMETER/SET MENUスイッチ
パラメーターモードとセットメニューモードを切り換える。

パラメーター・セットメニューカーソルキー
パラメーターやセットメニューの選択・設定に使う。

送受信窓

ラーニングする、メーカーコードをセットアップする、マクロ設定する

ラーニングする

- 1 インプットセクター、AまたはBキーでラーニングする機器を選ぶ。
オプション面を選ぶには、SELECT ▽キーで表示窓に「OPTN」を表示させる。
- 2 LEARNボタンを押し、すぐに離す。
- 3 ラーニングする本リモコンのキーを押す。
- 4 相手方のリモコンのキーを押す。
- 5 LEARNボタンを押して終了する。

メーカーコード名をセットアップする

- 1 インプットセクター、AまたはBキーでセットアップする機器を選ぶ。
- 2 表示窓に「SETUP」と機器名が交互に表示されるまでLEARNボタンを押す。
- 3 カーソルキーの△/▽を押してメーカーコード名を選ぶ。
機器の種類(ライブラリー)を変更するには:カーソルキーの</>を押して機器の種類を変更し、カーソルキーの△/▽を押してメーカーコード名を選ぶ。
- 4 LEARNボタンを押して終了する。

マクロ設定する

- 1 MACROボタンを押す。
- 2 設定するマクロキーを押す。
- 3 各操作をラーニング(またはセットアップ)しておいたキーを、1個ずつ押す。
- 4 MACROボタンを押して終了する。

LEARNボタン
MACROボタン

マクロキー

表示窓

SOURCE SELECT
△/▽キー

インプットセクター

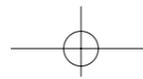
カーソルキー

機器操作キー



機器操作キーにはヤマハのリモコン対応DVD、LD、CD、MD、CD-R、TUNER(本機)の基本的な操作の信号があらかじめプリセットされています。これらとOPTN(オプション)面も含めて計14面にラーニングすることができます。メーカーコード名はオプション面を除く13面にセットアップできます。

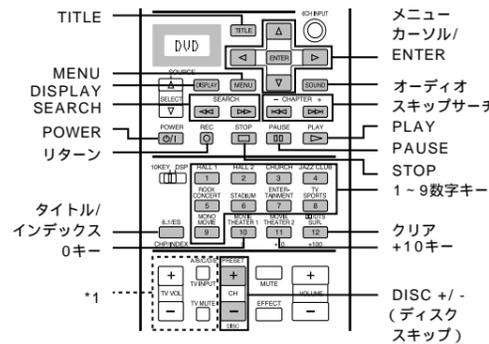
詳しくは、取扱説明書をご覧ください。



機器個別の操作をする

DVDプレーヤーを操作する

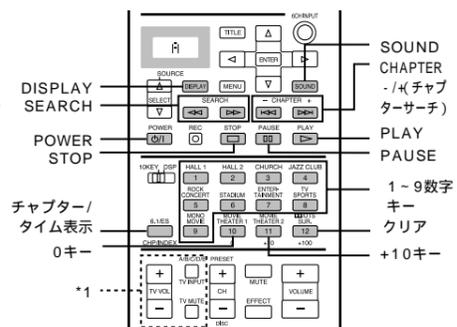
- 1 インプットセレクターのDVDを押します。
- 2 機器操作キーで操作します。



*1 D-TV/LD面またはPHONO面にお手持ちのテレビのメーカーコードをセットアップしている場合、これらのキーでテレビを操作できます。D-TV/LD面とPHONO面の両方にセットアップしているときは、D-TV/LD面の信号が有効となります。

LDプレーヤーを操作する

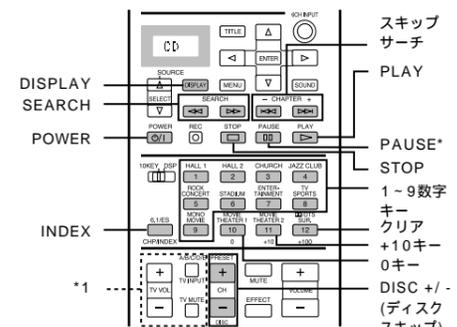
- 1 Aキーを押します。
- 2 機器操作キーで操作します。



*1 D-TV/LD面またはPHONO面にお手持ちのテレビのメーカーコードをセットアップしている場合、これらのキーでテレビを操作できます。D-TV/LD面とPHONO面の両方にセットアップしているときは、D-TV/LD面の信号が有効となります。Aキーはインプットセレクターではありません。LDプレーヤーの操作面に切り換えるだけです。

CDプレーヤーを操作する

- 1 インプットセレクターのCDを押します。
- 2 機器操作キーで操作します。

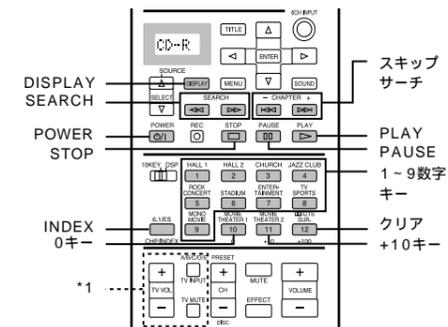


* (YAMAHA: 一時停止/停止)

*1 D-TV/LD面またはPHONO面にお手持ちのテレビのメーカーコードをセットアップしている場合、これらのキーでテレビを操作できます。D-TV/LD面とPHONO面の両方にセットアップしているときは、D-TV/LD面の信号が有効となります。

CDレコーダーを操作する

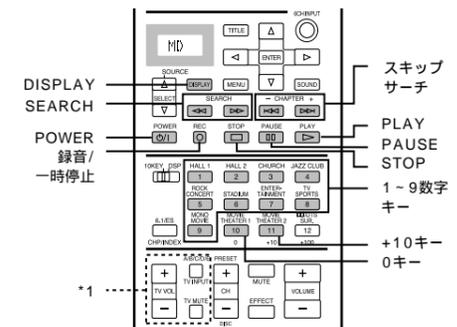
- 1 インプットセレクターのCD-Rを押します。
- 2 機器操作キーで操作します。



*1 D-TV/LD面またはPHONO面にお手持ちのテレビのメーカーコードをセットアップしている場合、これらのキーでテレビを操作できます。D-TV/LD面とPHONO面の両方にセットアップしているときは、D-TV/LD面の信号が有効となります。

MDレコーダーを操作する

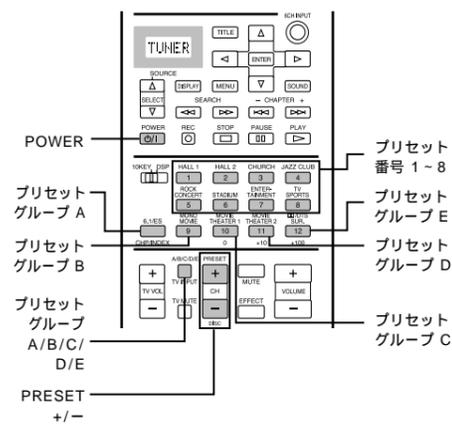
- 1 インプットセレクターのMD/TAPEを押します。
- 2 機器操作キーで操作します。



*1 D-TV/LD面またはPHONO面にお手持ちのテレビのメーカーコードをセットアップしている場合、これらのキーでテレビを操作できます。D-TV/LD面とPHONO面の両方にセットアップしているときは、D-TV/LD面の信号が有効となります。

本機のチューナーを操作する

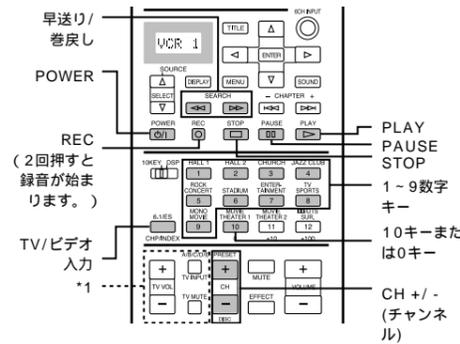
- 1 インプットセレクターのTUNERを押します。
- 2 機器操作キーで操作します。



ビデオデッキを操作する

VCR 1、2/DVR、V-AUXにメーカーコード名をセットアップした後で操作できます。

- 1 インプットセレクターのVCR 1、VCR 2/DVRを押します。
- 2 機器操作キーで操作します。

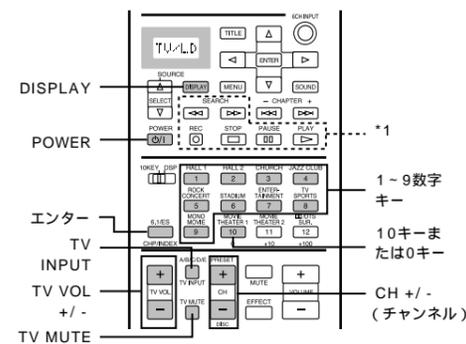


*1 D-TV/LD面またはPHONO面にお手持ちのテレビのメーカーコードをセットアップしている場合、これらのキーでテレビを操作できます。D-TV/LD面とPHONO面の両方にセットアップしているときは、D-TV/LD面の信号が有効となります。

テレビを操作する

D-TV/LD、PHONOにメーカーコード名をセットアップした後で操作できます。

- 1 インプットセレクターのD-TV/LDを押します。
- 2 機器操作キーで操作します。

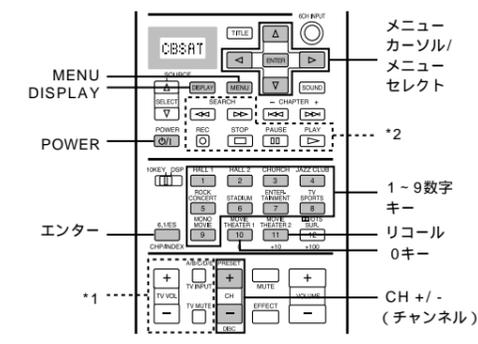


*1 VCR 1にメーカーコードをセットアップするとこれらのキーでVCR 1の操作ができます。D-TV/LD面でLDプレーヤーを操作する場合は、D-TV/LD面にLDプレーヤーのメーカーコードをセットアップし、PHONO面にテレビのメーカーコードをセットアップしてください。

ケーブルTVチューナーなどを操作する

CBL/SAT、BIにメーカーコード名をセットアップした後で操作できます。

- 1 インプットセレクターのCBL/SATを押します。
- 2 機器操作キーで操作します。



*1 D-TV/LD面またはPHONO面にお手持ちのテレビのメーカーコードをセットアップしている場合、これらのキーでテレビを操作できます。D-TV/LD面とPHONO面の両方にセットアップしているときは、D-TV/LD面の信号が有効となります。
*2 VCR 1にメーカーコードをセットアップすると、これらのキーでVCR 1の操作ができます。Bキーはインプットセレクターではありません。衛星放送チューナーの操作面に切り換えるだけです。

V-AUX入力とPHONO入力およびBキーの各機器操作キーについて

各機器操作キーはすべて空キーです。ラーニングやメーカーコードをセットアップしてから操作できます。